鐵道省文書

部門	類別	細別	結了年	滿期年	收藏所	備考
第一門 監督	四 軌道 イ 特許	門司築港	自大正十一年 至昭和十一年	永年	書庫番號 營業廢止	巻一

保存種別 第一種

国立公文書館
運輸省
分類 49
排架番号 3A 22-2 267

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

合綴ノ為改装

昭和十三年七月十一日
件數
三十三件

国立公文書館
National Archives of Japan

第一門 監督

四 軌道

イ 特許

倉庫	書棚	冊號

卷一

順號	番號 年月日	件名	備考
一		門司築港	自大正十一年 至昭和三年 營業廢止
二		〃	自昭和四年 至昭和十一年 〃

鐵道省

国立公文書館 National Archives of Japan

第十門 地方鐵道及軌道

三、軌道

門司築港 自大正十一年 至昭和三年 巻一

倉庫	書棚	棚號

順號	番號 月日	件名	備考
一	九、四 監一六〇四	田ノ浦日ノ出町間電氣軌道敷設特許ノ件	
二	一〇、三	監第一六八四號特許状並命令書請書進達ノ件	
		大正十二年	
三	二、二 監一六九	軌道工事一部施行ノ件	
四	二、五	監第一六八四號ニ関スル電氣関係許可通牒	
五	一〇、五	仮引込線敷設報告ノ件	

鐵道省

順號	番號 月日	件名	備考
六	一一、一六 監三三四七	電力供給ヲ受クルノ件	
七	一二、四 監三四五八	工事方法変更ノ件	
八	一二、四 監三四六二	車輌構造ノ件	
九	一二、一二 監三五三五	工事方法変更ノ件	
一〇	一二、一二 監三五三六	軌道一部工事施行ノ件	
一一	一二、一八	軌道中心線変更ノ件	
一二	一二、一八	軌道運輸開始許可報告	
	監	大正十三年	
一三	七、一〇 監一三六三	客車設計ノ件	
一四	九、四	臨時停留場設置認可報告ノ件	
一五	一〇、二七	車庫線位置変更ニ関スル通牒ノ件	

国立公文書館
National Archives of Japan

順號	月日	番號	件名	備考
一六	一〇、一		支配人抹消登記届	
一七	一〇、一		監査役重任登記届	
一八	一〇、一		仝　死亡登記届	
一九	一〇、一		本店住所変更登記届	
二〇	二、二六		商業登記終了届	
			大正十五年	
二一	八、一九	監八〇九	軌道延長線敷設特許ノ件	
			昭和二年	
二二	九、三〇	監二五一五	門司、田ノ浦間工事施行認可申請期限延期ノ件	
			昭和三年	
二三	二、七		車庫線位置変更期限延期願返付ノ件	
二四	六、一三	監一〇七	門司、田ノ浦間工事施行認可申請期限延期ノ件	

鐵道省

門司築港會社軌道敷設特許ノ件

一六八四
四八九
一
十一
八
十四

（福岡縣經由）

特許状

門司築港株式會社

右ノ者ニ對シ軌道ヲ敷設スルコトヲ特許シ旅客運輸ノ業ヲ營ムコトヲ許可ス仍テ別紙命令書ノ條項ヲ遵守スヘシ

十一年九月一日

鐵道大臣
内務大臣

案ノ二

命令書

（別紙ノ通）

案ノ三

訓第一六八四号

福岡県知事

大正十一年四月十二日附土第八九四二号ヲ以テ進達セル門司築港株式会社軌道敷設願ニ対シ別紙特許状並命令書ヲ下付候条交付ノ上該命令書ニ掲クル条項ノ実施及監視ノ責ニ任スヘシ但シ其ノ処分上ニ付テハ左ノ通心得ヘシ

右訓令ス

十一年九月一日

鉄道大臣

内務大臣

一、第五條（明治四十四年十一月六日丞甲第一四六二号、大正二年十二月二十八日丞甲第四八一号通牒及同十年一月十三日訓第八五四号訓令ノ場合ヲ除ク）

第十條及第二十四條中運送貨ニ関スル事項

第三十七條、　第二十八條第一項

以上稟伺

一、第五條ニ依ル工事施行認可及交付ノ年月日

第六條主文、第九條、

第十條及第二十四條中運送貨以外ノ事項、

第十一條、　第十九條、　第二十條、

第二十一條、　第二十五條、　第三十條、

第三十四條、　第三十六條、　第三十九條、

以上報告

案ノ四（官報掲載）

軌道特許状下付　大正十一年九月一日

門司築港株式會社ニ對シ福岡縣門司市日ノ出町ヨリ同市田ノ浦間ニ電氣ヲ動力トスル軌道敷設特許状ヲ下付セリ

（鐵道省
内務省）

通牒案

番号
年九月九日

監督局長
土木局長

遞信省電氣局長宛

九六

通牒

本年九月一日監第一六八四号ヲ以テ門司築港株式會社ニ對シ福岡縣門司市日ノ出町ヨリ同市田ノ浦ニ至ル一哩八鎖間ニ電氣ヲ動力トスル軌道敷設特許相成候

国立公文書館
National Archives of Japan

命令書

第一條 今般門司築港株式會社ニ對シ軌道ヲ敷設スルコトヲ特許シ旅客運輸ノ業ヲ營ムコトヲ許可シタル軌道ノ線路ハ左ノ如シ

一、福岡縣門司市日ノ出町九丁目清見町一丁目境ヨリ同市田ノ浦百七拾七番地ノ二地先ニ至ル市道

五十年 月日迄ニ

第二條 營業年限ハ大正六拾壹年八月三十一日迄トス

第三條 原動力ハ電氣トシ其ノ方式ハ單線架空式トス

第四條 電氣ニ關スル事項ニ付テハ明治四十四年法律第五十五號電氣事業法ノ規定ニ依ルヘシ但シ同法第三條ノ出願ハ大正十二年二月二十八日迄ニ之ヲ爲スヘシ

六月日迄ニ

十月日迄ニ

第五條 特許ヲ受ケタル者ハ大正十二年六月三十日迄ニ左ノ各號ニ準據シ線路實測圖(平面圖ハ縮尺二千分ノ一、縱斷面圖ハ縱二百分ノ一横二千分ノ一、横斷面圖ハ二百分ノ一トス)、工事方法書、圖面及工費豫算書ヲ調製シ福岡縣知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

一 軌間ハ内法四呎八吋半トス

二 軌條ハ鋼鉄製ノグルーブ型又ハ工字形ノモノヲ用キ其ノ重量ハ一碼ニ付五拾封度以上トス

三 軌條間ノ全部及其ノ左右各一尺五寸通ハ木石砂利其ノ他適當ノ材料ヲ敷キ鐵軌面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ

四 軌道ヲ敷設スル道路ハ左ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

單線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連檐ノ場所又ハ連檐スヘキ場所ハ五間以上其ノ他ノ場所ハ四間半以上

複線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連檐ノ場所又ハ連檐スヘキ場所ハ八間以上其ノ他ノ場所ハ六間以上

五　軌道ハ兩側人家連檐ノ場所又ハ連檐スヘキ場所ニ於テハ道路ノ中央ニ之ヲ敷設スヘシ但シ車體外一側ニ各二間以上ノ幅員ヲ存スルコト能ハサルトキハ其ノ一側ニ二間以上他ノ一側ニ一間以上ノ幅員ヲ存スル點迄一方ニ偏シテ之ヲ敷設スルコトヲ得

前項以外ノ場所ニ於テハ道路ノ一方ニ偏シ路端ヨリ車體外各三尺以上ノ地ヲ餘シテ軌道ヲ敷設スヘシ

但シ~~國道及縣道ニ在テハ~~車體外ノ一側ニ二間半以上ノ幅員ヲ存スルコトヲ要ス

道路ノ屈折部ニ於ケル車體外ノ幅員亦前二項ニ同シ

井戸、立木、電柱、街燈、郵便函、其ノ他道路上ノ建設物ヨリ其ノ側ノ路端迄ノ距離、溝渠敷地及人道車馬道ヲ區別セル道路ニ在テハ其ノ人道ハ前三項ノ幅員ニ算入セス

六　道路ノ一方ヨリ他ノ一方ニ軌道線ヲ移ス箇所ハ木又ハ石ヲ用キテ踏切ヲ設クヘシ

七　軌道カ道路ヲ横斷スル箇所亦前號ニ同シ

八　橋梁ノ構造、幅員及耐力ハ福岡縣知事ノ指定スル所ニ依ルヘシ

九　軌道敷設ノ爲ニ生スル道路面及軌道内ニ於ケル雨水ノ滯留ニ付テハ完全ナル排除ノ方法ヲ設クヘシ

十　勾配ハ二十五分ノ一ヲ超ユヘカラス

十一　屈曲ノ半徑ハ三十六尺ヲ以テ最小限トス

十二　車輛ニハ相當ノ避難器、制動器及信號器ヲ裝置スヘシ

十三　地下ニ埋設シタル公衆通信用ノ電信又ハ電話線路、水管、瓦斯管其ノ他公共用ノ地下工作物ト交叉若ハ接近シテ軌道ヲ敷設スルトキハ其ノ線路又ハ工作物ヲ毀損セサル爲適當ノ豫防裝置ヲ爲スヘシ

十四　各種ノ人孔(マンホール)制水瓣蓋等ニ接近シテ軌道ヲ敷設スルトキハ操業上障害ヲ與ヘサル爲適當ノ距離ヲ保タシムヘシ

十五　特許ヲ受ケタル者ニ於テ新設スヘキ軌道敷ハ車體外左右各二尺以上ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

~~前項第三號乃至第六號及第九號ハ新設軌道敷ニ之ヲ適用セス~~

第六條　特許ヲ受ケタル者ハ前條ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ工事ニ着手シ着手ノ日ヨリ一箇年内ニ竣功スヘシ但シ天災其ノ他正當ノ事由ニ因リ本條ノ期間内ニ工事ニ着手シ又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ相當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第七條　特許ヲ受ケタル者ニ於テ擴築シタル道路及改築シタル橋梁ハ竣功ト同時ニ無償ニテ國又ハ公共團體ノ有ニ歸ス

第八條　軌道敷設ノ爲道路ノ地表又ハ地下ニ於ケル建設物ノ移轉其ノ他ノ工事ヲ要スルトキハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ施行シ又ハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ

第九條　工事ノ全部又ハ一部竣功シ運輸ヲ開始セムトスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ知事ノ許可ヲ受ク

福岡縣

ヘシ
工事カ工事方法書ニ違反スルモノト認ムルトキハ福岡縣知事ハ其ノ改築又ハ停止ヲ命スヘシ

第十條　乗客ノ定員貨物ノ制限運送賃及發車竝營業時間ハ福岡縣知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第十一條　車掌及運轉手ノ資格及採用ノ方法ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ定メ福岡縣知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第十二條　車輛ハ一輛毎ニ福岡縣知事ノ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條　車輛進行ノ速度ハ道路上ニ在リテハ一時間八哩ヲ超過セシムルコトヲ得ス以内専用軌道敷ニ在リテハ踏切其ノ他危險ノ虞ナキ場合ヲ除クノ外一時間　哩以内トス

第十四條　車輛ハ二車又ハ二車以上ヲ聯結シテ進行セシムルコトヲ得ス
進行中ハ各車ノ間ニ相當ノ距離ヲ保タシムヘシ
日出前日沒後ハ五町以上ノ距離ニ於テ容易ニ認メ得ヘキ燈火ヲ車輛ノ前後ニ點スヘシ

第十五條　乗客ノ昇降ノ為ニスルノ外故ナク道路上ニ停車セシムルコトヲ得ス但シ乗客昇降ノ場合ト雖道路ノ交叉部屈曲部及橋梁上ニ於テ停車セシムルコトヲ得ス

第十六條　福岡縣知事ノ指定シタル場所ニハ特ニ信號人ヲ置キ其ノ場所ニ於テハ進行ノ速度ハ一時間五哩ヲ超過セシムルコトヲ得ス

第十七條　左ニ掲ケタル箇所ハ福岡縣知事ノ命スル所ニ従ヒ特許ヲ受ケタル者ニ於テ其ノ改築、修繕、掃除、撒水及除

雪ヲ爲シ又ハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ

一　道路及横切下水ハ軌條間ノ全部及其ノ左右各二尺

通

二　橋梁ノ改築又ハ修繕ハ前號ニ定メタル幅員ト橋梁ノ幅員トノ比例ヲ以テ標準トシ其ノ橋梁ノ改築又ハ修繕費ノ全部ニ對シ特許ヲ受ケタル者ニ於テ負擔スヘキ費用ノ歩合ヲ定ム橋梁ノ掃除、撒水及除雪ハ前號ニ依ルモノトス

特許ヲ受ケタル者ノ軌道ト他ノ軌道ト交叉スル場合ニ於テハ其ノ交叉面ニ係ル前項ノ義務ハ關係者ノ分擔トス

第十八條　車輛ハ常ニ清潔ニ保持シ其ノ修繕ヲ怠ルヘカラス

第十九條　福岡縣知事ハ何時ニテモ軌道、車輛其ノ他ノ工作物ヲ監査シ危險ナリト認ムルトキハ改築、修補ヲ命シ其ノ命ヲ執行シ終ルマテ其ノ使用又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險切迫ナリト認ムルトキハ福岡縣知事ハ自ラ其ノ改築、修補ヲ爲スコトアルヘシ

第二十條　福岡縣知事ハ何時ニテモ營業ニ關スル實況ヲ監査シ此ノ命令書ノ條項又ハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違反セル事實アルトキハ之ヲ督責シ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ更正スルマテ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十一條　特許ヲ受ケタル者ハ鐵道大臣及内務大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ全部又ハ一部ノ營業ヲ廢止スルコト

ヲ得ス

第二十二條　特許ヲ受ケタル者ハ福岡縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業ヲ休止スルコトヲ得ス

第二十三條　鐵道大臣及内務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ原動力ノ變更、其ノ方式、設備、線路若ハ敷設順序ノ變更又ハ交通上必要ナル線路ノ新設若ハ延長又ハ道路ノ擴築又ハ複線ノ敷設若ハ撤去又ハ一部ノ線路ノ廢止ヲ命スルコトアルヘシ

第二十四條　福岡縣知事ハ乘客ノ定員、貨物ノ制限、運送賃及發車竝營業時間ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條　道路、橋梁、水道其ノ他公共事業ノ爲必要アルトキハ福岡縣知事ハ軌道其ノ他ノ工作物ノ改築若ハ一時撤去ヲ命シ又ハ一時車輛ノ運轉ヲ停止スルコトアルヘシ

交通上危險ノ虞アルトキハ福岡縣知事ハ其ノ必要ノ部分ニ限リ一時車輛ノ運轉ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十六條　軌道ヲ交叉シ若ハ之ニ接續シ又ハ之ニ接近シテ道路、橋梁、運河、鐵道又ハ他ノ軌道ヲ設クルコトアルモ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十七條　道路ニ敷設セル工作物其ノ他營業上必要ナル物件ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ福岡縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ義務履行ノ擔保ト爲スコトヲ得ス

第二十八條　鐵道大臣及内務大臣又ハ福岡縣知事ハ公益上必要ト認ムル事項ヲ特許ヲ受ケタル者ニ命スルコトアルヘシ

国立公文書館 National Archives of Japan

鐵道大臣及内務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ此ノ命令書ノ條項ヲ變更スルコトアルヘシ

第二十九條　將來定メラルル所ノ法令ノ結果トシテ此ノ命令書ノ條項ニ變更ヲ來スコトアルモ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十條　特許ヲ受ケタル者ハ半年毎ニ營業ノ報告書ヲ調製シ三十日内ニ福岡縣知事ニ差出スヘシ福岡縣知事ハ何時ニテモ營業ニ關スル帳簿、書類等ヲ檢閲スルコトアルヘシ

第三十一條　國又ハ公共團體ニ於テ公益ノ爲軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ全部若ハ一部ノ專用又ハ買收ヲ爲サムトスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ對シ補償ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ物件ノ範圍ニ付爭アルトキハ鐵道大臣及内務大臣之ヲ定ム

第三十二條　前條全部專用ノ場合ニ於テ月ヲ以テ專用期間ヲ算スルトキハ前年ニ於ケル平均收入月額又ハ前年ノ相當月ノ收入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定メ日ヲ以テ專用期間ヲ算スルトキハ前月ニ於ケル平均收入日額又ハ前年若ハ前月ノ相當日ノ收入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定ム但シ其ノ選擇ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前條一部專用ノ場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ノ選擇スル所ニ從ヒ全部ノ延長ニ對スル專用部分ノ延長ノ比例ヲ以テ全部專用ノ場合ニ於ケル補償金額ニ乘シ又ハ前項ト同一ノ方法ニ依リ其ノ專用部分ニ對スル補償金

額ヲ定ム

前條全部買收ノ場合ニ於テハ年率七分ヲ以テ前五箇年間ノ純益平均年額ヲ除シ補償金額ヲ定ム但シ其ノ地方ニ於ケル金利年率ニ著シキ變更ヲ來シタルトキハ鐵道大臣及内務大臣ハ本項ノ年率ヲ變更スルコトアルヘシ

役員賞與ノ性質ヲ有スル支出ハ前項純益金ノ内ニ算入ス

前條一部買收ノ場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用シテ補償金額ヲ定ム

開業ノ後本條ニ規定シタル時日ヲ經過セサルトキハ既往營業時日ヲ標準トシテ平均額ヲ算出ス

第三十三條　他ノ軌道營業者ニ於テ鐵道大臣及内務大臣ノ許可ヲ得テ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ一部ヲ共同使用セムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ其ノ共同使用ノ條件ハ協議ノ上之ヲ定メ協議調ハサルトキハ鐵道大臣及内務大臣之ヲ定ム

第三十四條　左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ

一　第四條但書ノ期間内ニ出願ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ許可ヲ得サルトキ若ハ其ノ許可カ效力ヲ失ヒタルトキ

二　第五條ノ期間内ニ認可ヲ申請セサルトキ又ハ其ノ認可ヲ得サルトキ

三　第六條ノ期間内ニ工事ニ着手セサルトキ

四　全部ノ營業ヲ廢シタルトキ

五　會社解散シタルトキ

六　營業滿期ノトキ

第五條ノ認可申請以前ニ於テ會社成立セサルトキハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ

創立總會ニ於テ此ノ命令書ノ條項ヲ遵守シテ營業スルコトヲ議決スルニ非サレハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ

第三十五條　前條ニ掲ケタル場合ノ外特許ヲ受ケタル者ニ於テ此ノ命令書ノ條項又ハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキハ鐵道大臣及内務大臣ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ解クコトアルヘシ

特許ヲ受ケタル者カ不可抗力ニ因ラスシテ滿一箇月間工事ヲ休止シ更ニ起工セサルトキ亦前項ニ同シ

第三十六條　特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ福岡縣知事ハ期限ヲ定メテ道路ヲ原形ニ復セシムルコトアルヘシ

第三十七條　特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ國又ハ公共團體カ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ全部又ハ一部ヲ買收セムトスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ最近ノ財產目錄ニ記載シタル物件ノ價格ヲ以テ之ヲ賣渡スヘシ」

買收者ニ於テ前項ノ價格ニ關シ異議アルトキハ其ノ申請ニ依リ鐵道大臣及内務大臣ハ福岡縣知事、買收者及特許ヲ受ケタル者ヲシテ各三名ノ評價委員ヲ選定セシメ其ノ意見ヲ徵シテ其ノ價格ヲ定ム

本條ノ場合ニ於テハ第三十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十八條　特許ヲ受ケタル者ハ鐵道大臣及内務大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第三十九條　特許ヲ受ケタル者ニ於テ此ノ命令書及此ノ

命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依リ履行スヘキ義務ヲ履行セサルトキハ福岡縣知事ハ自ラ代テ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第四十條 特許ヲ受ケタル者カ許可ヲ得スシテ營業ヲ休止又ハ全部若ハ一部ノ營業ヲ廢止シタルトキハ鐵道大臣及內務大臣ハ市町村ヲシテ營業年限內特許ヲ受ケタル者ノ計算ヲ以テ營業ヲ爲サシメ又ハ他人ヲシテ無償ニテ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ヲ使用シ營業ヲ爲サシムルコトアルヘシ

本條ノ場合ニ於テハ第三十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十一條 此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ履行スヘキ義務ノ爲ニ生スル費用竝第十九條第二項及第三十九條ノ費用ハ總テ特許ヲ受ケタル者ノ負擔トス

此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ因リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ受クルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十二條 軌道ノ動力ニ他ヨリ電力ノ供給ヲ受ケムトスルトキハ供給契約書ノ謄本ヲ添ヘ供給者ト連署ノ上鐵道大臣及內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

△第四十三條 特許ヲ受ケタル者ニ於テ營業若ハ運輸ノ管理ヲ他ノ軌道業者ニ委託セムトスルトキハ管理委託ニ関スル契約書ノ謄本ヲ添ヘ受託者ト連署ノ上鐵道大臣及内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四十四條 特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ハ特許狀及此ノ命令書ヲ福岡縣知事ノ定メタル期日迄ニ返納スヘシ

大正十一年九月一日

鐵道大臣

內務大臣

主管 總務

甲

件名 門司築港軌道敷設特許ノ件

鐵道 軌道

第二次調査

總務課	業務課	技術課
受付大正 年 月 日 調了大正 十一年 四月 二十三日	受付大正 年 月 日 調了大正 年 月 日	受付大正 十一年 五月 二十三日 調了大正 年 月 日
調査ニ要シタル日數 一 日	調査ニ要シタル日數 日	調査ニ要シタル日數 日
課長 擔任 發許 特許 通達	課長 擔任 營業 會計	課長 擔任 土木 車輛 電氣
特許ノ方針ニテ案書相成度、 命令書案中第四條第五條第十一條第十三條 第二十一條第[illegible]第三十四條及第四十四條ハ甲案ノ[illegible] 訂正ノコト 甲號契約書ハ穏當ナラスト認ムルモ、 但シ前例モアリ此ノ点ニ関シテハ [illegible]		本件土木ニ関シ支障ナシト認ム 五、廿四 車輛ニ関シ[illegible] 本件電氣ニ関シ支障ナシ 五月廿四日 五月二十四日

受理[illegible]

主管 總務

甲

件名 門司築港軌道敷設特許ノ件

鐵道 軌道

總務課 受付大正 年 月 日
調了大正十一年四月二十一日
第一次調査
調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任 發許 通達

業務課 受付大正 年 月 日
調了大正 年 月 日
調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任 營業 會計

技術課 受付大正 年 月 日
調了大正 年 月 日
調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任 土木 車輛 電氣

本件出願回調製相成度

五月十日

五月廿二日

鐵道省

5.

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

軌道

大正十年十一月十七日出願	
福岡縣廳經由 大正十一年四月十一日	
大正十一年四月十七日受付	
	門司築港株式會社
起終點及經過地名	起點 福岡縣門司市日ノ出町九十田 終點 同縣同市田ノ浦一方七十七番ノ二番地
動力	電氣
距離	一哩八鎖
軌間	四呎八吋半
新設軌道 / 道路上	
鐵道ト關係	
知事副申ノ要旨	本出願ハ九州電氣軌道會社未成線門司市東本町[illegible]日ノ出町九十[illegible]間ノ軌道ヲ連絡スル爲[illegible]計畫シタル[illegible]九州電氣軌道會社[illegible]成線ハ本線ニ於テ建設シ竣功後ノ營業ハ全線ヲ擧ゲテ九州電氣軌道[illegible]會社ニ委託經營[illegible]別段支障[illegible]ナシ[illegible]ト認ム[illegible]
發起人及重ナル人名	取締役 島徳藏
資本金又ハ建設費金	七萬圓
一株ノ金額	
備考	[illegible]資本金ハ壹千萬圓也

土第八九四二號

大正十一年四月十二日

福岡縣知事　安河内麻吉

鐵道大臣　元田肇殿

内務大臣　床次竹二郎殿

軌道敷設特許出願ニ付副申

管内門司市日ノ出町九丁目清見町一丁目境ヨリ同市田野浦ニ至ル間ニ電氣軌道ヲ敷設シ一般旅客ノ運輸營業ヲ致度旨門司築港株式會社ヨリ出願ニ付調査スルニ左記ノ通ニシテ不都合ノ廉無之且門司市ノ意見ニ對シテハ總テ該意見ニ依リ施行スヘキ旨誓書ヲ提出致居他ニ支障ノ點無之モノト相認候條至急御特許相成候樣致度

鐵道省 11 4 17 第14897號
裏面白紙
国立公文書館 National Archives of Japan

追テ本出　願線ト競爭ノ關係ヲ有スル九州電氣軌道株式會
社未成　線ニ對シ復線ヲ單線ニ變更出願ニ付テハ別途進達
ニ付御了知相成度

一、起業ハ成業ノ見込アリヤ否ヤ

本願軌道ハ短距離ナルニ依リ單獨ニ經營スルノ見込ナク出
願人ニ於テハ九州電氣軌道株式會社ノ未成線門司市東本町
三丁目ヨリ日ノ出町九丁目間ノ軌道ト連絡セシメム方針ヲ以テ
本軌道ノ企劃ヲ爲シタルモノトス而シテ九州電氣軌道株式
會社ノ未成線ニ關シテハ復線敷設ノ計劃ナリシモノヲ地方
ノ狀況ト交通ノ程度等ニ鑑ミ單線ニ變更敷設セムトシ去ル
大正四年六月十六日附ヲ以テ該變更出願ヲ爲シタリ然ルニ
之ニ對スル門司　市ノ意見ニ就キ會社ニ其履行方照會往復
中門司　築港株式會社ヨリ本件出願ヲ爲シ且九州電氣軌道

福岡縣

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

トノ運輸上同會社ノ右未成線ハ門司築港株式會社ニ於テ建設スルコトトシ門司市ノ意見ニ對シテハ總テ門司築港株式會社ニ於テ之ヲ實施スヘク當縣ニ申立タリ而シテ爾後ノ營業ニ關シテハ全線ヲ擧ケテ九州電氣軌道株式會社ニ委託經營ヲ爲スコトトシ既ニ別紙ノ通兩會社ノ契約成立ヲ告ケタリ故ニ本件起業ハ右九州電氣軌道株式會社ノ未成線ト連絡ヲ保チ經營スルニ於テハ大體ニ於テ成業ノ見込アルモノト認ム

二、沿線市區町村ニ及スヘキ影響

門司市田野浦方面ノ開發ニ關シ同市ハ道路ノ改築ヲ必要トシ大正十年度ニ於テ大字門司字折戶ヨリ大字田野浦字町ニ至ル三百三十間ヲ開鑿竣功シ引續キ大正十一年度ニ於テ同終點ヨリ田野浦市街地南端ニ至ル延程五百四十一間五分ヲ改築スルノ豫定ニシテ全線五間ノ幅員ヲ有ス卽本軌道ハ日之出町九丁目ヨリ上記道路上ニ敷設スルコトヲ目的トシタルモノニシ

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

テ沿線就中田野浦方面ノ開發ニ資スル所少ナカラス故ニ市ニ於テモ本起業成立ノ一日モ速カナラムコトヲ希望シツヽアリ

三、既成鐵道又ハ軌道ニ及スヘキ影響

本件軌道ノ敷設ハ第一項記述ノ如ク九州電氣軌道未成線東本町日ノ出町間ト密接ナル關係アリ而モ本件軌道ノ敷設ニ伴ヒ前記未成線ノ如キモ其敷設ヲ促進セラレ延テ既成線九州電氣軌道ト連絡運轉ヲ見ルヘキ見込アリ尚大正九年四月廿八日監第六七〇號ヲ以テ門司築港株式會社ニ免許セラレタル門司市企救郡企救町及曾根村間鐵道ト田野浦ニ於テ連絡シ何レモ良好ナル影響ヲ及スヘキモノト認ム

四、既成鐵道又ハ軌道ヲ横過シテ軌道ヲ敷設スルモノニ在ラス

五、個人ノ信用資産ニ關スル件

福岡縣

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

出願會社ハ資本金壹千萬圓內拂込濟貳百五拾萬圓ノ既設會社ニシテ客年下半期營業報告ニ依レハ銀行負債約五拾八萬圓ヲ有シ本件軌道ハ右現在金ノ內ヲ以テ起工スル豫定ナリ
目下當會社ハ他ノ問題ニ付刑訴事件ヲ惹起シ目下司法官憲ノ取調中ナリト云フ為ニ社會ニ於ケル信用ノ程度ニ影響ヲ及シ居レル如キモ經濟的不信ノ聲アルヲ聞カス

六、願書證據關係書類ニ押捺セル印影ノ適否
前項記スルカ如ク本會社ハ既設ノ會社ニシテ已ニ從來鐵道敷設出願書類等ニ捺印セルモノアリ之等ト照査シ其確實ナルコトヲ認ム

七、願書證據關係書類中ニ代理人トシテ記名捺印セルモノナシ

福岡縣

裏面白紙

命令書按

第一條 今般門司築港株式會社ニ對シ軌道ヲ敷設スルコトヲ特許シ旅客運輸ノ業ヲ營ムコトヲ許可シタル軌道線路ハ左ノ如シ

一、福岡縣門司市日ノ出町九丁目清見町一丁目境ヨリ同縣同市田ノ浦百七拾七番地ノ二地先ニ至ル市道

第二條 營業年限ハ大正六拾壹年四月拾五日迄トス

第三條 原動力ノ方式ハ單線架空式トス

第四條 電氣ニ關スル事項ニ付テハ明治四十四年法律第五十五號電氣事業法ノ規定ニ依ルヘシ但同法第三條ノ出願ハ此命令書下附ノ日ヨリ六ケ月以内ニ之ヲ爲スヘシ

第五條 特許ヲ受ケタル者ハ前條但書ニ依リ出願ヲ爲シ其ノ許可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ左ノ各號ニ準據シ線路實測圖（平面圖ハ縮尺二千分ノ一縱斷面圖ハ縱二百分ノ一、横二千分ノ一、横斷面圖ハ二百分ノ一トス）工事方法書圖面及工費豫算書ヲ調製シ福岡縣知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

一 軌間ハ内法四呎八吋半トス

二 軌條ハ鋼鐵製グルーブ型又ハ工字型ヲ用ヒ重量ハ一碼ニ付五拾封度以上トス

三 軌條間ノ全部及其左右各一尺五寸通ハ木石砂利其ノ他適當ノ材料ヲ敷キ鐵軌面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ

四 軌道ヲ敷設スル道路ハ左ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

單線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連擔ノ場所又ハ連擔スヘキ場所ハ五間以上其ノ他ノ場所ハ四間以上
複線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連擔ノ場所又ハ連擔スヘキ場所ハ八間以上其ノ他ノ場所ハ六間以上

五　軌道ハ兩側人家連擔ノ場所又ハ連擔スヘキ場所ニ於テハ道路ノ中央ニ之ヲ敷設スヘシ但車體外一側ニ各二間以上ノ幅員ヲ存スルコト能ハサルトキハ其ノ一側ニ二間以上他ノ一側ニ一間以上ノ幅員ヲ存スル點迄一方ニ偏シテ之ヲ敷設スルコトヲ得
前項以外ノ場所ニ於テハ道路ノ一方ニ偏シ路端ヨリ車體外各三尺以上ノ地ヲ餘シテ軌道ヲ敷設スヘシ但國道及縣道ニ在テハ車體外ノ一側ニ二間以上ノ幅員ヲ存スルコトヲ要ス
道路ノ屈折部ノ內角ノ前後ニ於ケル車體外幅員亦前二項ニ同シ
井戸、並木、電柱、街燈、郵便函其ノ他道路上ノ建設物ヨリ其ノ側ノ路端迄ノ距離、溝渠敷地及人道、車馬道ヲ區別セル道路ニ在テハ其ノ人道ハ前三項ノ幅員ニ算入セス

六　道路ノ一方ヨリ他ノ一方ニ軌道線ヲ移ス箇所ハ木又ハ石ヲ用井テ踏切ヲ設クヘシ
七　軌道カ道路ヲ横斷スル箇所亦前號ニ同シ
八　橋梁ノ構造、幅員及耐力ハ福岡縣知事ノ指定スル所ニ依ルヘシ
九　軌道敷設ノ爲ニ生スル道路面及軌道內ニ於ケル雨水ノ滯留ニ付テハ完全ナル排除ノ方法ヲ設クヘシ
十　勾配ハ二十五分ノ一ヲ超ユヘカラス
十一　屈曲ノ半經ハ三十六尺ヲ以テ最小限トス
十二　車輛ニハ相當ノ避難器、制動器、及信號器ヲ裝置スヘシ
十三　地下ニ埋設シタル公衆通信用ノ電信又ハ電話線路、水管、瓦斯管其ノ他公共用ノ地下工作物ト交叉若ハ接近シテ軌道ヲ敷設スルトキハ其ノ線路又ハ工作物ヲ毀損セサル爲適當ノ豫防裝置ヲ爲スヘシ
十四　各種ノ人孔制水瓣蓋等ニ接近シテ軌道ヲ敷設スルトキハ操業上障害ヲ與ヘサル爲適當ノ距離ヲ保タシムヘシ

国立公文書館 National Archives of Japan

五　特許ヲ受ケタル者ニ於テ新設スヘキ軌道敷ハ車體外左右各三尺以上ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

前項第三號乃至第六號及第九號ハ新設軌道敷ニ之ヲ適用セス

第六條　特許ヲ受ケタル者ハ前條ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月內ニ工事ニ着手シ着手ノ日ヨリ一年內ニ竣工スヘシ但天災其ノ他正當ノ事由ニ因リテ本條ノ期間內工事ニ着手シ又ハ竣工スルコト能ハサルトキハ相當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第七條　特許ヲ受ケタル者ニ於テ擴築シタル道路及改築シタル橋梁ハ竣工ト同時ニ無償ニテ國又ハ公共團體ノ有ニ歸ス

第八條　軌道敷設ノ爲道路ノ地表又ハ地下ニ於ケル建設物ノ移轉其ノ他ノ工事ヲ要スルトキハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ施行シ又ハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ

第九條　工事ノ全部又ハ一部竣工シ運輸ヲ開始セントスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ福岡縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

工事カ工事方法書ニ違反スルモノト認ムルトキハ福岡縣知事ハ其ノ改築又ハ停止ヲ命スヘシ

第十條　乘客ノ定員、荷物ノ制限、運送賃及發車並營業時間ハ福岡縣知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第十一條　電氣ニ關スル技術員、車掌及運轉手ノ資格及採用ノ方法ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ定メ福岡縣知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第十二條　車輛ハ一輛每ニ福岡縣知事ノ檢査ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條　車輛進行ノ速度ハ道路上ニ在リテハ一時間八哩以內專用軌道敷ニ在リテハ踏切其ノ他危險ノ處アル場所ヲ除ク外一時間十五哩以內トス

第十四條　車輛ハ二車又ハ二車以上ヲ聯結シテ進行セシムルコトヲ得ス

進行中ハ各車ノ間ニ相當ノ距離ヲ保タシムヘシ

日出前日沒後ハ五町以上ノ距離ニ於テ容易ニ認メ得ヘキ燈火ヲ車輛ノ前後ニ點スヘシ

第十五條　乘客ノ昇降ノ爲ニスルノ外故ナク道路上ニ停車セシムルコトヲ得ス但乘客昇降ノ場合ト雖道路ノ交叉部屈曲部及橋梁上ニ於テ停車セシムルコトヲ得ス

第十六條　福岡縣知事ノ指定シタル場所ニハ特ニ信號人ヲ置キ其ノ場所ニ於テハ進行ノ速度ハ一時間五哩ヲ超過セシムルコトヲ得ス

第十七條　左ニ掲ケタル箇所ハ福岡縣知事ノ命スル所ニ從ヒ特許ヲ受ケタル者ニ於テ其ノ改築、修繕、掃除撒水及除雪ヲ爲シ又ハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ

一　道路及横切下水ハ軌條間ノ全部及其ノ左右各二尺通

二　橋梁ノ改築又ハ修繕ハ前號ニ定メタル幅員ト橋梁ノ幅員トノ比例ヲ以テ標準トシ其ノ橋梁ノ改築又ハ修繕費ノ全部ニ對シ特許ヲ受ケタル者ニ於テ負擔スヘキ費用ノ歩合ヲ定ム橋梁ノ掃除、撒水及除雪ハ前號ニ依ルモノトス

特許ヲ受ケタル者ノ軌道ト他ノ軌道ト交叉スル場合ニ於テハ其ノ交叉面ニ係ル前項ノ義務ハ關係者ノ分擔トス

第十八條　車輛ハ常ニ清潔ニ保持シ其ノ修繕ヲ怠ルヘカラス

第十九條　福岡縣知事ハ何時ニテモ軌道、車輛其ノ他ノ工作物ヲ監査シ危險ナリト認ムルトキハ改築修補ヲ命シ其ノ命ヲ執行シ終ルマテ其ノ使用又ハ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ危險切迫ナリト認ムルトキハ福岡縣知事ハ自ラ其ノ改築修補ヲ爲スコトアルヘシ

第二十條　福岡縣知事ハ何時ニテモ營業ニ關スル實況ヲ監査シ此ノ命令書ノ條項又ハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違反セル事實アルトキハ之ヲ督責シ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ更正スルマテ營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十一條　特許ヲ受ケタル者ハ內閣總理大臣及內務大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ一部ノ營業ヲ廢止スルコトヲ得ス

第二十二條　特許ヲ受ケタル者ハ福岡縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業ヲ休止スルコトヲ得ス

第二十三條　內閣總理大臣及內務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ何

時ニテモ原動力ノ變更、其ノ方式、設備、線路若ハ敷設順序ノ變更又ハ交通上必用ナル線路ノ新設若ハ延長又ハ道路ノ擴築又ハ複線ノ敷設若ハ撤去又ハ一部ノ線路ノ廢止ヲ命スルコトアルヘシ

第二十四條　福岡縣知事ハ乘客ノ定員、荷物ノ制限、運送賃及發車並營業時間ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條　道路、橋梁、水道其ノ他ノ公共事業ノ爲必要アルトキハ福岡縣知事ハ軌道其ノ他ノ工作物ノ改築若ハ一時撤去ヲ命シ又ハ一時車輛ノ運轉ヲ停止スルコトアルヘシ

交通上危險ノ虞アルトキハ福岡縣知事ハ其ノ必要ノ部分ニ限リ一時車輛ノ運轉ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十六條　軌道ヲ交叉シ若ハ之ニ接續シ又ハ之ニ接近シテ道路、橋梁、運河、鐵道又ハ他ノ軌道ヲ設クルコトアルモ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十七條　道路ニ敷設セル工作物其ノ他營業上必要ナル物件ノ特許ヲ受ケタル者ニ於テ福岡縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ義務履行ノ擔保ト爲スコトヲ得ス

第二十八條　内閣總理大臣及内務大臣又ハ福岡縣知事ハ公益上必要ト認ムル事項ヲ特許ヲ受ケタル者ニ命スルコトアルヘシ

内閣總理大臣及内務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ此ノ命令書ノ條項ヲ變更スルコトアルヘシ

第二十九條　將來定メラルヽ所ノ法令ノ結果トシテ此ノ命令書ノ條項ニ變更ヲ來スコトアルモ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十條　特許ヲ受ケタル者ハ半年毎ニ營業ノ報告書ヲ調製シ三十日内ニ福岡縣知事ニ差出スヘシ

福岡縣知事ハ何時ニテモ營業ニ關スル帳簿、書類等ヲ檢閲スルコトアルヘシ

第三十一條　國又ハ公共團體ニ於テ公益ノ爲軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ全部若ハ一部ノ專用又ハ買收ヲ爲サムトスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但之ニ對シ補償ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ物件ノ範圍ニ付爭アルトキハ内閣總理大臣及内務大臣之ヲ定

ム
第三十二條　前條全部專用ノ場合ニ於テ月ヲ以テ專用期間ヲ算スルトキハ前年ニ於ケル平均收入月額又ハ前年ノ相當月ノ收入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定メ日ヲ以テ專用期間ヲ算スルトキハ前月ニ於ケル平均收入日額又ハ前年若ハ前月ノ相當日ノ收入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定ム但其ノ選擇ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

前條一部專用ノ場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ノ選擇スル所ニ從ヒ全部ノ延長ニ對スル專用部分ノ延長ノ比例ヲ以テ全部專用ノ場合ニ於ケル補償金額ニ乘シ又ハ前項ト同一ノ方法ニ依リ其ノ專用部分ニ對スル補償金額ヲ定ム

前條全部買收ノ場合ニ於テハ年率七分ヲ以テ前五箇年間ノ純益平均年額ヲ除シ補償金額ヲ定ム但其ノ地方ニ於ケル金利年率ニ著シキ變更ヲ來シタルトキハ內閣總理大臣及內務大臣ハ本項ノ年率ヲ變更スル事アルヘシ役員賞與ノ性質ヲ有スル支出ハ前項純益金ノ內ニ算入ス

前條一部買收ノ場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用シテ補償金額ヲ定ム開業ノ後本條ニ規定シタル時日ヲ經過セサルトキハ既往營業時日ヲ標準トシテ平均額ヲ算出ス

第三十三條　他ノ軌道營業者ニ於テ內閣總理大臣及內務大臣ノ許可ヲ得テ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ一部ヲ共同使用セントスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但其ノ共同使用ノ條件ハ協議ノ上之ヲ定メ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣及內務大臣之ヲ定ム

第三十四條　左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ効力ヲ失フ

一　第四條但書ノ出願ヲ爲ササルトキ又ハ其ノ許可ヲ得サルトキ若ハ之ヲ取消サレタルトキ

二　第五條ノ期間內ニ認可ヲ申請セサルトキ又ハ其ノ認可ヲ得サルトキ

三　第六條ノ期間內ニ工事ニ著手セサルトキ

四　明治四十四年遞信省令第二十五號電氣事業法施行規則第十二條

ニ依ル工事施行ノ認可ヲ得サルトキ又ハ之ヲ取消サレタルトキ

五　全部ノ營業ヲ廢シタルトキ

六　會社解散シタルトキ

七　營業滿期ノトキ

第三十四條ノ認可申請以前ニ會社成立セサルトキハ特許ハ其ノ効力ヲ失フ

創立總會ニ於テ此ノ命令書ノ條項ヲ遵守シテ營業スルコトヲ議決スルニ非サレハ特許ハ其ノ効力ヲ失フ

第三十五條　前條ニ揭ケタル場合ノ外特許ヲ受ケタル者ニ於テ此ノ命令書ノ條項又ハ此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキハ內閣總理大臣及內務大臣ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ解クコトアルヘシ特許ヲ受ケタル者カ不可抗力ニ因ラスシテ滿一箇月間工事ヲ休止シ更ニ起工セサルトキ亦前項ニ同シ

第三十六條　特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ福岡縣知事ハ期限ヲ定メテ道路ヲ原形ニ復セシムルコトアルヘシ

第三十七條　特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ國又ハ公共團體カ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ノ全部又ハ一部ヲ買收セントスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ最近ノ財產目錄ニ記載シタル物件ノ價格ヲ以テ之ヲ賣渡スヘシ

買收者ニ於テ前項ノ價格ニ關シ異議アルトキハ其申請ニ依リ內閣總理大臣及內務大臣ハ福岡縣知事、買收者及特許ヲ受ケタル者ヲシテ各三名ノ評價委員ヲ選定セシメ其意見ヲ徵シテ其ノ價格ヲ定ム

本條ノ場合ニ於テハ第三十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十八條　特許ヲ受ケタル者ハ內閣總理大臣及內務大臣ノ許可ヲ得ルニアラサレハ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第三十九條　特許ヲ受ケタル者ニ於テ此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依リ履行スヘキ義務ヲ履行セサルトキハ福岡縣知事ハ自ラ代テ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ履行セシムルコトアルヘシ

国立公文書館
National Archives of Japan

第四十條　特許ヲ受ケタル者カ許可ヲ得スシテ營業ヲ休止シ又ハ一部ノ營業ヲ廢止シタルトキハ内閣總理大臣及内務大臣ハ市町村ヲシテ營業年限内特許ヲ受ケタル者ノ計算ヲ以テ營業ヲ爲サシメ又ハ他人ヲシテ無償ニテ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ヲ使用シ營業ヲ爲サシムルコトアルヘシ

本條ノ場合ニ於テハ第三十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十一條　此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ依リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ履行スヘキ義務ノ爲ニ生スル費用竝第十九條第二項及第三十九條ノ費用ハ總テ特許ヲ受ケタル者ノ負擔トス

此ノ命令書ニ基キテ爲シタル處分ニ因リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ受クルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十四條　特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ハ特許狀及此命令書ヲ福岡縣知事ノ定メタル期日マテニ返納スヘシ

第四十二條　軌道ノ動力ニ他ヨリ電力ノ供給ヲ受ケムトスルトキハ供給契約書ノ謄本ヲ添ヘ供給者ト連署ノ上鐵道大臣及内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四十三條　特許ヲ受ケタル者ニ於テ運輸管理ヲ他ニ委託セムトスルトキハ其ノ期間ヲ定メ受託者ト連署ノ上福岡縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

年　月　日

門司築港電氣軌道敷設特許申請書

今般門司市日ノ出町九丁目、清見町一丁目境ヲ起點トシ同市田ノ浦百七十七番ノ二番地先ニ至ル間ニ電氣軌道ヲ敷設シ一般旅客運輸ノ業ヲ相營ミ度特別ノ御詮議ヲ以テ御特許被成下度關係圖書相添此段及申請候也

大正十年十一月十七日

大阪市東區北濱四丁目弐拾壱番地
門司築港株式會社
取締役　島徳藏

内務大臣　床次竹二郎殿
鐵道大臣　元田肇殿

門司築港株式會社

添附圖書目録

一、起業目論見書　壹通
一、工事方法概略書　壹通
一、敷設費用概算書　壹通
一、營業収支概算書　壹通
一、線路豫測圖　壹葉
一、車輛構造圖　壹葉

起業目論見書

一、目的

電氣軌道ヲ敷設シ一般旅客ノ運輸ヲ業トス

二、商號又ハ名称及主タル事務所ノ設置地

門司築港株式會社ト称シ本社ヲ大阪市ニ置ク

三、軌道ノ起終點

起點ハ門司市日ノ出町九丁目清見町一丁目境

終點ハ門司市田ノ浦百七十七番ノ二番地先

四、事業資金ノ總額ハ金七萬円トシ當社資本金壱千万円ノ内ヲ以テ充ツ

五、軌間

四呎八吋半

六、動力

電氣ハ單線架空式トシ九州電氣軌道株式會社ヨリ電力供給ヲ受ク

工事方法概畧書

一、軌道ヲ敷設スヘキ起点及終点ノ地名番地ハ別紙起業目論見書記載ノ通リ
二、本軌道ハ全線單線トス
三、動力ハ電氣ニシテ單線架空式トス
四、軌間四呎八吋半トス
五、軌條ハ鋼製ニシテ其ノ重量一碼ニ付五拾封度以上トス
六、軌道カ道路ヲ横斷スル箇所ニハ踏切道ヲ設ケ軌條ノ内側及外側ニ敷板ヲ施シ車馬ノ通行ニ支障ナカラシムルモノトス
七、軌條ノ接續ハ電流通過ニ對シ完全ナル接續装置ヲ施ス
八、軌道ノ勾配ハ弐拾五分ノ一ヲ最急トス
九、軌道ノ曲線半徑ハ三十六尺ヲ最小トス
十、現在道路ニ架設シアル橋梁ニシテ車輛ノ重量ニ耐ヘサルモノハ補強工事ヲ施スモノトス
十一、電力ハ九州電氣軌道株式會社ヨリ供給ヲ受クルモノトス
十二、客車ハ五十馬力モーター貳個ヲ備ヘ車體全長三十五呎幅七呎六吋高十一呎乗客定員五十人トス
十三、車輛進行ノ速度ハ一時間八哩トス
十四、本工事ハ施行認可ノ日ヨリ六ヶ月以内ニ着手シ一ヶ年以内ニ竣功スルモノトス

日出町九丁目一田ノ浦間敷設費用概算書

延長壹哩壹分

門司築港株式會社

項	數量	單價	金額	
測量及監督費	1.1哩	1.500円	1.650円	00
用地費	100坪	80	8.000	00
土工費	330立坪	6	1.980	00
溝橋費	5ヶ所	500	2.500	00
軌道費	1.1哩	22.800	25.080	00
停留場費			500	00
車輛費	2輛	10.000	20.000	00
通信線路費	1.1哩	200	220	00
電線路費	〃	6.000	6.600	00
總係費			3.470	00
合計			70.000	00
	毎一哩		63.636	00

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

運送營業上ノ收支概算書

軌間4'8½" 動力電氣

門司築港株式會社

區間 日ノ出町 田ノ浦　延長壱哩壱分

	數量、金額割合		
旅客人哩	380,330		沿道通行人員ノ統計ニ依リ全線ヲ二区間ニ別チ各其ノ人員ノ三割カ乗車スルモノト見做シ之ニ其区間哩ヲ乗シ延哩ヲ算出シ別ニ通行者ノ二割カ乗車スルモノトシタル推定人哩トス
一日一哩當	749		
旅客收入	11,409	900	一人一哩三銭トス
一日一哩當	28	413	
雜收入	570	495	旅客收入ノ$\frac{5}{100}$トス
收入合計	11,980	395	
一日一哩當	29	839	
營業費	8,386	277	營業收入ノ七割トス
一日一哩當	15	578	
益金	3,594	118	
建設費	70,000	000	
建設費ニ對スル益金割合		割分厘 051	

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

追申書

大正十年十一月十七日付當社電氣軌道敷設特許申請書提出致置候處右ニ関シ尚左記追申候也

記

一、營業年限　五拾ヶ年

二、軌條種類「グルーブドレール」又ハ「工字形レール」

三、出願線ハ別紙圖面ノ通リAヨリB迄ハ現在道路BヨリC迄ハ本年度中門司市ニ於テ現在道ヲ五間幅ニ改修セラルヽヲ以テ之カ道路上ニ軌道ヲ敷設スルモノニシテ軌道敷ヲ新設スルモノニアラズ

大正十一年四月五日

大阪市東区北濱四丁目弐拾壱番地

門司築港株式會社

門司築港株式會社

取締役　宮崎敬介

鐵道大臣　元田肇　殿

内務大臣　床次竹二郎　殿

11.4.7

甲號

契約書

国立公文書館
National Archives of Japan

契約書

九州電氣軌道株式會社ノ特許ヲ有スル東本町三丁目日ノ出町間ニ電氣軌道ヲ敷設スルニ付九州電気軌道株式會社專務取締役松本杢藏ヲ甲トシ門司築港株式會社取締役宮崎敬介ヲ乙トシ左ノ契約ヲ締結ス

第一條 甲ハ乙カ自己ノ費用ヲ以テ甲ノ特許ヲ有スル東本町三丁目日ノ出町間ニ電氣軌道ヲ敷設スルコトヲ兼諾ス

第二條 乙ハ甲ノ要求アリタル場合ニ於テハ何時ニテモ前條ノ區間ヲ建設費實費ヲ以テ甲ニ讓渡スヘキモノトス

第三條 東本町三丁目日ノ出町間ヲ甲カ買收スル場合ニ於テ設計ノ變更ヲ要スルトキハ其設計變更ニ伴ヒ不要ニ帰シタル建設費ハ之ヲ第二條ノ建設実費ヨリ控扣スルモノトス

第四條 乙ハ東本町三丁目分岐点ニ於テ車輛一車ヲ停車セシムルニ必要ナル側線ノ設備ヲ為スモノトス

第五條 乙カ日ノ出町田ノ浦間電車敷設免許ヲ得タル後三ケ年内ニ東本町三丁目日ノ出町間ノ工事ヲ竣功セサルトキハ甲ハ本契約ヲ解除スル事ヲ得

本契約ヲ証スル為メ本書貳通ヲ作製シ各其壹通ヲ保有ス

大正拾壹年参月廿八日
九州電氣軌道株式會社
松本専務取締役名
門司築港株式會社
宮崎取締役名

国立公文書館
National Archives of Japan

乙號

契約書

運轉管理委託契約書

門司築港株式會社線日ノ出町田ノ浦間ノ電車運轉ヲ九州電氣軌道株式會社ニ於テ管理スルニ付九州電気軌道株式會社專務取締役松本枩藏ヲ甲トシ門司築港株式會社取締役宮崎敬介ヲ乙トシ左ノ通契約ス

第一條　甲ハ乙ノ線路内ニ於テ甲ノ車掌運轉手及運輸係員並保線係員ヲ使用シ甲ノ電力ヲ以テ乙ノ電車ヲ運轉シ旅客貨物ノ運輸ヲ為スコトヲ承諾ス

第二條　乙ノ線路内ニ於ケル電車ノ運轉時刻ハ甲ニ於テ乙ト協議ノ上之ヲ定ム其改正変更若クハ休止ノ場合亦同シ但緊急ノ場合ニ於テ乙ト協定ヲ為スノ暇ナキトキハ甲ハ其ノ旨乙ニ通知スルニ止ムルコトヲ得

第三條　乙ノ線路内ニ於ケル電車ノ運轉取扱方ハ特ニ協定ヲ要スル事項ヲ除クノ外甲ノ定ムル所ニ依ル

第四條　事故其他已ムヲ得ザル事情ノ為メ運轉ヲ休止変更シタル場合ニ於テ乙ニ損害ヲ及ホスコトアルモ甲ハ其責ニ任セス

第五條　乙ハ東本町三丁目田ノ浦間ノ運轉費、保存費事故（天災並ニ不法行為ヲ含ム）ノ為メ要シタル費用其他本区間ノ營業ニ伴フ

国立公文書館
National Archives of Japan

直接間接一切ノ實費ヲ甲ニ支拂フモノトス
但シ電力料金ノ計算ハ別紙契約ニ依リ
算定ス

第六條　東本町三丁目ヨリ田ノ浦ニ至ル營業收入ハ乙
ノ所得トス

第七條　本契約ハ双方一ケ年前ノ豫告ヲ以テ之ヲ
解除スルコトヲ得

第八條　本契約ノ期間ハ乙ノ線路カ運輸開始
ヲ為シタル日ヨリ滿壹ケ年トス但シ期間末
壹ケ月前迄ニ双方ヨリ何等ノ申出ナキトキ
ハ次ノ壹ケ年間繼續スルモノトス以後ノ
期間亦同シ

本契約ヲ證スル為メ本書貳通ヲ作製シ各其壹
通ヲ保有ス

大正拾壹年參月廿八日

九州電氣軌道株式會社
松本專務取締役　名

門司築港株式会社
宮崎取締役　名

寫

鐵第一六號 大正十一年六月七日受領 六月七日達済 淨書 校合

第 號 大正十一年五月 日受領 五月廿六日立案

土木局立案

總務課長

監督局長 了

土木局長

道路課長

案

番號 年 月 日

兩局長

福岡縣知事宛

回議用紙 鐵道省

軌道敷設特許申請ノ件照會

四月十二日土第八九四二號ヲ以テ御申進達相成候門司築港株式會社ニ係ル標記ノ件左記事項御回報相成度尚同日付土第五五〇號進達九州電氣軌道株式會社軌道一部複線ヲ單線ニ變更ノ件右工事竣功期日ハ大正五年六月三十日ナルニ其後延期ノ出願ヲ為サス今日ニ至リタル理由詳細御調報相成度

記

一、市會ノ意見書提出ノコト

~~一、本軌道敷設ヲ本會社ノ事業トスルコトヲ認ムル書面提出ノコト~~

一、命令書案第五條第四號其ノ他ノ場所ハ「四間」ヲ「四間半」ニ更正ノ必要アリ之ニ關スル意見

監督局長　總務課長　技術課長

軌488二

一九 供覧

土第一八九四二號

大正十一年七月十七日

福岡縣知事　安河内麻吉

內務省土木局長殿

鐵道省監督局長殿

軌道敷設特許申請ノ件回答

客月七日鐵第一六號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件左記ノ通ニ付御了知相成度候尚九州電氣軌道株式會社工事竣功期日ノ件ハ御申越ノ通大正五年六月三十日ナルモ右ハ四月十二日土第五五〇號ヲ以テ進達致候一部複線ヲ單線ニ變更ノ件大正四年六月十六日附ヲ以テ出願致居候處變更ニ關シ門司市ノ意見ニ對スル協定ニ日子ヲ費シ今回漸ク前記ノ通進達ノ運ニ至リタルモノニシテ從テ同會社ニ於テハ右出願ノ許否不明ナル爲メ工事ヲ遂行スルヲ得サル現狀ニ

福岡縣

5.

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

土第一八九四二號

大正十一年七月十七日

福岡縣知事　安河内麻吉

内務省土木局長殿

鐵道省監督局長殿

軌道敷設特許申請ノ件回答

客月七日鐵第一六號ヲ以テ御照會相成候標記ノ件左記ノ通ニ付御了知相成度候

九州電氣軌道株式會社工事竣功期日ノ件ハ御申越ノ通大正五年六月三十日ナルモ右ハ四月十二日土第五五〇號ヲ以テ進達致候一部複線ヲ單線ニ變更ノ件大正四年六月十六日附ヲ以テ出願致居爾來該變更ニ關シ門司市ノ意見ニ對スル協定ニ日子ヲ費シ今回漸ク前記ノ通進達ノ運ニ至リタルモノニシテ從テ同會社ニ於テハ右出願ノ許否不明ナル爲メ工事ヲ遂行スルヲ得サル現狀ニ

門司市ノ條件第一項ハ別紙契約書ニ徴シ希望通リ施設セラルヽモノト認ム尚第三項及第五項ニ對シテハ判決命令書ニ規定ノ限リニ非サルヲ以テ本件支障ナシト認ム但シ新線工事竣功延期ノ件ニ關シテハ別途ニ稟伺セシムルコトヲ要ス

福岡縣

5.

在リ重テ延期申請ノ要ナキモノト思料シ今日ニ及ヒタル次第ナル旨申立居候條可然御了知相煩度

一、市會ノ意見書寫別紙ノ通

二、命令書案第五條第四號其ノ他ノ場所ハ四間半ニ更正セラルルコトニ意見ナシ

右

福岡縣

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

諮問第二號

軌道敷設ニ関スル件

門司築港株式會社ヨリ門司市日出町九丁目、清見町一丁目境ヲ起点トシ田野浦百七拾七番地ノ二地先ニ至ル間ニ電氣軌道敷設特許出願ニ對シ本縣ヨリ照會ニ付調査スルニ左ノ條件ヲ付スルニ於テハ支障ナシト認ムルニ依リ其ノ旨回答セントス

右諮問ス

大正十一年二月十三日提出

門司市長　高岡直吉

（二月十三日原案ノ通修正可決）

記

一、被特許者ハ九州電氣軌道株式會社ノ被特許線ニ係ル東本町三丁目ヨリ日出町九丁目間ノ軌道運輸開始ノ時期ニ於テ同軌道ト連絡セシムル為同會社ニ對シ本軌道ノ事業若ハ運輸ノ管理ヲ委託スルニ於テハ工事実施前双方連署ヲ以テ之カ許可ヲ受クヘキコト

前項ノ許可ヲ受クルコトヲ得サルトキハ工事竣功ト共ニ被特許者ハ自己ノ經營ヲ以テ運轉ヲ開始スヘキコト

但シ運轉開始後更ニ前項ノ委託ヲ為サムトスルトキハ前項ニ準シ之カ許可ヲ受クヘキコト

二、前項ノ規定ニ違反スルトキハ特許ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

三、軌道ノ両側ニ沿ヒ建設スヘキ電柱ニ街燈ヲ附設スルコト

福岡縣

国立公文書館
National Archives of Japan

四、軌道敷設區間ニ「於ケル人家連檐ノ場所」ハ線路内及線路外両側一尺五寸以内ニ石張ヲ施スコト

五、將來適當ノ時機ニ於テ複線ニ改ムルコト

市参事會ノ意見

原案ニ異議ナキモノトス

福岡縣

工第八九四二號

大正十一年十月三日

福岡縣知事 安河内麻吉

内務大臣 水野錬太郎 殿

鐵道大臣伯爵 大木遠吉 殿

大正十一年九月一日附監第一六八四號ヲ以テ下附相成候門司築港株式會社鐵道敷設特許狀竝之ニ伴フ命令書ニ對スル請書別紙ノ通提出ニ付及進達候也

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

御請書

福岡縣
受付
11.9.29
第8992號

国立公文書館
National Archives of Japan

（福岡縣經由）

監第一六八四號

特許狀

門司築港株式會社

右ノ者ニ對シ軌道ヲ敷設スルコトヲ特許シ旅客運輸ノ業ヲ營ムコトヲ許可ス仍テ別紙命令書ノ條項ヲ遵守スヘシ

大正十一年九月一日

鐵道大臣 伯爵 大木遠吉 印

内務大臣 水野錬太郎 印

裏面白紙
国立公文書館
National Archives of Japan

命令書

第一條 今般門司築港株式会社ニ對シ軌道ヲ敷設スルコトヲ特許シ旅客運輸ノ業ヲ營ムコトヲ許可シタル軌道ノ線路ハ左ノ如シ

一、福岡縣門司市白ノ出町九丁目清見町二丁目境ヨリ同市田ノ浦百七十七番地ノ二地先ニ至ル市道

第二條 營業年限ハ大正六十一年八月三十一日迄トス

第三條 原動力ハ電氣トシ其ノ方式ハ單線架空式トス

第四條 電氣ニ關スル事項ニ付テハ明治四十四年法律第五十五號電氣事業法ノ規定ニ依ルヘシ但シ同法第三條ノ出願ハ大正十二年十二月二十八日迄ニ之ヲ為スヘシ

第五條 特許ヲ受ケタル者ハ大正十二年六月三十日迄ニ左ノ各號ニ準據シ線路實測圖（平面圖ハ縮尺二千分ノ一、縦斷面圖ハ縦二百分ノ一横二千分ノ一、横斷面圖ハ二百分ノ一トス）、工事方法書、圖面及工費豫算書ヲ調製シ福岡縣知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦仝シ

一、軌間ハ内法四呎八吋半トス

二、軌條ハ鋼製ニシテ「グルーブ」型又ハ工字形ノモノヲ用キ其ノ重量ハ一碼ニ付五十封度以上トス

三、軌條間ノ全部及其ノ左右各一尺五寸通ハ木石砕利其ノ他適當ノ材料ヲ以テ鋪キ軌面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ

四、軌道ヲ敷設スル道路ハ左ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

單線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連檐ノ場所又ハ連檐スヘキ場所ハ五間以上其他ノ場所ハ四間半以上

複線軌道ノ場合ニ於テハ両側人家連檐ノ場所又ハ連
檐スヘキ場所ハ八間以上其他ノ場所ハ六間以上

五、軌道ハ両側人家連檐ノ場所又ハ連檐スヘキ場所ニ於テ
ハ道路ノ中央ニ之ヲ敷設スヘシ但シ車體外一側ニ各二間
以上ノ幅員ヲ存スルコト能ハサルトキハ其ノ一側ニ二間以上他ノ
一側ニ一間以上ノ幅員ヲ存スル點迄一方ニ偏シテ之ヲ敷設
スルコトヲ得

前項以外ノ場所ニ於テハ道路ノ一方ニ偏シ路端ヨリ車
體外各三尺以上ノ地ヲ餘シテ軌道ヲ敷設スヘシ但シ車
體外ノ一側ニ二間半以上ノ幅員ヲ存スルコトヲ要ス

道路ノ屈折部ニ於ケル車體外ノ幅員亦前二項ニ同シ

井戸、並木、電柱、街燈、郵便函其ノ他道路上ノ建設物ニシテ其側
ノ路端迄ノ距離、溝渠敷地、及人道車馬道ヲ區別セル道路ニ
在テハ其ノ人道ハ前三項ノ幅員ニ算入セス

六、道路ノ一方ヨリ他ノ一方ニ軌道線ヲ移ス箇所ハ木又ハ石ヲ用ヰ
テ踏切ヲ設クヘシ

七、軌道カ道路ヲ横断スル箇所ハ前項ニ同シ

八、橋梁ノ構造、幅員及耐力ハ府県知事ノ指定スル所ニ依ルヘシ

九、軌道敷設ノ為ニ生スル道路面及軌道内ニ於ケル雨水ノ瀦留ニ
付テハ完全ナル排除ノ方法ヲ設クヘシ

十、勾配ハ二十五分ノ一ヲ超ユヘカラス

十一、屈曲ノ半径ハ三十六尺ヲ以テ最小限トス

十二、車輌ニハ相当ノ避難器、制動器及信號器ヲ装置スヘシ

十三、地下ニ埋設シアル公衆通信用ノ電信又ハ電話線路、水管、

溝渠其ノ他公共用ノ起價工作物ト交叉若ハ接近シテ軌道ヲ敷設スルトキハ其ノ線路又ハ工作物ヲ毀損セサル為適当ノ豫防装ヲ為スヘシ

十四 各種ノ人孔(マンホール)制水瓣並等ニ接近シテ軌道ヲ敷設スルトキハ操業上障害ヲ與ヘサル為適当ノ距離ヲ保タシムヘシ

十五 特許ヲ受ケタル者ニ於テ新設スヘキ軌道敷ハ車體外左右各二尺以上ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス

第六條 特許ヲ受ケタル者ハ前條ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月以内ニ工事ニ着手シ着手ノ日ヨリ一箇年内ニ竣功スヘシ但シ天災其他正當ノ事由ニ因リテ本條ノ期間内ニ工事ニ着手シ又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ相当ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第七條 特許ヲ受ケタル者ニ於テ撤廃シタル道路及改築シタル

橋梁ハ竣工ト同時ニ無償ニテ国又ハ公共団体ノ有ニ歸ス

第八條 軌道敷設ノ為道路ノ地表又ハ地下ニ於ケル建設物ノ移轉其他ノ工事ヲ要スルトキハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ施行シ又ハ其ノ費用ヲ負擔スヘシ

第九條 工事ノ全部又ハ一部竣功シ運輸ヲ開始セントスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ福岡縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

工事カ工事方法書ニ違反スルモノト認ムルトキハ福岡縣知事ハ其ノ改築又ハ停止ヲ命スヘシ

第十條 乗客ノ定員、運送賃及営業時間ハ福岡縣知事ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ変更スルトキ亦同シ

第十一條 車掌及運轉手ノ資格及採用ノ方法ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ定メ福岡縣知事ノ認可ヲ得ヘシ之ヲ変更

スルトキ亦同シ

第十二條　車輛ハ一輛毎ニ福岡縣知事ノ檢査ヲ受クルニ非レハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條　車輛進行ノ速度ハ一時間八哩ヲ超過セシムルコトヲ得ス

第十四條　車輛ハ二車又ハ二車以上ヲ聯結シテ進行セシムルコトヲ得ス

進行中ハ各車ノ間ニ相当ノ距離ヲ保タシムヘシ

日出前日没後ハ五町以上ノ距離ニ於テ容易ニ認メ得ヘキ燈火ヲ車輛ノ前後ニ點スヘシ

第十五條　乘客乗降ノ為ニスルノ外故ナク道路上ニ停車セシムルコトヲ得ス但シ乘客乗降ノ場合ト雖モ道路ノ交叉部、屈曲部及橋梁上ニ於テ停車セシムルコトヲ得ス

第十六條　福岡縣知事ノ指定シタル場所ニハ特ニ信號人ヲ置キ其ノ場所ニ於テハ進行ノ速度ハ一時間五哩ヲ超過セシムルコトヲ得ス

第十七條　左ニ揭ケタル箇所ハ福岡縣知事ノ命スル所ニ従ヒ特許ヲ受ケタル者ニ於テ其ノ設築、修繕、掃除、撒水及除雪ヲ為シ又ハ其費用ヲ負擔スヘシ

一、道路及横切下水ハ軌條間ノ全部及其ノ左右各二尺通

二、橋梁ノ設築又ハ修繕ハ前號ニ定メタル幅員ト橋梁ノ幅員トノ比例ヲ以テ標準トシ其ノ橋梁ノ設築又ハ修繕費ノ全部ニ對シ特許ヲ受ケタル者ニ於テ負担スヘキ費用ノ歩合ヲ定ム橋梁ノ掃除、撒水及除雪ハ前號ニ依ルモノトス

特許ヲ受ケタル者ノ軌道ト他ノ軌道ト交叉スル場合ニ於テハ其ノ交叉面ニ係ル前項ノ義務ハ関係者ノ分擔トス

第十八條　車輛ハ常ニ清潔ニ保持シ其ノ修繕ヲ怠ルヘカラス

国立公文書館
National Archives of Japan

第十九條　福岡県知事ハ何時ニテモ軌道、車輛其ノ他ノ工作物ヲ監査シ危険ナリト認ムルトキハ改築、修補ヲ命シ其ノ命ヲ執行シ終ル迄其ノ使用又ハ営業ヲ停止スルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ危険切迫ナリト認ムルトキハ福岡県知事ハ自ラ其ノ改築修補ヲ為スコトアルヘシ

第二十條　福岡県知事ハ何時ニテモ営業ニ関スル実況ヲ監査シ此ノ命令書ノ條項又ハ此ノ命令書ニ基キテ為シタル處分ニ違反セル事実アルトキハ之ヲ指責シ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ更正スル迄営業ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十一條　特許ヲ受ケタル者ハ鉄道大臣及内務大臣ノ許可ヲ得ルニ非レハ全部又ハ一部ノ営業ヲ廃止スルコトヲ得ス

第二十二條　特許ヲ受ケタル者ハ福岡県知事ノ許可ヲ得ルニ非レハ営業ヲ休止スルコトヲ得ス

第二十三條　鉄道大臣及内務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ原動力ノ変更、其ノ方式、設備、線路若ハ軌道敷設順序ノ変更又ハ交通上必要ナル線路ノ新設若ハ延長又ハ道路ノ擴築又ハ複線ノ敷設若ハ撤去又ハ一部ノ線路ノ廃止ヲ命スルコトアルヘシ

第二十四條　福岡県知事ハ乗客ノ定員、運送賃及発車並営業時間ノ変更ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條　道路、橋梁、水道其ノ他公共事業ノ為必要アルトキハ福岡県知事ハ軌道其ノ他ノ工作物ノ改築若ハ一時撤去ヲ命シ又ハ一時車輛ノ運轉ヲ停止スルコトアルヘシ

交通上危険ノ虞アルトキハ福岡県知事ハ其ノ必要ノ部分ニ限リ一時車輛ノ運轉ヲ停止スルコトアルヘシ

61
国立公文書館 National Archives of Japan

第二十六條　軌道ヲ交叉シ若ハ之ニ接續シ又ハ之ニ接近シテ道路、橋梁
運河、鉄道又ハ他ノ軌道ヲ設クルコトアルモ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ
拒ムコトヲ得ス
第二十七條　道路ニ敷設セル工作物其ノ他営業上必要ナル物件ハ特許
ヲ受ケタル者ニ於テ福岡縣知事ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ讓渡シ
又ハ義務履行ノ擔保ト為スコトヲ得ス
第二十八條　鉄道大臣及内務大臣又ハ福岡縣知事ハ公益上必要ト
認ムル事項ヲ特許ヲ受ケタル者ニ命令スルコトアルヘシ
鉄道大臣及内務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ此ノ命令書ノ
條項ヲ變更スルコトアルヘシ
第二十九條　將來定メラルヘキ所ノ法令ノ結果トシテ此ノ命令書ノ
條項ニ變更ヲ來スコトアルモ特許ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ

得ス
第三十條　特許ヲ受ケタル者ハ半年毎ニ営業ノ報告書ヲ調製シ
三十日内ニ福岡縣知事ニ差出スヘシ
福岡縣知事ハ何時ニテモ営業ニ関スル帳簿、書類等ヲ檢
閲スルコトアルヘシ
第三十一條　國又ハ公共團体ニ於テ公益ノ為軌道其ノ他営業上必要
ナル物件ノ全部又ハ一部ノ專用又ハ買收ヲ為サントスルトキハ特許
ヲ受ケタル者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ對シ補償ヲ求ムルコトヲ得
前項ノ物件ノ範囲ニ付争アルトキハ鉄道大臣及内務大臣之ヲ定ム
第三十二條　前条全部專用ノ場合ニ於テ月ヲ以テ專用期間ヲ算スルト
キハ前年ニ於ケル平均收入月額又ハ前年ノ相当月ノ收入額ヲ標準
トシ補償金額ヲ定メ日ヲ以テ專用期間ヲ算スルトキハ前月ニ於ケル

平均収入日額又ハ前年若ハ前月ノ相当日ノ収入額ヲ標準トシ補償金額ヲ定ム但シ其ノ選擇ハ特許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ為スコトヲ得

前條一部專用ノ場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ノ選擇スル所ニ從ヒ全部ノ延長ニ対スル專用部分ノ延長ノ比例ヲ以テ全部專用ノ場合ニ於ケル補償金額ニ乘シ又ハ前項ト同一ノ方法ニ依リ其ノ專用部分ニ對スル補償金額ヲ定ム

前條全部買收ノ場合ニ於テハ年率七分ヲ以テ前五個年間ノ純益平均年額ヲ除シ補償金額ヲ定ム但シ其ノ地方ニ於ケル金利年率ニ著シキ変更ヲ来シタルトキハ鉄道大臣及内務大臣ハ本項ノ年率ヲ変更スルコトアルヘシ

従業員賞與ノ性質ヲ有スル支出ハ前項純益金ノ内ニ算入ス

前條一部買收ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用シテ補償金額ヲ定ム

開業ノ後本條ノ規定シタル時日ヲ経過セサルトキハ既往営業ノ時日ヲ標準トシテ平均額ヲ算出ス

第三十三條　他ノ軌道営業者ニ於テ鉄道大臣及内務大臣ノ許可ヲ得テ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ他営業上必要ナル物件ノ一部ヲ共同使用セムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ其ノ共同使用ノ条件ハ協議ノ上之ヲ定メ協議調ハサルトキハ鉄道大臣及内務大臣之ヲ定ム

第三十四條　左ノ場合ニ於テハ特許ハ其ノ效力ヲ失フ

一、[illegible]書ノ期間内ニ出願ヲ為サヽルトキ又ハ其ノ許可ヲ得サルトキ若ハ其ノ許可カ效力ヲ失ヒタルトキ

二、第五條ノ期間内ニ認可ヲ申請セサルトキ又ハ其ノ認可ヲ得サルトキ
三、第六條ノ期間内ニ工事ニ着手セサルトキ
四、全部ノ営業ヲ廃止シタルトキ
五、會社解散シタルトキ
六、営業満期ノトキ

第三十五條　前条ニ掲ケタル場合ノ外特許ヲ受ケタル者ニ於テ此ノ命令書ノ条項又ハ此ノ命令書ニ基キテ為シタル處分ニ違反シタルトキハ鉄道大臣及内務大臣ハ特許ノ全部又ハ一部ヲ解クコトアルヘシ
特許ヲ受ケタル者カ不可抗力ニ因ラスシテ満一箇月間工事ヲ休止シ更ニ起工セサルトキ亦前項ニ同シ

第三十六條　特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ福岡縣知事ハ期限ヲ定メテ道路ヲ原形ニ復セシムルコトアルヘシ

第三十七條　特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ国又ハ公共団体カ軌道其ノ他営業上必要ナル物件ノ全部又ハ一部ヲ買収セムトスルトキハ特許ヲ受ケタル者ハ最近ノ財産目録ニ記載シタル物件ノ価格ヲ以テ之ヲ売渡スヘシ
買収者ニ於テ前項ノ価格ニ関シ異議アルトキハ其ノ申請ニ依リ鉄道大臣及内務大臣ハ福岡縣知事、買収者及特許ヲ受ケタル者ヲシテ各三名ノ評価委員ヲ選定セシメ其ノ意見ヲ徴シテ其ノ価格ヲ定ム
本條ノ場合ニ於テハ第三十一条第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十八條　特許ヲ受ケタル者ハ鉄道大臣及内務大臣ノ許可ヲ得ルニ非サレハ特許ニ因リテ生スル權利義務ヲ他人ニ移スコトヲ得ス

第三十九條　特許ヲ受ケタル者ニ於テ此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キテ為シタル處分ニ依リ履行スヘキ義務ヲ履行セサルトキハ福岡縣知事ハ自ラ代テ之ヲ執行シ又ハ他人ヲシテ之ヲ執行セシムルコトアルヘシ

第四十條　特許ヲ受ケタル者カ許可ヲ得スシテ營業ヲ休止シ又ハ全部若ハ一部ノ營業ヲ廢止シタルトキハ鐵道大臣及内務大臣ハ市町村ヲシテ營業年限内特許ヲ受ケタル者ノ計算ヲ以テ營業ヲ為サシメ又ハ他人ヲシテ無償ニテ特許ヲ受ケタル者ノ軌道其ノ他營業上必要ナル物件ヲ使用シ營業ヲ為サシムルコトアルヘシ

本條ノ場合ニ於テハ第三十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第四十一條　此ノ命令書及此ノ命令書ニ基キ為シタル處分ニ依リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ履行スヘキ義務ノ為ニ生スル費用並第十九條第二項及第三十九條ノ費用ハ總テ特許ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第四十二條　此ノ命令書ニ基キテ為シタル處分ニ因リ特許ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ受クルコトアルモ其ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十三條　軌道ノ動力ニ他ヨリ電力ノ供給ヲ受ケムトスルトキハ供給契約書ノ謄本ヲ添ヘ供給者ト連署ノ上鐵道大臣及内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四十四條　特許ヲ受ケタル者ニ於テ營業若ハ運輸ノ管理ヲ他ノ軌道業者ニ委託セムトスルトキハ管理委託ニ關スル契約書謄本ヲ添ヘ受託者ト連署ノ上鐵道大臣及内務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四十四條　特許ノ消滅シタル場合ニ於テハ特許ヲ受ケタル者ハ特許状及此ノ命令書ヲ福岡縣知事ノ定メタル期日迄ニ返納スヘシ

大正十一年九月一日

鉄道大臣　伯爵　大木遠吉　印

内務大臣　水野錬太郎　印

右御請候也

大正拾壱年九月弐拾壱日

大阪市東区北濱四丁目弐拾壱番地

門司築港株式會社

取締役　宮崎敬介

鐵道大臣　伯爵　大木遠吉殿

内務大臣　水野錬太郎殿

国立公文書館
National Archives of Japan

内務省
土第303号
12. 1. 30

7.9.

一月廿六日土木局打合済

一月十九日土木局協議済

一六九 十二 二二 廿六

一九二五 一 十二 一 二七

門司築港會社軌道一部工事施行ノ件

113.

番號

福岡縣知事

大正十一年十二月十六日附土第九、三九三號門司築港株式會社軌道一部工事施行ノ件稟伺ノ通

年　月　日

鐵道大臣
内務大臣

国立公文書館
National Archives of Japan

主管 總務 業務

甲

件名 門司築地軌道一部工事施行ノ件

第 次 調査 鐵道 軌道

總務課 受付 大正 年 月 日 調了 大正 十二年 七月 十二日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任 免許 統計 通達

業務課 受付 大正 年 月 日 調了 大正 年 月 日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任 營業 會計

技術課 受付 大正 十二年 一月 十二日 調了 大正 年 月 日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任 土木 車輛 電氣

不備ヲ改整理ノ為代理人出頭セシメ附箋ノ通改訂相成度

決理

延長 五十六鎖

建設費 七万円也

出張ノ際代理人出頭此ノ事改訂

正本交附セン 一月十二日

訂正済交附ス

13/1

鐵道省

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

監督局 第1923號 11.12.20

鐵道省 5383

土第九、三九三号

大正十一年十二月十六日

福岡縣知事 澤田牛麿

内務大臣 水野錬太郎殿

鐵道大臣伯爵 大木遠吉殿

軌道工事ノ一部施行ノ義ニ付稟伺

本年九月一日附監第一六八四號ヲ以テ特許相成候門司築港株式會社軌道敷設ニ關シ今般其ノ一部工事施行ノ義別紙ノ通申請ニ付調査ヲ遂ケ候処支障ノ廉無之相認候條認可致度此段稟伺候也

福岡縣

113

一部工事施行認可追加申請書

大正十一年九月二十三日付ヲ以テ當會社軌道敷設特許線中（門司市日ノ出町九丁目清見町一丁目境起点零間ヨリ四百九十六間迄ノ間）一部工事施行ノ儀御認可ヲ得度及申請置候處右軌道敷設區間ニ於ケル人家連檐ノ場所ニ對シ線路内外石敷工事施行其他ニ付併セテ御認可ヲ蒙リ度関係書類相添ヘ此段申請候也

大正拾壹年拾壹月拾壹日

大阪府大阪市東區今橋二丁目一番地
門司築港株式會社
取締役 宮崎敬介

福岡縣知事澤田牛麿殿

11.11.13
9393

工事方法書

一、軌道ハ全面及軌條外面両側幅員各壹呎六吋ノ部分ニハ別紙添付圖面記示ノ如ク花崗石ヲ使用シ敷石ヲナシ表面ハ軌條面ト同高ナラシムルモノトス

一、電氣軌道間ノ電柱ニハ街燈ヲ附設スルモノトス

工費豫算書

門司築港株式會社

項	目	數量	單價	金額	合計	摘要
軌道費					円 7,425.00	
	石敷	面坪 297.0	円 25.00	円 7,425.00		
合計					7,425.00	

本工費ハ殘區間工事施行ノ際整理可仕候

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

承諾書

大正十一年九月十六日附ヲ以テ御申出相成候
門司市日ノ出町ニ於ケル當會社特許軌道ト
貴社軌道ト接續ノ件承諾仕候也

大正十一年十月九日

小倉市京町
九州電氣軌道株式會社
取締役社長 松方幸次郎 (印)

大阪市東區北濱四丁目三十一番地
門司築港株式會社
取締役 宮崎敬介殿

右原本ニ依リ此謄本ヲ作ル

大正十一年十月九日
門司築港株式会社
社員 高村守成

11.10.11
9393

国立公文書館
National Archives of Japan

軌道接續設計御承認願

今般當會社ニ於テ門司市日ノ出町、田ノ浦間ノ軌道敷設免許ヲ得候處日ノ出町起點ニ於ケル貴社特許軌道トノ接續設計ヲ別紙圖面ノ通リ施行仕度候間御承認被成下度此段奉願候也

大正十一年九月十六日

大阪市東區北濱四丁目二十一番地

門司築港株式會社

取締役　宮崎敬介

九州電氣軌道株式會社

專務取締役　松本枩藏殿

福岡縣 受付 11.10.11

9393

十二行　巴町八（石井印行）

一部工事施行認可申請書

大正十一年九月一日監第一六八四號ヲ以テ鉄
特許相蒙候當會社特許線中門司市日ノ
出町九丁目清見町一丁目境起点零間ヨリ
四百九拾六間ニ至ル間工事施行仕度候間御
認可被成下度御命令書第五條ニ依リ別紙
分割提出書及関係圖書相添此段申請
候也

大正十一年九月二三日

大阪市東區北濱四丁目二十一番地
門司築港株式會社
取締役　宮崎敬介

福岡縣知事安河内麻吉殿

福岡縣 受付 11.9.26 第9393號

添附圖面目録

工事方法書

第壹號 線路平面圖

第貳號 線路縦断面圖

第参號 線路横断面圖

第四號 土工定規圖

第五號 溝橋設計圖

第六號 六指封度軌條及附属品圖

第七號 六指封度製四番轉轍器轍叉設計圖

第七号ノ二 軌条接続箇

第八號 踏切道構造圖

第九號 車庫線設計圖

第拾號 送電線系統圖

第拾壹號 両側式電線路構造圖

第拾貳號 片側式電線路構造圖

第拾参號 所定最大浩車及應力圖表

工費豫算書

運轉管理委托契約書写

軌道連絡協定書写

分割認可申請理由

日ノ出起点四百九拾六間ヨリ終点門司市田ノ浦百七十七番地ノ二地先ニ至ル間ハ目下實測設計中ニ付當該部分ハ完了次第御指定ノ期限内ニ申請スルコトトシ本區間ノミ此際急速ニ工事施行ノ御認可ヲ得テ事業ノ進捗ヲ圖ランドスルモノニ御座候

十二行 罫町八 石井印行

工事方法書

一 軌間

一、軌間ハ内法四呎八吋二分ノ一トス、

二 軌條

一、軌條ハ鋼製工字型ニシテ重量一碼ニ付六十封度ノモノヲ使用シ其形状寸法ハ別紙設計圖ノ通リ

三 軌道

一、全線單線式軌道ヲ敷設ス

一、軌道ノ築造法ハ道路面ヲ約壹呎弐吋堀取リ底部ヲ搗キ固メ六吋餘ノ厚サニ砂利ヲ填ハ充シ充分搗キ固メタル上ニ枕木ヲ配列シ軌條ヲ敷設ス而シテ軌條ノ内外側ニハ軌條面ニテ砂利ヲ敷キ詰メ軌條面ト道路面ト高低ナカラシム

一字訂正
三十六字挿入
一字訂正

一、枕木ハ栗若ハ適當ナル材料ヲ使用シ其寸法ハ幅九吋厚サ四吋二分ノ一長サ七呎トス其ノ配置ハ軌條ノ長サ三十呎ニ對シ十三挺ノ割合トシ其最大間隔ヲ二呎六吋トス

一、待避線ニ於ケル兩軌道ノ中心間隔ハ九呎六吋トス、

四 道路ノ幅員及車体外有効幅員

一、軌道ヲ敷設スル道路ノ幅員及車体外有効幅員ハ別紙土工定規ニ據リ施工スルモノトス

五 踏切

一、道路ノ一側ヨリ他ノ一側ニ軌道ヲ移ス場合及軌道カ車道ヲ横断スル箇所ニハ敷石工ヲ施スモノトス

十二行 罫町八 石井印行

国立公文書館 National Archives of Japan

六　溝橋

一、溝橋ハ何レモ暗渠ニシテ橋臺ハ表面粗石積内部混凝土工ニテ施工シ桁ハ硬質花崗石ヲ架設スルモノトス其構造寸法別紙圖面ノ通リトス

七　線路最急勾配

一、本區間ノ線路最急勾配ハ二十五分ノ一トス

八　線路最小曲線半径

一、本區間ノ曲線最小半径ハ六拾呎トス

九　豫防装置其他

一、地下ニ埋設シタル公衆通信用ノ電信又ハ電話線路水道鐵管瓦斯管其他公共用ノ地下工作物ト交叉シテ軌道ヲ敷設スル場合ハ之ニ對シテ適當ナル豫防装置ヲ施スモノトス又各種ノ人孔制水瓣蓋等ニ接近シテ軌道ヲ敷設スルトキハ操業上支障ナキ様適當ノ距離ヲ保タシムルモノトス

十　車輛

一、車輛ハ目下調査設計中ニシテ追テ詳細工事方法ヲ定メ御指定ノ期限内ニ申請スルモノトス
但シ左記概畧ノモノヲ使用スル計劃トス

一、車種　四輪車
一、輛数　参輛
一、自重　八英噸
一、定員　五十人乘

十二行　巴町八　（石井印行）

一、電動機ノ種類、箇数馬力数及電壓
直流直捲電動機二箇各弐拾五馬力五百五十
「ヴオルト」
一、制御装置ノ種類及箇数　直列並列式弐箇
一、集電装置　トロリーホヱル式一箇（中央）
二、制動装置　手用制動機及電氣制動機

十一　九州電氣軌道トノ接續

一、起点ニ於テ九州電氣軌道株式會社所屬軌道トノ接續ニ関シテハ別紙兼認書ノ通リ承諾ヲ得タリ

十二　車輛修繕設備ノ大要

一、車輛修繕ニ関シテハ當會社車庫内ニ小修繕ニ要スル一切ノ設備ヲ為シ大修繕ニ関シテハ九州電氣軌道株式會社ニ委托スルモノトス

電氣ニ関スル工事方法書

一、送電系統

一、送電系統ハ別紙圖面ノ通リ

二、電氣鐵道ノ方式

一、電氣鐵道ノ方式ハ直流架空單線式電車線ノ最大電壓五百五十「ヴオルト」トス

三、発電所變電所及配電所

一、発電所變電所配電所ハ設置セス

四、饋電線路

一、電線ノ種類ハB、W、G、十二番十九本撚第二種

十二行　罫間八（石井印行）

絶縁被覆銅線トシ架設方法ハ末口五寸以上ノ木
柱ヲ使用シ建植距離ハ百二十呎以下トス、

五　電車線路

一、電車線ハ溝型硬銅線BS貳零番相當線ヲ使用シ其吊架方法ハスパン式及ブラケット式トシ支持物ハ饋電線電柱ト併用スルモノニシテ其構造別紙設計圖ノ通リ

一、軌條ノ接續方法ハ貳零番相當線ヲ以テ完全ニ酸素「ウエルジング」スルモノトス

六　供給電力ノ電氣方式

一、本區間ニ使用スル供給電力ノ電氣方式ハ直流最大電壓五百五十ボルトトシ供給時間ハ九州電氣軌道株式會社ノ電車運轉時間中トス

七　電力供給及責任分界点

本區間ハ別紙運轉管理委託契約書ノ通リ九州電氣軌道株式會社ノ電力ヲ以テ該社ニ於テ一切ノ運輸業ヲ為スモノナルヲ以テ命令書第四十一條ニヨル御許可ヲ申請セズ従テ送電上ノ責任分界点ヲ制定セザルモノトス、

八　受電設備ノ大要

右電力ハ九州電氣軌道株式會社ノ直流架空饋電線ヲ直接當社饋電線ニ接續スルモノトス而シテ歸線ハ連絡点ニ於テ軌條継目板及ボンドヲ以

十二行　巴町八（石井印行）

テ完全ニ電氣的接續ヲ爲スモノトス

十二行 巴町八 （石井印行）

国立公文書館
National Archives of Japan

運轉管理委託契約

門司築港株式會社線日ノ出町田ノ浦間電車運轉ヲ九州電氣軌道株式会社ニ於テ管理スルニ付九州電氣軌道株式会社專務取締役松本枩藏ヲ甲トシ門司築港株式會社取締役宮崎敬介ヲ乙トシ左ノ通契約ス

第一條　甲ハ乙ノ線路内ニ於テ甲ノ車掌運轉手ハ運輸係員並保線係員ヲ使用シ甲ノ電力ヲ以テ乙ノ電車ヲ運轉シ旅客貨物ノ運輸ヲ爲スコトヲ承諾ス

第二條　乙ノ線路内ニ於ケル電車ノ運轉時刻ハ甲ニ於テ乙ト協議ノ上之ヲ定ム其ノ改正変更若クハ休止ノ場合亦同シ但緊急ノ場合ニ於テ乙ト協定ヲ爲スノ暇ナキトキハ甲ハ其ノ旨乙ニ通知スルニ止ムルコトヲ得

第三條　乙ノ線路内ニ於ケル電車ノ運轉取扱方ハ特ニ協定ヲ要スル事項ヲ除クノ外甲ノ定ムル所ニ依ル

第四條　事故其他已ムヲ得サル事情ノ爲運轉ヲ休止変更シタル場合ニ於テ乙ニ損害ヲ及ホスコトアルモ甲ハ其責ニ任セス

第五條　乙ハ東本町三丁目田ノ浦間ノ運轉費、保存費、事故（天災並ニ不法行為ヲ含ム）ノ爲要シタル費用其他本区間ノ營業ニ伴ナ直接間接一切ノ実費ヲ甲ニ支拂フモノトス但電力料金ノ計算ハ別紙契約ニ依リ算定ス

門司築港

国立公文書館
National Archives of Japan

第六條 東本町三丁目ヨリ田ノ浦ニ至ル營業收入ハ乙ノ所得トス

第七條 本契約ハ双方一ヶ年前ノ豫告ヲ以テ之ヲ解除スルコトヲ得

第八條 本契約ノ期間ハ乙ノ線路ガ運輸開始ヲ為シタル日ヨリ滿一ヶ年トス 但シ期間末一ヶ月前迄ニ双方ヨリ何等ノ申出ナキトキハ次ノ一ヶ年間継續スルモノトス以後ノ期間亦同シ

一 本契約ヲ證スル為本書弐通ヲ作製シ各其壹通ヲ保有ス

大正十一年三月二十八日

九州電氣軌道株式会社

門司築港株式會社

専務取締役 松本忝藏 印

取締役 宮崎敬介 印

右原本ト相違無之候也

大正十一年九月十八日

門司築港株式會社

工費豫算書

延長〇哩五六　　門司築港株式會社

項	目	數量	單價(円)	金額(円)	合計(円)	備考
測量及監督費		0.56	6.000.000	3.360.000	3.360.000	
用地費					1.200.000	
	車庫用地		0	0		車庫用地ハ借地スルモノトス
	電柱移轉	350本	20.000	700.000		
	雜費			500.000		
土工費					1.650.000	
	線路切取	130.0坪	8.000	1.040.000		
	車庫地築	12.0	5.000	60.000		
	土留石垣	8.0	20.000	160.000		
	踏切道			390.000		
溝橋費	暗渠	5ヶ所	100.000	500.000	500.000	
軌道費					17.790.000	
	軌條及附屬品	0.8哩	12.000.000	9.600.000		
	枕木	1.850本	2.000	3.700.000		
	砂利	90坪	33.000	2.970.000		
	轉轍器敷設	1.0組	400.000	400.000		
	敷設費	0.56哩	2.000.000	1.120.000		
車輛費	電動客車	3.0輛	10.500.000	31.500.000	31.500.000	
器械場費				1.500.000	1.500.000	
諸建物費		0.56哩	3.000.000	1.680.000	1.680.000	
電話架設費		0.56	200.000	112.000	112.000	
電線路費					4.176.000	
	饋電線	0.56哩	2.000.000	1.120.000		
	電車線	0.56	1.100.000	616.000		
	ボンド	0.56	200.000	112.000		
	架線材料	0.56	300.000	168.000		
	電柱	60.00本	22.000	1.320.000		
	工費	0.56哩	1.000.000	560.000		
	点燈費	0.56	500.000	280.000		
總係費				3.500.000	3.500.000	
豫備費				3.032.000	3.032.000	
合計				70.000.000	70.000.000	

追テ殘区間ニ對スル資金ハ當社拂込金中ヨリ流用シ追テ第二期線工事施行認可申請ノ際整理スルモノトス

85

主管 總務 業務

甲

件名 門司築港 鐵道 軌道

第一次 調査 軌道一部工事施行ノ件（約五百間）（東側）

課	受付	調了	調査ニ要シタル日數	課長	擔任	係
總務課	大正十一年十二月廿一日	大正　年　月　日	日	課長	擔任	免許 統計 通運
業務課	大正　年　月　日	大正　年　月　日	日	課長	擔任	營業 會計
技術課	大正十一年十二月廿一日	大正　年　月　日	日	課長	擔任	土木 車輛 電氣

土木 [illegible]

本件車輛ニ関シ支障ナシト思

備考 命令書第五條ノ工事施行ノ期限ハ大正十二年[illegible]迄ナリ

[illegible]

十二月[illegible]

鐵道省

113

乙

土木ニ関シ左記照會ヲ要ス

一、工事方法書ニ新設枕木ノ最大間隔ヲ明示セラレ度

二、踏切道構造図面ニ人家連擔区域ニ於ケル舗装敷石面ノ舗装詳細ヲ依…中央部寸法ノ外ニ全幅ノ寸法ヲ記入セラレ度

一致セズ ~~両中ヲ相違ス~~

三、線路縦断面図中 160K–200K 間ノ勾配~~相違ス~~ハ施工基面高ヨリ計算スルモノト一致セズ

~~中[illegible]市隣端部ニ於テ本線軌條ノ末端軌條ノ間隔ヲ記入セラレ度~~

五、第十二号片側式電線路構造図添付漏ナリ提出ヲ要ス

六、犬釘ノ長ハ枕木厚ニ対シ過大ナリ

社員出頭訂正スミ
（壹月十三日）

鐵道省

裏面白紙

87

国立公文書館 National Archives of Japan

御請書

門司築港株式會社軌道一部工事施行認可申請ニ関スル左記ノ件ハ内務省福岡縣廳ノ各官廳モ貴省ト同一ニ大正十二年一月廿一日迄ニ無相違加除訂正可仕此段御請候也

左記

一、工事方法書ノ第三軌道ノ部第三項中壹字訂正参拾六字挿入ノ件

一、仝上第四項中弐字訂正ノ件

一、第一号ノ圖中四線ノ起終点及電柱（複柱）區間ト単柱區間ノ境界記入ノ件

一、第二号ノ圖中施工基面高訂正ノ件

一、第四号ノ圖中枕木寸法記入ノ件（複線定規圖標準）

一、第六號圖中犬釘ノ寸法訂正ノ件
一、第八號圖中寸法訂正ノ件
一、第九號圖中車庫線延長記入ノ件
一、第十號圖中電柱材質記入ノ件
一、人家連擔區域敷石作圖寸法訂正ノ件
一、第十二號圖添附ノ件

以上

大正十二年一月十三日

門司築港株式會社
津留英二

鐵道省
御中

委任狀

拙者儀都合ニ依リ津留英二ヲ代理人ト定メ
左ノ權限ヲ委任ス

一、門司築港株式会社軌道一部工事施行認可申請ニ關スル書類及圖面加除訂正ノ件

右委任狀如件

大正十二年一月十二日

大阪市東区今橋弐丁目壱番地
門司築港株式會社
取締役 宮崎敬介

門司築港株式會社

監督局
監第652號
12.2.6

79.

供覽

[redacted]

電監第三一九號

通牒

大正十二年二月五日

遞信省電氣局長

鐵道省監督局長殿

九月一日附監第一六八四號ヲ以テ軌道敷設特許相成候門司築港株式會社ヨリ十一月七日同月十六日及同月廿二日附ヲ以テ電氣事業經營許可申請有之候處本日許可相成候

遞信省電氣局長之印

技術

統計

主管 總務 業務

甲

件名 門司築港軌道假引込線敷設ノ件報告

第 號 調査 大

總務課 受付大正 年 月 日 調了大正 十三年 十一月 九日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任 免許 特許 通達

業務課 受付大正 年 月 日 調了大正 年 月 日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任 營業 會計

技術課 受付大正 年 月 日 調了大正 年 月 日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任 土木 工務 電氣

本件假引込線使用期限 一三、一、三一迄

本件ハ對照資料トシテモ別ニ支障ナキモノト認ム 十一月十日

借覧 總務課長

鐵道省

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

4650
11.8

2196
11.8

土八七八二号

大正十二年十一月五日

福岡縣知事柴田善三郎

内務大臣子爵後藤新平殿
鐵道大臣山之内一次殿

軌道仮引込線敷設認可ノ件ニ付報告

門司築港株式會社ヨリ標記ノ件別紙ノ通リ
申請ニ付調査候処不得已モノト相認メ本日認可
候條及報告候

福岡縣

22

弐拾四字挿入

假引込線敷設認可申請書

大正拾弐年弐月拾日付土第九三九三號ヲ以テ事施行御認可ヲ受ケタル一部工事竣功ノ上ハ一部運輸営業開始致シ度候處右工事ノ内車庫線ハ大正拾弐年拾月七日付ヲ以テ田ノ浦終點ニ位置変更認可申請書提出仕リ置キ候ニ付テハ一部工事施行認可終點ニ於テ別紙圖面ノ通リ假引込線ヲ敷設致シ全線開通ニ至ルマデ一時車輌ヲ停止セシメ度候間御認可被成下度此段申請候也 但シ本假引込線敷設期限ハ大正拾参年壹月末日迄トス

追テ別紙引込線用地ハ門司市道ニシテ該目的ノ為メ別紙寫ノ通リ使用許可済ニ御座候

大正拾弐年拾月七日

大阪府大阪市東區今橋弐丁目一番地
門司築港株式會社
取締役 宮崎敬介

福岡縣知事 澤田牛麿殿

福岡縣 12.10.13

寫

指令第三五五號

大阪市東區今橋弐丁目一番地

門司築港株式會社

大正拾弐年九月四日付大字田ノ浦地内道路占用
願ノ件許可候條左ノ通リ心得ヘシ

大正拾弐年九月弐拾壹日

門司市長　吉川孝一　印

一、占用期限ハ大正拾弐年九月ヨリ大正拾弐年十二月迄トス
一、占用料金ハ壹ケ月金弐拾九圓参拾八銭トシ納入告知
書ニ依リ納付スヘシ
但シ期間中ト雖モ占用料増加スル事アルヘシ
一、占用許可ヲ受ケタル場所ニ存在スル物件ハ返還ノ
日マテニ之ヲ除却スヘシ
一、許可期間ノ満了若クハ願人ノ都合ニ依リ占用ヲ止
メ返還スルトキハ其旨届出ヘシ
一、軌道ハ路面ト全一高サニ布設シ取除後ハ直ニ埋戻
シ搗キ固メ径約壹寸位ノ砂利幅弐間五分厚サ寺
以上撒布スヘシ
一、工事竣功ハ直ニ届出ヘシ
一、作業中ハ常時番人ヲ附スヘシ

内務省
十二四五六號

丙

十一月十六日決

第三三四七號 大正十二年十一月十四日
監軌第一六五一號 大正十二年十一月二日上案
月 日

總務課長

監督局長

鐵道大臣 次官 代決

土木局長

内務大臣 次官

文書課長

[redacted]門司築港株式會社軌道電力供給ニ從フノ件

二一一五八

番號

案

（福岡縣經由）

門司築港株式會社

大正十二年七月二十九日附出願ノ軌道

電力供給ヲ受クルノ件許可ス

年　月　日

鐵道大臣

内務大臣

国立公文書館
National Archives of Japan

主管 総務 業務

鐵道省

甲

件名 門司築港 鐵道 軌道 電力供給method ノ件

第 調査

總務課 受付大正 年 月 日 調了大正十三年十月十九日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任

免許 統計 通達

業務課 受付大正 年 月 日 調了大正 年 月 日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任

營業 會計

技術課 受付大正十三年十月卅日 調了大正 年 月 日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任

工事 車輛 電氣

本件電氣局ニ於テ協議済
二電力供給契約書ニ於テ記
載ノ件支障無之(?)

1/11 決

副申

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

土第六七八九号

大正十二年八月二十日

福岡縣知事 澤田牛麿

内務大臣 水野錬太郎殿
鐵道大臣伯爵 大木遠吉殿

軌道電力供給契約許可申請ニ付副申

門司築港株式會社ヨリ標記ノ件別紙ノ通リ申請來候ニ付テハ御許可相成候樣致度

福岡縣

委任状

拙者儀賀山正雄ヲ代理人ト定メ左ノ権限ヲ委任ス

一、当會社特許線福岡縣門司市日出町九丁目清見町境ヨリ仝市田ノ浦百丈於大字地参地七米ニ至ル間ノ電氣軌道ノ電力供給契約許可申請ニ関スル一切ノ件

右委任状如件

大正拾弐年七月弐拾九日

大阪市東区今橋弐丁目壹番地
門司築港株式会社
取締役 宮崎敬介

福岡縣 受付 8.3 12.
第6278号

電力供給契約許可申請

當會社特許線福岡縣門司市日出町九丁目清見町境ヨリ仝市田ノ浦百七拾七番地ノ貳地先ニ至ル間ノ電氣軌道電力ハ別紙契約書謄本ノ通リ九州電氣軌道株式會社ヨリ供給相受ケ度ニ付御許可被成下度双方連署ヲ以テ此段申請候也

大正拾貳年七月弐拾九日

大阪府大阪市東區今橋貳丁目壹番地
門司築港株式會社
取締役　宮崎敬介

右代理人
福岡縣門司市大字門司貳千五百八拾貳番地ノ四
門司築港株式會社門司支店
支店長　賀山正雄

福岡縣小倉市京町參百五拾八番地ノ貳
九州電氣軌道株式會社
取締役社長　松方幸次郎

鐵道大臣　伯爵大木遠吉殿
内務大臣　水野錬太郎殿

電力供給契約書

門司築港株式會社ノ經營ニ係ル電氣軌道用電力供給ニ関シ九州電氣軌道株式會社專務取締役松本枩藏ヲ甲トシ（以下單ニ甲ト称ス）門司築港株式會社取締役宮崎龍介ヲ乙トシ（以下單ニ乙ト称ス）両者間ニ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條　本契約ハ乙ノ特許線路タル福岡縣門司市日ノ出町九丁目清見町一丁目境ヨリ仝市田ノ浦百七拾七番地ノ貳地先ニ至ル市道上ニ於テ電氣軌道ニ依ル運輸營業ヲナスニ付之ニ要スル電力ヲ甲ヨリ乙ヘ供給スル為メ作製スルモノトス

第二條　供給電氣方式ハ甲カ現在使用セル電氣軌道用六百ヴオルト直流二線式電車線ヨリ乙ノ施設スル單線架空式電氣軌道ヘ供電スルモノトス

第三条　供給時間ハ甲カ実施スル運輸營業時間内トシ乙ノ要求ニ依リ其ノ都度定ムルモノトス

第四條　供給電力ハ最高六拾キロワツトヲ限度トシ其供給地点ハ門司市東本町三丁目ニ於ケル甲ノ施設セル既設電車線路トノ接續点ニ近ク設備スル區劃開閉器トシ送電上ノ責任分界点トス

第五條　供給電力料ハ別ニ計器ニ依リ其電力量ヲ測定セス乙カ運転セル電車運轉一走行哩ニ付金拾六錢ト定メ毎月精算ノ上甲ノ要求ニ依リ支拂フヘキモノトス

第六條　甲ハ左ノ場合ニ於テ送電ヲ休止スルコトアルモ之レカ為メ生スル乙ノ損害ニ対シ其ノ責ニ任セサルモノトス

但シ休止ノ理由ヲ豫知シ得ヘキトキハ甲ハ速ニ乙ニ通報スルモノトス

一、甲ノ設備セル機械器具線路ノ破損、故障、修繕及試験等
ノ為メ送電休止ヲ要スルトキ
二、天災地変其他不可抗力ニ依リ送電不可能ヲ生シタルトキ
第七條 乙ハ甲ノ請求ニ依ル電力料金ノ仕払ヲ怠リタルトキハ甲ハ任意送
電ヲ休止スルコトアルモ乙ハ甲ニ對シ異議ヲ唱フルコトヲ得ス
第八條 本契約ノ有効期間ハ乙カ運轉営業開始ノ時ヨリ満一ヶ年トス期
間満了前双方何等提議ヲナサヾルトキハ更ニ満一ヶ年其効力ヲ有ス
爾後此例ニ拠ル
第九條 本契約有効期間中乙カ他ノ同業者ト合同若クハ其事業ヲ他ニ
売買譲渡シ其運輸事業ヲ第三者ニ移附スル場合ハ第三者
ヲシテ更ニ甲ノ承諾ヲ経タル場合ニ限リ本契約ヲ履行シ得ルモノト
ス

第十條 本契約ハ当該官廳カ認可セサル場合ニ於テハ無効トス
右契約ノ證トシテ本書弐通ヲ作製シ甲乙各其ノ一通ヲ保
有ス
大正拾壱年拾月弐拾八日
福岡県小倉市京町壱百五拾八番地ノ弐
九州電気軌道株式會社
専務取締役 松本枩蔵 (印)
大阪府大阪市東区今橋弐丁目壱番地
門司築港株式会社
取締役 宮崎敬介 (印)
右原本ニヨリ此謄本ヲ作ル
大正拾弐年〆月参拾日 門司築港株式会社
小林功 (印)

（内務省土木局 12. 12. ）
丙

七

十二月四日発

議
監軌 第三四五八號 大正十二年十二月四日
監軌 第三六五三號一 大正十二年十二月十二日

浄書校合

総務部長

監督局長

鐵道大臣 決 官

土木局長

内務大臣 決 官 文書課長

門司築港會社軌道工事方法変更ノ件

番號　案

福岡縣知事

大正十二年十一月十六日附土第六、二四七號門司築港株式會社軌道工事方法變更ノ件稟伺ノ通

年十一月二十日

鐵道大臣

内務大臣

番號　通牒案

鉄二十七號　年　月　日　土木局長

十二月[illegible]施行

福岡縣知事宛

門司築港株式會社軌道工事方法変更ノ件通牒

十一月十六日土第六、二四七號稟伺標記ノ件本日別途指令セラレ候處右ハ鐵柱ノ大サ、使用箇所及工費豫算不明ニ付之カ説明図書ヲ提出スルコト並本鉄柱ハ既設[illegible]ノ建設位置ニ建植スルモノトシテ認メラレタル義ニ付御了知相成度

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

主管 総務 業務

甲

門司築港 鉄道 軌道 第 次

件名 電柱構造ノ件 稟伺

調査

総務課 受付大正 年 月 日 調了大正 年 月 日 調査ニ要シタル日数 日

課長 擔任 発許 統計 通達

業務課 受付大正 年 月 日 調了大正 年 月 日 調査ニ要シタル日数 日

課長 擔任 営業 會計

技術課 受付大正 12 年 11 月 21 日 調了大正 年 月 日 調査ニ要シタル日数 1 日

課長 擔任 車輛 電氣

本件電気ニ関シ支障ナシト認ム 十一月廿一

鐵道省

裏面白紙

土第六、二四七号

十二年十一月十六日

福岡縣知事柴田善三郎

内務大臣子爵後藤新平殿
鐵道大臣　山之内一次殿

軌道工事方法中一部変更認可ノ義ニ付稟伺

門司築港株式會社ヨリ電柱変更ノ義ニ付別紙ノ通リ認可申請ニ對シ調査ヲ遂クルニ不都合ノ廉無之相認ノ候條認可致度此段及稟伺候

33

福岡縣

国立公文書館 National Archives of Japan

工事方法書中一部変更認可申請書

大正拾弐年弐月拾日附土第九三九三號ヲ以テ御認可相成候處ノ一部工事方法書中電車線路項ヲ別紙理由ニ依リ変更仕リ度候間特別ノ御詮議ヲ以テ御認可相成度此段奉願候也

大正拾弐年七月五日

大阪府大阪市東區今橋三丁目一番地

門司築港株式會社

取締役 宮崎敬介

福岡縣知事澤田牛麿殿

添附圖書目録

一、工事方法書中一部變更事項書
一、變更理由書
一、電車線路構造圖（鉄柱）
一、仝上腕金詳細圖

工事方法書中一部変更事項書

一、電車線路ノ項中
支持物ハ饋電線電柱ト併用スルモノニシテアルヲ
支持物ハ木柱又ハ鉄柱ニシテ饋電線電柱ト併用
スルモノニシテト変更ス
但シ鉄柱ノ構造ハ添附圖面ノ通リ「ベージ」式鉄
柱ニ「アングル」鉄材ヲ組合セ製作セルモノニシテ軌
道沿線ニ於ケル逓信省既設架空「ケーブル」線ノ
支障トナル箇所ニノミ之ヲ使用シ其他ノ箇所
ニハ木柱ヲ使用スルモノトス

変更理由書

本電氣軌道ヲ敷設スヘキ道路ニハ地上ニ逓信省港務部警察部陸軍省及九州電氣軌道株式會社ノ既設電柱アリ地下ニハ水道管瓦斯管電纜等ノ工作物アリ其大部ガ車体外ノ有効幅員及電氣工作物規程ニ依ル最小距離ニ抵觸セルヲ以テ之ガ移轉増高防護等ニ莫大ナル費用ヲ要シ経營上甚タ困難ナル爲メ別紙圖面ノ通リ鐵柱ヲ使用シ逓信省架空「ケーブル」線ノ一部ヲ避ケ費用ノ軽減ヲ議ル爲メニ御座候

（内務省丘土第六六號
12. 12. 1.）

十二月四日受

監軌第三四六二號 大正十二年十一月廿四日

監軌第一九五〇一號 大正十二年十二月廿日

總務課長

監督局長

鐵道大臣 次官 代决

土木局長

道路課長 第一技術課長

内務大臣 次官

文書課長

内 要回

門司築港軌道車輌構造ノ件

属大 一六一

番號　案

福岡縣知事

大正十二年六月四日附土第六三六七號門司築港株式會社軌道車輛假
使用ノ件稟伺ノ通

年十二月三十日

鐵道大臣
內務大臣

番號

通牒案

通牒

年　月　日

監督局長
土木局長

福岡縣知事宛

十二月五日處理

大正十二年六月四日附土第六三六七號ヲ以テ門
司築港株式會社車輛構造ノ件稟伺ノ處、該
車輛ノ車輪幅ハ狹キニ失シ既認可轍叉ニ對シ
不適當ナルモ車輪逸出ノ防止方法トシテ轍叉ニ
「チヨツク」ヲ施工シ更ニ相當時期ニ於テ車輪幅ヲ
四吋半ニ改造スルモノトシ本件ハ車輛ノ假使用ニ
關スル稟伺ト看做シ別紙ノ通指令相成候

條了知相成度

国立公文書館
National Archives of Japan

主管 總務 業務

甲

件名 門司築港 車輌構造ノ件 第　次調査　軌道

総務課　受付大正　年　月　日　調了大正十五年十月二十九日　調査ニ要シタル日數　日

課長　擔任　免許　統計　通還

本件 線路ノ出願 [illegible]
未竣工 [illegible] 準備中 [illegible]
許可 [illegible]

業務課　受付大正　年　月　日　調了大正　年　月　日　調査ニ要シタル日數　日

課長　擔任　營業　會計

技術課　受付大正　年　月　日　調了大正　年　月　日　調査ニ要シタル日數　日

課長　擔任　土木　車輌　工務

不備事項整理済ニ付キ
車輌ニ関シ支障ナシ
十一月二十九日
本件土木ニ関シ左記條件ヲ
附シ認可支障ナシト認ム。

（土木）
一、轉轍器轍叉ノ改造ノ設計認可ヲ経テ ~~[illegible]~~
其ノ改造施設ノ上本車輌ヲ使用スルコト ~~[illegible]~~

鐵道省

監4606
12.3.

1956
12.11.3

再出

土第二、三六七号
大正十二年六月四日

内務大臣 水野錬太郎殿
鐵道大臣伯爵大木遠吉殿

車輌構造ノ件ニ付稟伺

門司築港株式會社軌道一部工事施行ノ件ニ付テハ客年二月二日附監第一六九號ヲ以テ認可ヲ得候処今般標記ノ件別紙ノ通申請候ニ付調査スルニ支障ノ廉無之相認メ候條認可致度

車輌構造認可申請書

大正十二年二月十日附土第九三九三號ヲ以テ一部工事施行御認可ヲ受ケタル工事方法書中車輌ハ設計中ニ為メ追テ詳細工事方法ヲ定メ申請スルコトニ相成居リ候處設計完了ニ付別紙ノ通リ工事施行致度候間御認可相成度此段申請候也

大正十二年三月九日

大阪府大阪市東區今橋二丁目一番地
門司築港株式會社
取締役　宮崎　敬介

福岡縣知事澤田牛麿殿

附屬圖面目録

第一號　電動客車設計書　一
第二號　車体之圖　一
第三號　車臺之圖　一
第四號　車輪及車軸之圖　一
第五號　電車手働制動器之圖　一
第六號　電車制動装置之圖　一
第七號　鐵枠網状救命器之圖　一

電動客車設計書

一、車種　四輪電動客車

二、輛数　三輛

三、自重　八英噸

四、定員　座席三十四人 起立十六人 合計四十人

五、定員一人ニ對スル客室面積　二平方呎六

六、最大寸法　長サ二十七呎幅六呎九吋高九呎十一吋

七、車体内寸法　室長十七呎六吋幅六呎 高七呎

八、固定輪軸距　六呎六吋

九、電動機
(イ)種類　直流直捲電動機
(ロ)馬力数及箇数　二十五馬力 弐箇
(ハ)電壓　最高六百「ウオルト」

十、動輪ノ回轉割合　100:13

十一、制御器ノ種類箇数　手働制御器 弐箇

十二、聚電装置ノ種類及箇数　トロリーポール 壱箇

十三、車輪ノ直徑　三十吋

十四、車輪一對ノ輪鐵内側距離　四呎五吋八分ノ五

十五、制動機ノ種類　手働制動機

十六、點燈装置　客室 四箇　運転臺 弐箇　豫備 弐箇　ヘッドライト 弐箇

十七、救命器　鐵枠網状救命器

制動器計算書

手力ヲ30 lbs

巻付棒ノ半径ト $\frac{鎖}{4}$ = $\frac{3\frac{3}{4}''}{2}$ + $\frac{5''}{16}$ = 1.875

歯車ノ歯数ハ 大36個 小12個

ブレーキノ張力 = $\frac{12}{1.875} \times \frac{36}{12} \times 30$ = 575 lbs

$P = \frac{575 \times 21.25''}{2} = 6.109$ lbs

$P_1 = \frac{6.109 \times 30\frac{5}{8}''}{58\frac{3}{4}''} = 3.184$ lbs

$P_2 = 6.109 - 3.184 = 2.925$ lbs

$Q = \frac{575 \times (21\frac{1}{4}'' + 2'')}{2''} = 6.684$

$Q_1 = \frac{6.684 \times 22\frac{5}{8}''}{47''} = 3.217$

$Q_2 = 6.684 - 3.217 = 3.467$

$Q'_1 = \frac{3.217 \times 52.\frac{5}{8}''}{58\frac{3}{4}''} + \frac{3.467 \times 5.\frac{5}{8}''}{58\frac{3}{4}''} =$

$2.893.5 + 348.5 = 3.242$ lbs

$Q'_2 = (3.467 - 348.5) + (3.217 - 2.893.5) = 3.442$ lbs

故ニ車輪ニ對スル壓力ノ合計ハ

$P_1 + P_2 + Q'_1 + Q'_2 = 3.184 + 2.925 + 3.242 + 3.442$

$= 12.793$ lbs

依テ車輛自重（8ton = 17.920 lbs）トノ割合ハ

$100 \times \frac{12.793}{17920} = 71\%$

11.328 ≒63%

主管 總務 業務

甲

件名 門司築港 鉄道 軌道 車輌構造ノ件 案伺

第 次 調査

總務課 受付大正 年 月 日 調了大正 十二年 十一月 十二日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任 免許 統計 通達

業務課 受付大正 年 月 日 調了大正 年 月 日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任 營業 會計

技術課 受付大正十二年十一月十一日 調了大正 年 月 日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任 土木 車輛 電氣

回答

車輌ニ関シ左記照会ヲ要ス

一、車輌図ニ於テ弓形及「コイル」弾機ノ強度計算ニ必要ナル寸法ヲ記入スルコト

二、主要材料ノ材質表ヲ提出スルコト

三、車輪ノ幅狭キニ失シ轍叉ノ関係不適当ナルヲ以テ該幅ヲ四吋以上ニ改ムルコト

備考 追加新図及材料表ハ第三号ノ三図ニ又第四号図ニ於ケル従弾機ノ寸法ハ図面ニ表示ストアルモ何レモ表示洩レナルヲ以テ本文ノ通リ

十一月六日

十一 木ニ関シ車輌ノ第五項照会ノ通リ

電気ニ関シ支障ナシト認ム。

鐵道省

裏面白紙

1472
1472
12.11.3

土第二三六七号

大正十二年十月二十二日

福岡縣知事

内務省土木局長殿
鐵道省監督局長殿

門司築港會社車輛構造ノ件回答

本年七月六日附監軌第七七三號ヲ以テ標記ノ件ニ付御照會ノ趣了承別紙ノ通再調ヲ遂ケ追申致来候條可然御取計相煩度

追テ監軌第七七三號ノ御照會写為念添付致置候

福岡縣

20

写

監軌第七七三號ノ一

大正十二年七月六日

鉄道省監督局長

内務省土木局長

福岡縣知事殿

照会

門司築港会社車輌構造ノ件

（客月四日附土第二三六七號稟伺）

左記事項ハ再調相成度

一、材料表並車軸ト轍叉トノ関係圖ヲ提出スルコト

二、車軸ジャーナル中心間ノ距離及輪鐵ノ巾並輪縁ノ厚サヲ示スコト

三、車体最大高ハ「トロリーポール」ヲ低下シタルトキニ於ケル最頂部迄ノ寸法又車体内部ノ長サハ両仕切板内面間ノ距離ヲ測リ同高サ及幅ト共ニ圖面ニ記入スルコト尚車体最大幅ハ「フトトステップ」ヲ折畳ミタル部分ナラスヤ

四、客車端面圖ニ於ケル臺枠並車体ノ組合部分ヲ詳細ニ示スコト

五、昇降口ニ「コンモートハンドル」ヲ取付ケ引戸ニ二個ノ鎖錠ヲ設クルコト

六、警鐘、乗務員間ノ合圖器及「ベンチレーター」ノ装置アリヤ

七、制動機鎖捲取捲子ノ最小部分ノ直徑ヲ示スコト

八、車臺圖ニ於ケル「ベヤリングスプリング」「フレーム」其他主要部分ノ寸法並電動機ヲ取付ケタルトキニ於ケル車体ノ最低部ト軌條面トノ距離ヲ示スコト

九、車内電線接續圖（電燈回線（豫備燈回線共）ヲ含ム）ヲ提出スルコト

十、電動機ノ構造圖ヲ提出スルコト

車輛構造認可申請追申書

大正拾弐年三月九日附ヲ以テ車輛構造認可申請仕候處大正拾弐年七月拾六日附土第二、三六七號ヲ以テ不備ノ點御照會相蒙リ候ニ付テハ別紙ノ通リ追加訂正仕候間御認可相成度此段追申仕候也

大正拾弐年九月弐日

大阪府大阪市東區今橋弐丁目一番地
門司築港株式會社
取締役　宮崎敬介

福岡縣知事澤田牛麿殿

福岡縣
受付
12. 9. 4
23677號

添附圖書目録

第一号ノ二	追加訂正書	
第二号ノ二	車体圖	（訂正）
第三号ノ二	車台圖	（訂正）
第四号ノ二	車輪及車軸圖	（訂正）
第五号ノ二	手働制動器之圖	（訂正）
第八号	「モーター」取付圖	（追加）
第九号	車輪ト轍叉ノ関係圖	（追加）
第十号	昇降段安全装置圖	（追加）
第十一号	昇降段組立圖	（追加）
第十二号	電車内電線接續圖	（追加）

車輌引戸安全装置明細書

追加訂正書

一、(イ)材料表ハ第三號ノ三圖ヲ以テ示ス
(ロ)車輪ト轍叉トノ關係ハ第九號圖ヲ以テ示ス
二、(イ)車軸ジヤーナル中心間ノ距離ハ五呎九吋四分ノ一トス(第三号ノ二圖中Bヲ以テ示ス)
(ロ)輪鉄ノ幅並輪縁ノ厚サハ第四號ノ二圖ヲ以テ示ス
三、(イ)車体最高ヲ十一呎ニ訂正ス
(ロ)車体内部ノ長サヲ十八呎ニ訂正ス
(ハ)仝　上高サヲ七呎ニ訂正ス
(ニ)仝　上幅ヲ五呎九吋四分ノ三ニ訂正ス
(ホ)車体最大幅ハ雨戸樋並ニ「フートステツプ」ヲ折疊セル部分ト仝一ニシテ六呎九吋四分ノ三トス

（以上三(イ)～(ホ)）第二號ノ二圖ノ通リ

四、基臺枠並車体組合セ部分ノ詳細ハ第二號ノ二圖ヲ以テ示ス
五、昇降口ニハ「コンポートハンドル(グラブハンドル)」ヲ取付ケルコト圖示(第二号ノ二)ノ如ク引戸ニハ一個ノ鎖錠ノ外第十號圖ニ示ス安全器ヲ設備ス
六、警鐘ハ(フートゴンク)ヲ設備シ乘務員間合圖器ハ電氣的装置ニヨル「ベル」ヲ設ケ「ベンチレーター」ハ特ニ装置セザルモノトス
七、制動機鎖捲取捻子ノ最小部分ノ直径ハ三吋八分ノ一トス(第五号ノ二圖ノ通リ)
八、(イ)車体圖ニ於ケル「スプリング」「フレーム」其他主要部分ノ寸法ハ添付圖面ニ表示ス

(四)電動機ヲ取付ケタルトキノ車体最低部ト軌條面
トノ距離ハ第八號圖ヲ以テ示ス
九、電車内電線接續圖ハ第十二號圖ノ通リトス
十、電動機ノ構造ハ第八號圖ヲ以テ示ス

車輌引戸安全装置明細書

圖面ノ略解

第壹圖　本考案引戸安全装置ヲ備フル車輌及引戸ノ側面圖
第貳圖　仝上平面圖
第三圖　仝上要部ニ於ケル縦断面正面圖
第四圖　仝上要部ニ於ケル側面圖
第五圖　引戸後辺
第六圖　包筐（ハ）ノ横断面ナリ

実用新案ノ性質作用及効果ノ要領

本考案ハ閉戸ノ際引戸ノ後辺ニ接スル如キ位置ニ於テ擺動自在制御腕ヲ装置シ昇降垂杆翌臂及連杆等ニ依リ車体ノ下部ニ導通セル引動軸及廻転軸ヲ介シテ車掌台ヲ貫通セル踏鈕ニ聯絡セシメ運転手ガ之ヲ踏下シタル時ニ於テノミ閉戸ヲ自由ナラシメタル車輌引戸安全装置ニシテ圖ニ於テ

イ車体
ロ引戸
ハ閉戸ノ際引戸ノ後辺ニ接スル様引戸ノ通路ニ当リテ車体之ニ定設セル包筐ニ支点ヲ有スル横杆状ノ制御腕ニシテ第六圖ニ示ス如ク他端即チ包筐（ハ）内ニ於ケル端部
（ニ）ハ其形状ヲ短大ニシテ重錘ヲ兼ネシメ前記制御腕端ヲシテ常ニ引戸ノ通路ニ突出セントスル傾向ヲ保タシム
（ホ）ハ（ハ）ノ垂下ニ於テ車体（イ）ニ縦設シタル昇降杆ニシテ其ノ上端ハ包筐（ハ）内ニ押通シテ前記制御腕ノ一端

(リ)ニ壊セシム

(ホ)ハ図示ノ位置ニ於テ昇降桿(チ)ノ下端ニ対応スヘキ位置ニ夫々杠上臂(ワ)ヲ附設シ(チ)ノ下点ヲ支承セシム

(ヌ)ハ前後部ノ杠上臂(ワ)ヲ有スル(ホ)ヲ聯結スルモノニシテ矢ノ方向ニ引ク丶螺状弾機(ヘ)ニ依リ常ニ旧位置ヲ保タシメトレ其ノ一端ハ(ヲ)ニ聯結ス(ヲ)ハ聯結桿(ヌ)ニ依リ一端ヲ引カレ他端該臂点ニテ踏鈕下端ヲ支承ス

今図ニ於テ本装置ノ作用ヲ述ヘニ踏鈕(リ)ヲ踏下スル時ハ(ヲ)ノ該臂点ヲ壓シテ聯結桿(ヌ)ヲ左方ニ牽引スルカ故ニ臂(ヘ)ハ(ホ)ニ廻転ヲ与ヘテ(ホ)ニ定着セル(ワ)ニ廻転作用ヲ与ヘ其先端ハ昇降杆(チ)ヲ杠上シ仍テ該杆(チ)ノ上端ハ包筐(ハ)内ニ於ケル制御腕(ロ)ノ根部(ワ)ヲ衝キ上ケ為メニ腕(ロ)ノ制御端ハ第六図ニ鏈線ヲ以テ示ス如ク下方ニ擺動シテ引戸(ロ)ノ端面第五図(ク)ヨリ離レ従テ引戸ハ何等障害物ナクシテ以テ容易ニ開キ得ヘシ但シ上記作用ハ車輛一側ニ於テハ各引戸ニ対シ同所ニ同一ノ作用ヲ生セシムル事勿論ナリ

次ニ踏鈕(リ)ハ踏下作用ヲ絶ツ時ハ螺状弾機(ト)ノ弾撥ニ依リ連杆(ヌ)ヲ旧位置ニ復セシメ臂(ヘ)ヲ介シテ軸(ホ)又ハ(ワ)ニ反対方向ノ廻転ヲ与ヘ各昇降杆(チ)ヲ下降セシムルヲ以テ制御腕(ロ)ハ包筐内ニ於ケル重錘(ワ)ノ為メ昇降杆(チ)ノ下降ニ従ヒテ制御端ヲ引戸ノ通路内ニ突出セシメントスル傾向ヲ生シ引戸ヲ閉鎖シタル時ハ第三図及六図ノ位置ニ復シテ引戸ノ後辺ニ接シ以後絶対ニ開戸ナス不能ナラシムルモノトス　猶開戸中ハ

制御腕(6)ハ戸(2)ノ帯部ニ接スルカ故ニ踏鈕(1)ヨリ
足ヲ離ストキ制御腕ハ戸面ニ接スルノミニシテ直ニ旧位
置ニ復スル事ナリ全ク閉戸シタル時ニ於テ(6)ハ其
ノ接点ヲ失シ通路ニ突出シ閉戸シ能ハサル状態ト
ナル

請書

車輪幅ヲ四吋半以上ニ改ムル様御命令ノ處差當リ
之ヲ四吋トシ「ポイントクロッシング」ニ鑄鐵チョックヲ施工
シ車輪ノ逸出ヲ防キ更ニ車輪取換ノ時期ニ於テ
四吋半ニ改造可仕候也

大正十二年十一月二十九日

門司築港株式會社
取締役 五島慶太

鐵道省御中

委任狀

一 拙者儀鈴木[illegible]七ヲ代人ト定メ左ノ權限ヲ委任ス

一、大正十二年三月九日附車輛構造認可申請書及附屬圖書類加除訂正ニ關スル一切ノ件

右代理委任狀仍テ如件

大正十二年十一月二十九日

門司築港株式會社

取締役 五島慶太

御請書

大正十二年九月十九日附車輌構造認可申請書中左記條項加除訂正ノ件内務省、福岡縣提出ノ分モ遅滞無ク整理可仕此段御請候也

大正十二年十一月二十九日

大阪府大阪市東區今橋二丁目一番地
門司築港株式會社
取締役　五島慶太
右代理人　鈴木幸七

鐵道省御中

目黒蒲田電鐵株式會社

記

一、車台ニ於テ弓形及「コイル」弾機ノ強度計算ニ必要ナル寸法ヲ記入スルコト

図面ヘ記入致候

二、主要材料ノ材質表ヲ提出スルコト

別紙ノ通リ提出致候

三、車輪ノ幅狭キニ失シ轍叉トノ関係不摘當ナルヲ以テ該幅ヲ四吋以上ニ改ムルコト

車輪幅ヲ訂正致候

目黒蒲田電鐵株式會社

監軌第一九七二號ノ一

大正　年　月　日

大正十二年十一月七日主査

總務課長

監督局長

土木局長

案

番號

年　月　日　兩局長

福岡縣知事宛

鉄三二一八

内

門司築港株式會社軌道車輌構造ノ件
（客月二十三日附土第六三六七號回答）
左記事項再調相煩度

（三）

回議用紙

監軌第一九五六二號
大正十二年十一月三十日

監督局長 了
總務課長 不在

淨書校合

電報案

福岡縣知事宛

門築九軌九、土第六、三六七號 土第六、二四七號 各指令濟
土第七、二一一號 土第七四七四號 各指令濟
土第八、三〇九號

鐵道省監督局長

鐵道省

90

（内務省土木第九〇號 12. 12. 12）

丙

十二月十二日受

監軌 第三五三五號 大正十二年十二月十二日
第三六三一號 大正十二年十二月十一日

鐵道大臣 次官
監督局長 代 總務課長

内務大臣 次官
土木局長 文書課長

門司築港軌道工事方法変更ノ件

道路課長

浄書校合

大正一二、一二、一一 鉄第二三六九

回議用紙 鐵道省

番號　案

大正十二年十二月七日附福岡縣知事土第一〇二四八號門司築港株式會社軌道工事方法變更ノ件稟伺ノ通

年　月　日

鐵道大臣

内務大臣

主管 總務 業務

甲

件名	第　次　鐵道 軌道　門司築港軌道工事方法變更ノ件
總務課 調査	受付 大正　年　月　日 調了 大正十五年十二月十一日
調査ニ要シタル日數	日
課長	
擔任	免許 統計 通達
	本件線路ノ構造變更ニ付テハ線路ノ件ト同時ニ處理スルヲ適當ト認ム
業務課 調査	受付 大正　年　月　日 調了 大正　年　月　日
調査ニ要シタル日數	日
課長	
擔任	營業 會計
技術課 調査	受付 大正　年　月　日 調了 大正十五年十二月十一日
調査ニ要シタル日數	日
課長	
擔任	土木 車輛 電氣
	支障ナシト認ム（印）

案伺

鐵道省

軌3622
12.12.10

大12.12.10 鐵道省

土一〇二四

大正十二年十二月七日

福岡縣知事 柴田善三郎

内務大臣子爵後藤新平殿
鐵道大臣 山之内一次殿

軌道工事方法一部變更認可ノ義ニ付稟伺

門司築港株式會社ヨリ軌道ノ構造變更ノ義ニ付別紙ノ通リ申請ニ付調査候處支障無之相認メ候條認可致度

福岡縣

工事方法一部變更認可申請書

本年貳月拾日附土第九三九三號ヲ以テ一部工事施行御認可相蒙候添附圖面中轍叉ノ構造ヲ別紙圖面ノ通リ變更仕度候條特別ノ御詮議ヲ以テ至急御認可被成下度此段申請候也

大正拾貳年拾壹月二十九日

大阪府大阪市東區今橋貳丁目壹番地

門司築港株式會社

取締役　宮崎敬介

福岡縣知事柴田善三郎殿

12.12.7

国立公文書館
National Archives of Japan

変更事項

一、轍叉翼軌條間隔壹吋四分ノ三ヲ壹吋八分ノ三ニ変更ス

輪鉄幅四吋ノ車輌使用ノタメナリ

国立公文書館
National Archives of Japan

監収第二六七一號　大正十二年十二月十二日

監督局長

總務課長

電報案

福岡縣知事宛

門築十三五三卅號、十三九三

門築十六〇七〇號、十一〇二四八號指令濟

監督局長

（内務省土木局）
12. 12. 12

丙

十二月十二日受

監軌

監 第三五三六號 大正十二年十二月十二日

第三六七一號 大正十二年十二月十二日

浄書校合

鐵道大臣 次官代理

監督局長

總務課長

内務大臣 次官

土木局長

文書課長

道路課長

第一技術課長

門司築港軌道一部工事施行ノ件

回議用紙

鐵道省

番號　案

福岡縣知事

大正十二年十一月十三日附土第六〇七〇號門司築港株式會社軌道一部工事施行ノ件稟伺ノ通

年　月　日

鐵道大臣

内務大臣

主管 總務 業務

甲

件名 門司築港 鐵道 軌道 軌道一部工事施行ノ件 案伺

第　次調査

總務課	受付大正　年　月　日 調了大正十五年十一月十一日	調査ニ要シタル日數　日
課長	擔任	發許　統計　通運

業務課	受付大正　年　月　日 調了大正　年　月　日	調査ニ要シタル日數　日
課長	擔任	營業　會計

技術課	受付大正　年　月　日 調了大正十二年十一月十一日	調査ニ要シタル日數　日
課長	擔任	土木　車輛　電氣

本線別途敷設及撤去 [illegible]
連絡線設計図提出 [illegible]
[illegible] 営運為 [illegible]

支障ナシ（十一日）

鐵道省

141

4731
11.19
2067
11.19

土六〇七〇

大正十三年十一月十三日

福岡縣知事 柴田善三郎

内務大臣子爵後藤新平殿
鐵道大臣 山之内一次殿

軌道敷設残區間工事施行認可申請ニ付稟伺

門司築港株式會社ヨリ標記ノ件ニ付別紙ノ通リ申請ニ付調査候処支障無之相認メ候條認可致度此段及稟伺候

34

残區間工事施行認可申請書

大正拾壹年九月一日監第一六八四號ヲ以テ特許ヲ受ケタル當社特許線中起点ヨリ四百九拾六間ニ至ル間ハ大正拾弐年弐月拾日附土第九弐九三號ヲ以テ一部工事施行ノ御認可ヲ蒙リ目下工事施行中ノ處残區間四百九拾六間ヨリ九百五拾間（門司市大字田ノ浦百七拾七番地ニ）特許線終点ニ至ル間モ引續キ工事施行仕リ度候條特別ノ御詮議ヲ以テ至急御認可被成下度關係圖書相添此段申請候也

大正拾弐年六月参拾日

大阪府大阪市東區今橋三丁目一番地

門司築港株式會社

取締役 宮崎敬介

福岡縣知事澤田牛麿殿

6070

添附圖書目録

一　工事方法書
二　工費豫算書
三　線路平面圖
四　線路縦断面圖
五　線路横断面圖
六　土工定規圖
七　路切道構造圖
八　溝橋設計圖
九　停留場定規圖
十　電車線路構造圖
十一　所定動荷重及應力表

工事方法書

一、軌間
軌間ハ内法四呎八吋二分ノ一トス

二、軌條
軌條ハ鋼製工字型ニシテ重量一碼ニ付六拾封度トス大正拾弐年弐月拾日附一部工事施行認可ノ通リ

三、軌道
一、軌道ハ單線式軌道ヲ敷設シ五百拾五間ヲ中心トシテ待避線ヲ設クルモノトス但シ本區間營業ト同時ニ既認可大久保停留場ハ本待避線箇所ニ位置ヲ變更スルモノトス
一、軌道ノ築造方法ハ道路面ヲ約壹呎参吋ノ深サ掘下ケ其ノ底面ヲ搗固メ約六吋ノ厚サニ砂利ヲ入レ充分搗固メタル後枕木ヲ配置シ軌條ヲ敷設スルモノトス
軌條ノ内外側ニハ軌條面迄砂利ヲ敷詰メ道路面ト高低ナキ様施行スルモノトス
一、枕木ノ材質寸法、配置間隔等ハ大正拾弐年弐月拾日附ヲ以テ一部工事施行ノ認可ヲ得タルモノノ通リトス
一、待避線ニ於ケル両軌道ノ中心間隔ハ九呎六吋トス

四、道路ノ幅員及車体外有効幅員
一、軌道ヲ敷設スル道路ノ幅員及車体外有効幅員ハ別紙土工定規ニ據リ施工スルモノトス

五、路切
一、道路ノ一側ヨリ他ノ一側ニ軌道ヲ移ス場合及軌道カ

車道ヲ横断スル箇所ニハ敷石工ヲ施スモノトス

六 溝橋

溝橋ハ何レモ暗渠ニシテ橋臺ハ粗石積、其ノ基礎ハ栗石及混凝土トス桁ハ松材ヲ使用シ別紙圖面ノ通リ施行スルモノトス

七 線路ノ最急勾配

本區間ノ線路最急勾配ハ弐百分ノ一トス

八 線路ノ最小曲線半径

本區間ノ曲線ノ最小半径ハ拾六間トス

九、豫防装置其他

一 地下ニ埋設シアル電纜、水道鉄管、瓦斯鉄管、其ノ他公共用ノ地下工作物ト交叉シテ軌道ヲ敷設スル場合ハ之レニ對シテ適當ナル豫防装置ヲ施スモノトス又各種ノ人孔制水弁蓋等ニ接近シテ軌道ヲ敷設スル場合ハ操業上支障ナキ様適當ノ距離ヲ保タシムルモノトス

八字削除
参拾字挿入

十 車輌

本區間ニ運轉スヘキ車輌ハ~~既認可ノ~~大正拾弐年参月九日附提出ノ車輌構造認可申請中ノモノト同一トス

十一 電氣鉄道方式

一 電氣鉄道ノ方式ハ直流架空單線式トシ電車線ノ最大電壓ハ五百五拾「ヴオルト」トス

十二 電車線路

一 電車線ハ溝型硬銅線BS式零番相當線ヲ使用シ其ノ吊架方法ハスパン式トシ電柱ハ木柱ヲ使用シ側柱式ニ依リ百弐拾呎以内ノ距離ニ建設スルモノニシテ其

ノ構造ハ別紙圖面ノ通リトス

十三　其ノ他

一、電氣ニ關スル右二項以外ノ方式、軌條接續方法等ハ大正拾貳年貳月拾日附土第九三九三號ヲ以テ一部工事施行認可ヲ得タルモノト同一トス

自清見起点四百九拾六間
至仝上九百五拾間

工費豫算書

延長456.0=約0.52哩

門司築港株式會社

項	目	單位稱呼	數量	單價	金額	備考
測量及監督費					4,160	
		哩	0.52	8,000	4,160	
用地費					1,800	
	停留場用地	面坪	25	70	1,750	
	雑費				50	
土工費					4,000	
	線路切取	立坪	150	8.	1,200	
	水道鐵管移轉	間	90	25	2,250	
	路面復舊其他雑費				550	
溝橋費					560	
	暗渠径間弐呎六吋	ケ所	2.	55	110	
	仝上 弐呎	仝	9.	50	450	
軌道費					16,584.	
	軌條及附属品	哩	0.62	9,700	6,014	
	枕木	挺	1,450	2.5.	3,625	
	ポイント枕木	仝	55	9.	495	
	轉轍器及轍叉	組	2.	490	980	
	砂利	立坪	150	22	3,300	
	敷設費	哩	0.62	3,500	2,170	
電話線架設費					106	
		哩	0.52	200	106	
電線路費					4,420	
	電柱、電車線、架線材料、碍子其他一式	哩	0.52	8,500	4,420	
総係費					1,000	
豫備費					17,372	車庫及仝用地其他ヲ見込ム
					50,000	

主管　總務　業務

甲

件名　門司築港軌道一部ノ未施行ノ件　鐵道　軌道

第　次　調査

總務課　受付大正　年　月　日　調了大正十三年十一月　日
調査ニ要シタル日數　　日

課長　　擔任
發許　統計　通達

業務課　受付大正　年　月　日　調了大正　年　月　日
調査ニ要シタル日數　　日

課長　　擔任
營業　會計

技術課　受付大正12年11月22日　調了大正　年　月　日
調査ニ要シタル日數　　日

課長　　擔任
土木　車輌　電氣

約四萬五千四百
此經費　五万円

土木ニ関シ次記照会ヲ要ス。
一、線路面ヨリハ土工盛硯[illegible]個所アルモ土工盛硯岩ニテハ削除ニ[illegible]適用[illegible]

車輌ニ関シ支障ナシト認ム
電氣ニ関シ支障ナシト認ム

案伺

鐵道省

34

主管　總務　業務

甲

鐵道省

件名	第　次　調査	門司築港軌道ノ部工事施行ノ件　鐵道 軌道
總務課	受付大正　年　月　日 調了大正 十五年 十一月　日 調査ニ要シタル日數	課長 擔任 免許　統計　通達
		本件線路ノ出願ニ 特許...
業務課	受付大正　年　月　日 調了大正　年　月　日 調査ニ要シタル日數	課長 擔任 營業　會計
技術課	受付大正　年　月　日 調了大正　年　月　日 調査ニ要シタル日數	課長 擔任 土木　車輛　電氣
		~~本件ニ關シ代人出頭シ工事着手~~ ~~...文書ヲ認ム~~ 一、車輪ノ鉄幅四吋ノ走行ニ適應スル轍叉部設計書ヲ提出スルコト（十二月二日）

150

委任状

一拙者儀鈴木幸七ヲ代人ト定メ左ノ権限ヲ
委任ス

一大正十二年六月三十日附残区間工事施行ニ認可
申請書中加除訂正ニ関スル一切ノ件

右代理委任状仍テ如件

大正十二年十二月二日

門司築港株式會社
取締役 五島慶太

御請書

大正十二年六月三十日附残區間工事施行認可申請書中左記條項加除訂正ノ件内務省、福岡縣ヘ提出ノ分モ遅滞無ク整理可仕此段御請候也

大正十二年十二月三日

門司築港株式會社

取締役　五島慶太

右代理人　鈴木幸七

鐵道省御中

目黒蒲田電鐵株式會社

記

一、線路圖ニヨレバ土工定規第二號ト適要個所アルモ土工定規圖ニテハ削除シテ其適要ケ所ナキガ如シ
線路圖ニ示ス如ク土工定規第二號ヲ適要スヘキニ付土工定規圖ニテ削除セルヲ生カシ候

一、本申請始点ニ於ケル施工基面高ト既認可線施工基面高トノ関係ハ線路縦断面ニ朱書仕候

目黒蒲田電鐵株式會社

主管 總務 業務

甲

件名 第 次 調査 門司築港 鐵道 軌道 軌道中心線変更ノ件

鐵道省

總務課 受付大正 年 月 日 調了大正 十五年 十一月 十一日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任

発許 統計 通達

業務課 受付大正 年 月 日 調了大正 年 月 日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任

營業 會計

技術課 受付大正 年 月 日 調了大正 年 月 日 調査ニ要シタル日數 日

課長 擔任

土木 車輛 電氣

本件土木局ニ支障ナシト認ム

十二月廿五日

本件ハ既ニ認可土工定規内ニ於テ変更ナルモノト認ム

供覧

總務課長

（本件内務ニ照会シ協議ノ結果内務省ヨリ照会シ結了ノ旨大正十五年七月十六日付通牒アリタリ）

技手

土　第一〇六五号

大正十二年十二月十八日

内務大臣子爵後藤新平殿
鉄道大臣　山之内一次殿

電気軌道中心線変更認可報告

門司築港株式会社ヨリ標記ノ件ニ付別紙ノ通申請候條調査ヲ遂ケタルニ支障ナキ様認メ本日認可候條
及報告候

12 12 24 監 5345
飲 3756 12.12.24

電氣軌道中心線変更認可申請書

大正十二年二月十日附土第九三九三號及仝年十二月十五日附土第六〇七〇號ヲ以テ工事施行御認可相蒙リ候當社電氣軌道中心線ヲ別紙圖面ノ通変更致度候間御認可被成下度此段申請候也

追而本設計変更ニ伴ヒ大久保海岸停留所ノ配線モ添附圖面ノ通リ変更スルモノトス

大正十二年十二月十六日

大阪府大阪市東区今橋二丁目一番地
門司築港株式會社
取締役 宮崎敬介

福岡縣知事柴田善三郎殿

變更理由

一、地上、地下工作物ト規定ノ距離ヲ保タシムル爲

二、大久保海岸停留場轉轍器及轍叉部分ニ於ケル電車走行ヲ圓滑ナラシムル爲

国立公文書館 National Archives of Japan

寫

完了

丙

主管局號及受付月日

合議局號及受送月日								
第　號	第　號	第　號	第　號	第　號	第　號	第　號	第　號	第　號
受 月 日 送 月 日	受 月 日 送 月 日	受 月 日 送 月 日	受 月 日 送 月 日	受 月 日 送 月 日	受 月 日 送 月 日	受 月 日 送 月 日	受 月 日 送 月 日	受 月 日 送 月 日

起案 大正一三年二月一九日

決判 二月二十一日

施行 二月二十一日

局長 土木局長（印）

課長 道路課長 了（印）

主任（印） 月 日

（乙第七九號）番號 案

十三年二月二十一日 土木局長

福岡縣知事宛

門司築港軌道中心線並配線変更ノ件照會

客年十二月十八日土第一〇六〇五號報告標記ノ件ニ付中心線並配線ノ新舊對照圖書提出相成度

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

12.12.24 第5308號 鉄道省

土第九六〇号

大正十二年十二月十八日

福岡縣知事 柴田善三郎

内務大臣子爵後藤新平殿
鉄道大臣 山之内一次殿

軌道運輸開始許可報告

門司築港株式會社ヨリ別紙ノ通リ門司市日之出町九丁目清見町一丁目境ヨリ全市田ノ浦ニ至ル間ノ運輸開始許可出願ニ付實査ヲ遂ケルニ支障ノ廉無之相認メ本日許可候條及報告候也

運輸開始許可願

當社特許線門司市日ノ出町九丁目清見町一丁目境ヨリ仝市田ノ浦ニ至ル間ノ電氣軌道敷設工事ハ本日竣功仕候ニ付テハ運輸營業開始仕度候間特別ノ御詮議ヲ以テ至急御検査ノ上御許可被成下度此段奉願候也

大正十二年十二月十五日

大阪府大阪市東區今橋三丁目一番地
門司築港株式會社
取締役 宮崎敬介

福岡縣知事柴田善三郎殿

12.12.14

停留場位置及名称

名称	位置	地番
日ノ出町九丁目	〇間/〇	門司市大字門司二、二四八番地先
大久保越	一九五/〇	仝上 二、五五六番地先
大久保海岸	五一五/〇	仝市大字田浦 六五番地先
新開	七四〇/〇	仝上 七番地先
田ノ浦	九四五/〇	仝上 一七七番地先

内務省 土第一二九號 七

161

(3)

七月十日

監第一三六三號 大正十三年七月二十日 發送又ハ受領 淨書 書印 校者 合印

監第一二〇八號 大正十三年六月二十八日 立案

(遞)第一二七一二

大正十三年七月十日 決裁

總務課長

監督局長

鐵道大臣 次官

土木局長

道路課長

港灣課長

内務大臣 次官

門司築港株式會社客車設計ノ件

141

案

番號
（福岡縣經由）門司築港株式會社
大正十三年四月十九日附門支發第八六號申請客車設計ノ件認可ス

年七月十日

鐵道大臣
内務大臣

主管 總務 業務

甲

鐵道省

件名 門司築港客車設計ノ件

鐵道 軌道

第　次調査

總務課

受付大正十三年六月十四日

調了大正　年　月　日

調査ニ要シタル日數　日

課長　擔任

免許　特許　通達

本件ハ代理人出頭ニ付不備事項整理相成度

業務課

受付大正　年　月　日

調了大正　年　月　日

調査ニ要シタル日數　日

課長　擔任

營業　會計

技術課

受付大正　年　月　日

調了大正　年　月　日

調査ニ要シタル日數　日

課長　擔任

車輛　電氣

不備事項整理済ニ付キ支障ナシト認ム　六月[illegible]日　車輛

[illegible]

141

土三九九五

大正十三年五月二十二日

福岡縣知事　齋藤守圀

鐵道大臣　小松謙次郎殿
内務大臣　水野錬太郎殿

電車構造認可申請ノ件副申

門司築港株式會社ヨリ標記ノ件別紙ノ通申請ニ付調査候處不都合無之樣被認候條御認可相成候樣致度

監督局
監第1204號
13. 5. 26

13. 5. 26
4987

一福岡縣

門文發第八六號

車輌認可申請

當會社電氣軌道營業線（自門司市東本町至仝市田ノ浦間）ニ使用スル目的ヲ以テ別紙設計圖書ノ車輌購入致度ニ付御認可被成下度此段及申請候也

大正拾參年四月拾九日

大阪府大阪市東区今橋弐丁目一番地

門司築港株式會社

取締役　宮崎敬介

鐵道大臣　小松謙次郎殿

内務大臣　水野錬太郎殿

車輛設計書

車種　電動客車並等四輪車
輛數　貳輛
自重　七英噸
定員
一、座席定員　二十四人
一、起立定員　十六人
定員一人ニ對スル客室面積　貳、七四平方呎
主要寸法及車体構造ハ添付圖面ノ通リトス
一、最大寸法
前後バンパー間ノ距離　二十六呎四吋・
幅　七呎六吋・
高サ軌條面ヨリ集電裝置最上部迄　十一呎五吋八分ノ一・
一、車体寸法
客室ノ長サ　十七呎四吋・
〃　幅　六呎四吋・
〃　高サ　七呎一吋二分ノ一・
一、固定輪軸距離　六呎・
一、軌條面ヨリバンパー中心迄ノ高サ　一呎十吋八分ノ一・
臺框ノ構造ハ添付シタル車体圖面ノ通リトス
トラツクノ構造ハ添付シタル圖面ノ通リトス
車輛車軸ノ構造ハ添付シタル圖面ノ通リトス

阪神急行電鐵株式會社

一、車輪ノ直徑　三十吋・
一、車輪一對ノ輪鐵內側距離　四呎五吋四分ノ三、
擋彈機ノ構造ハ添付シタル圖面ノ通リニシテ其ノ裝置ハトラツク圖面ニ示ス通リトス
制動機ノ種類及裝置
手用制動機及電氣制動機ヲ用ヒ添付セル圖面ノ通リトス
客車內點燈ノ種類及設備
白熱電燈百ヴオルト三十二燭光六個及三ヴオルト四燭光豫備
白熱電燈二個並ニ百ヴオルト百燭光前照燈一個ニシテ電線接續
圖ニ示ス通リトス
電動機ノ構造ハ添付セル圖面ノ通リニシテ左ノ如キモノトス
一、電動機ノ種類　AEG型　直流直捲式
一、個數　二個
一、馬力數　二十五馬力
一、歯車ノ比　60/14
一、電壓　六百ヴオルト
制御器ノ種類　AEGコントローラー
制御器ノ個數及裝置
制御器ハ各運轉臺ニ一個宛合計二個裝置ス
集電裝置ノ構造ハ添付セル圖面ノ通リトス
集電裝置ノ種類　トロリーポール
集電裝置ノ個數　二個

同上
二行追加

車內電線接續ハ添付セル電線接續圖ノ通リトス
救難器ハ添付セル圖面ノ通リトス
音響器ノ種類　フートゴング
乗務員間ノ合図用トシテ運轉台ノ前後ニ手働合図鈴ヲ
取付クルモノトス

阪神急行電鐵株式會社

主要材料表

名稱	客車	摘要
緩衝装置	中軟鋼	
ソールバー	棒	
筋違根太、横根太 縦根太	〃	
長桁	〃	
柱類	〃	
ホキールセンター	、中硬鋼	
輪鐵	、最硬鋼	
車輪	、半硬鋼	
擔弾機	、最硬鋼	
ブレーキギアー	、中鑄鋼	

阪神急行電鐵株式會社

圖面目次

一、車体及臺枠圖
一、車臺圖
一、電車内電線接續圖
一、車軸明細圖
一、車輪及車軸圖
一、手働ブレーキ圖解
一、ベベル ホヰール及ピニオン圖
一、モートル圖
一、繼續器明細圖
一、撥彈機圖
一、トロリーベース圖
一、撒叉圖

以上

阪神急行電鐵株式會社

制動器計算書

手力ヲ 30 lbs トス

巻付棒ノ半径 $\frac{1\frac{21}{32}''}{2} = 0.8281''$

歯車ノ歯数ハ　大 15個 小 10個

巻付棒中心ヨリ握手中心迄 9.5″

(ブレーキ張力) $B = \frac{9.5}{0.8281} \times \frac{15}{10} \times 30 \times 2$

$= \frac{9.5 \times 15 \times 30 \times 2}{8.281} = 1032.484^{\#}$

$C = B \times \frac{15\frac{7}{8}''}{3} = \frac{1032.484 \times 15\frac{7}{8}}{3} = 5464.249^{\#}$

$C_1 = C \times \frac{\underset{(2'-5\frac{9}{16}'')}{29.5625}}{\underset{(4'-9\frac{1}{8}'')}{57.125}} = \frac{5464.249 \times 29.5625}{57.125} = 2827.778^{\#}$

$C_2 = C - C_1 = 5464.249^{\#} - 2827.778^{\#} = 2636.471^{\#}$

$D = B \times \frac{15\frac{7}{8}'' + 3''}{3''} = \frac{1032.484 \times 18\frac{7}{8}}{3} = 6462.7118^{\#}$

$D_1 = D \times \frac{\underset{(2'-\frac{1}{2}'')}{24.5}}{\underset{(3'-9\frac{1}{2}'')}{45.5}} = \frac{6462.7118 \times 24.5}{45.5} = 3479.721^{\#}$

$D_2 = D - D_1 = 6462.7118^{\#} - 3479.721^{\#} = 2982.7908^{\#}$

$C_1' = \left(\frac{D_1 \times 51\frac{5}{16}''}{57\frac{1}{8}''}\right) + \left(\frac{D_2 \times 5\frac{13}{16}''}{57\frac{1}{8}''}\right)$

$= 3125.806 + 303.474 = 3429.28^{\#}$

国立公文書館 National Archives of Japan

$$C_2' = \left\{ D_2 - \left(\frac{D_2 \times 5\frac{13''}{16}}{57\frac{1''}{8}} \right) \right\} + \left\{ D_1 - \left(\frac{D_1 \times 51\frac{5''}{16}}{57\frac{1''}{8}} \right) \right\}$$

$$= (2982.7908 - 303.474) + (3477.921 - 3125.806)$$

$$= 3033.4318^{\#}$$

故ニ車輪ニ對スル壓力ノ合計ハ

$$C_1 + C_2 + C_1' + C_2' = 2827.778^{\#} + 2636.471^{\#} + 3427.28^{\#} + 3033.4318^{\#}$$

$$= 11926.9608^{\#}$$

依テ車輌自重（7 tons. = 15680 lbs.）トノ割合ハ

$$100 \times \frac{11926.9608}{15680} = 76\%$$

カナリヤ製

国立公文書館 National Archives of Japan

電動客車並等四輪購入豫算書

項	数量	單價	金額	摘要
電動客車々體	2 輌	5,000 000	10,000 000	
トラツク(車台)	2 〃	2,500 000	5,000 000	車輪車軸及手用ブレーキ装置ヲ含ム
電気装置一式	2 輌分	3,000 000	6,000 000	
組立費其他	2	500 000	1,000 000	
運搬費	2	400 000	800 000	
合計			22,800 000	

委任状

一拙者儀相澤芳次郎ヲ代人ト定メ左ノ權限ヲ委任ス

一東宮殿下御成婚ノ恩典ノ申請書提出並撤回訂正其他恩典ノ請願ニ要スル一切ノ件

右代理委任狀仍テ如件

大正　年　月　日

五島慶太

（六月六日協議ノ上[illegible]）

門司築港車輌工事方法変更ノ件

内諾有之

可

通牒

一、制動機鎖付桿ハ直径及鎖ノ短径ヲ明示スルコト

一、乗務員間合図器ニ付工事方法書ニ明記スルコト

一、工事方法書ヲ提出スルコト

一、車台図面ノ両側制動桿中心距離二呎九吋ハ車軸明細図面ノ二呎九吋半ト一致セザルヲ以テ何レカニ訂正スルコト

鉄道省

委任状

一 拙者儀 [illegible] ヲ代人ト定メ左ノ権限ヲ委任ス

[illegible]

右代理委任状仍テ如件

大正　年　月　日

[illegible]

主管 總務 業務

甲

件名 門司築港客車設計ノ件（鐵道・軌道）

總務課	業務課	技術課
第　次調査		
受付大正　年　月　日	受付大正　年　月　日	受付大正十三年五月二十九日
調了大正十三年二月二十八日	調了大正　年　月　日	調了大正　年　月　日
調査ニ要シタル日數　日	調査ニ要シタル日數　日	調査ニ要シタル日數　日
課長	課長	課長
擔任	擔任	擔任
免許 統計 通達	營業 會計	土木 車輛 電氣

車輛ニ関シ別紙付箋ノ通リ
五月三十一日

一、換氣関係左記照会ノ要アリ
一、車内電燈[illegible]（電燈線ヲ含ム）[illegible]
担任ノ件

土木ニ関シ車輛照會ノ通
整理済ミノ上ハ支障ナシ
ト認ム

鐵道省

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

乙

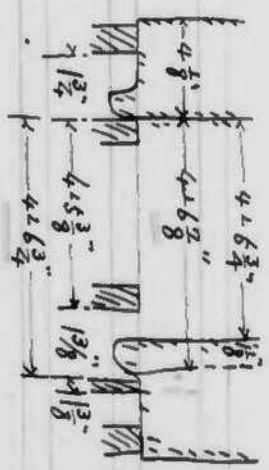
一、車輪々鐵内側距離ハ既認可轍叉ニ適合セザルヲ以テ既認可車輪ト同ノ寸法（四呎五吋八分ノ五）ニ改ムルコト。

一、手用制動機ノ鐵鎖捲付軸ノ太サ及鉄鎖一環ノ短径ニ其ノ太サヲ示スコト

一、設計書ニ業務員間ノ合図器ヲ付説明スルコト。

備考　車輪車軸図中5'6½"ハ5'9¼"ノ誤記ト認メタリ

轍叉関係



一字訂正

御請書

大正十三年四月十九日附门支発第八六號ヲ以テ提出致シ候車輛認可申請書添付圖書中訂正致候別紙記載ノ事項ハ御新省同様内務省及地方長提出ノ分モ無相違訂正仕可然段御請候也

大正十三年六月十四日

門司築港株式會社常務取締役五島慶太
代理人 桐澤芳四郎 (印)

鉄道省
監督局長 筧正太郎殿

黒蒲田電鐵株式會社

訂正事項

一 車輪ハ鉄内側距離ハ既認可ノ轍叉ニ適合セザルヲ以テ既認可車輪ト同一寸法四呎壱吋八分ノ五ト図面訂正

二 手用制動機ノ鉄鎖捲付軸ノ太サ及鉄鎖ノ環ノ短径並ニ其ノ太サヲ図面ニ記入訂正ス

三 設計書ニ乗務員間ノ合図ニ付キ二行追加説明ス

四 車輌購入豫算書作製添付ス

五 車内電線接続図追加添付ノ事

目黒蒲田電鐵株式會社

結了

土第188號 13.9.1

161

第　號　大正十三年九月四日　淨書　校合

第一六八三號　大正十三年八月二十二日立案　年月日決裁

監督局長　總務課長

土木局長

通牒案

番號　年月日

福岡縣知事宛　兩局長

178

通牒

本年七月十四日附保収第一〇、七六〇号ヲ以テ門司築港株式会社保甲軌道ニ於ケル乗車停留場設置ノ件認可報告相成候処本件ハ短期間ノ臨時停留場ナルモ勾配二十五分ノ一ニシテ軌道建設規程第十六条第二項ニ抵触シ許可ヲ要スル事項ナルニ付今回ハ此儘処理致置候条何分御注意相成度

内務省意見

門司築港軌道臨時停留場設置認可報告ノ件

（保収一〇、七六〇 一二、七、一四）

（道路課意見）

十二年十二月附鉄道省令第二号第十七条(か)ニ該当スル二十五分ノ一勾配ニ係ルモノナルモ念ノ為技術課ノ意見ヲ求ム

（技術課意見）

本件ハ停留期間三ヶ月ニ亘ル短期間ノ臨時停留場ナルモ本停留場ノ勾配二十五分ノ一ナル件ハ停留場位置トシテ甚ダ不適当ナリ且ツ危険ヲ召致スル虞アルヲ以テ斯ル勾配ヲ緩和セシムルカ又ハ他ニ設置セシメサルコトトシ
技公

33

主管 總務 業務

甲

件名 門司築港電車停留所設置ノ件 鐵道 軌道

報告

第　次 調査

總務課	業務課	技術課
受付大正十三年七月十八日	受付大正　年　月　日	受付大正　年　月　日
調了大正　年　月　日	調了大正　年　月　日	調了大正　年　月　日
調査ニ要シタル日數　日	調査ニ要シタル日數　日	調査ニ要シタル日數　日
課長	課長	課長
擔任	擔任	擔任
免許	營業	工務
統計	會計	電氣
通達		土木

本件ハ許可事項ナレドモ短期間ノ設置ニシテ電氣ヲ動力トスルモノナレバ便宜本書ヲ以テ許可申請シタルモノト看做シ処理可然哉

本件支障ナシ

備考

本件ハ許可事項ナレ共短期的ノ設置ニシテ臨時的ノモノナレバ便宜本書ヲ以テ許可ノ申請ト看做シ処理可然哉

鐵道省

178

181

保收第一〇七六〇號

大正十三年七月十四日

福岡縣知事　柴田善三郎

鉄道大臣　仙石貢殿

電車停留所新設ニ関スル件

別紙ノ通リ門司築港株式會社ヨリ併用軌道ニ於ケル電車停留所設置申請候処本件ハ夏期ニ於ケル海水浴客其他ノ遊覧者ノ便益ヲ計ル為ノ既設停留所ナル大久保越ト大久保海岸トノ中間ニ何等工事ヲ施サス七月一日ヨリ九月三十日迄ノ間ニ限リ乗客ヲ乗降セシムルモノナルヲ以テ認可致候条此段及報告候也

監督局 驛第1683號 13.7.17
監 1268號 13.7.17 鉄道省

門文發第三〇九號

臨時停留場新設認可申請書

當會社電氣軌道營業線福岡縣門司市日ノ出町九丁目、清瀧町境起點ヨリ仝市田野浦終點間ニ別紙ノ通リ臨時停留場ヲ新設致度候間御認可被成下度關係圖書相添此段申請候也

大正拾參年六月貳拾六日

大阪府大阪市東区今橋弐丁目壹番地
門司築港株式會社
取締役 宮崎敬介
右代理人
福岡縣門司市大字門司弐千五百八拾弐番地ノ四
賀山正雄

福岡縣知事柴田善三郎殿

一、停留場名　海水浴場前

一、起點ヨリノ距離　参拾参鎖四拾四節

一、所在地　門司市大字門司字オトクチ弐千六百弐拾七番地ノ先

一、設置期間　毎年七月一日ヨリ九月三十日ニ至ル参ヶ月間

委任状

拙者儀賀山正椎ヲ代理人ト定メ左ノ権限ヲ委任ス

一、當會社電氣軌道営業線門司市日ノ出町九丁目田ノ浦線終点間ニ臨時停留場新設認可申請ヲナスノ件

右委任状如件

大正拾弐年六月弐拾日

大阪市東区今橋弐丁目壹番地
門司築港株式会社
取締役 宮崎敬介

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

結了

187

(乙)

大正十三年十月二十七日

土木局長

大臣　　道路課長

次官　　第一技術課長

文書課長

鐵道大臣

次官　　總務課長

監督局長　技術課長

通牒案

番號

年　月　日　　土木局長

鐵道省

186

鐵道省

監督局長

福岡縣知事宛

門司築港軌道車庫線位置變更ノ件

通牒

標記ノ件九月十三日土第八七八一號ヲ以テ御回答ノ次第モ有之向フ三年間工事變更延期方承認セラレ候條御了知相成度

十四年十一月五日

乙監第二四号

12
乙第七二九號
大正十三年六月二十四日
内務省土木局長
福岡縣知事殿
門司港築港軌道車庫線位置變更ノ件
標記ノ件四月十六日土第八七八一號ヲ以テ回答相成候處尚左記ノ廉相當整備セシメラレ度
記
一、道路上ニ車庫引込線ヲ裝設スルハ格別車庫設備トシテ車庫線ヲ設クルハ然ルヘカラサルヲ以テ舊設備計ノ如ク道路外ニ於テ分岐セシムルコト
二、線路平面圖ニ新車庫ト車庫建物トノ關係ヲ示シタルモノヲ提出セシムルコト
内務省

（丙）

内務省意見（六月六日協議打合）

門司築港車庫線位置変更ノ件

本件ハ車庫引込線トシテ一部道路上ニ敷設スルヲ以テ

審問ヲ俟ト思ハ為ホ左記事項再調セシメラレ度

一、道路上ニ車庫引込線ヲ設クルハ不可ナリ旧設計ノ如ク改ムルコト

一、線路平面図ニ新車庫ノ位置ヲ明示スルコト

一、工事方法書及工費予算書ヲ添付スルコト

鐵道省

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

主管 總務 業務

161

甲

件名 門司築港鐵道軌道車庫線位置變更ノ件（四答）

第　次調査

總務課　受付大正　年　月　日　調了大正十四年一月廿日　調査ニ要シタル日數　日

課長　擔任　免許　經計　通達

業務課　受付大正　年　月　日　調了大正　年　月　日　調査ニ要シタル日數　日

課長　擔任　營業　會計

技術課　受付大正十四年一月廿七日　調了大正　年　月　日　調査ニ要シタル日數　日

課長　擔任　土木　車輛　電氣

本件支障ナシト認ム

備考　工法ハ既認可ニ依ヘキモノト認ム

四、一、廿九

供覽

總務課長

技師

50

鐵道省

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

土 八七八一

大正十三年四月十六日　福岡縣知事

鐵道省監督局長殿
内務省土木局長殿

門司築港會社軌道車庫線位置変更ノ件

客月二十二日監軌第三六七六号ヲ以標記御照會ニ対シ新旧両位置ヲ記入セル平面図提出來候條別紙ノ通弐通及進達候

監督局
監収第3676号
13. 4. 19

福岡縣

一月二十四日出府済

（接受記號番號）第　號

大正十三年　月　日　受領又ハ受命

大正十三年三月二十一日　發送又ハ掲載

淨書者印

校合者印

（文書記號番號）第三六八七六八號

大正十三年三月十一日　立案

大正十三年　月　日　決裁

立案者及印

監督局長

總務課長

土木局長

道路課長

照會案

番號

年　月　日

両局長

福岡縣知事宛

立案用紙

内務省

50

門司築港會社軌道車庫線位置變更ノ件

照會

客年十二月十五日附土第八七八一号ヲ以テ門司築港株式會社軌道車庫線位置變更ノ件進達ノ處車庫線ノ新舊両位置ヲ記入セル平面圖提出無之候條右至急提出セシメラレ度

主管 總務 業務

甲

鐵道省

件名 門司築港軌道（鐵道・軌道） 第　次 調査 軌道車庫線位置変更ノ件 報告

總務課 受付大正　年　月　日 調了大正十五年十二月十九日 調査ニ要シタル日數　日

課長　擔任

発許 統計 通達

業務課 受付大正　年　月　日 調了大正　年　月　日 調査ニ要シタル日數　日

課長　擔任

營業 會計

技術課 受付大正　年　月　日 調了大正　年　月　日 調査ニ要シタル日數　日

課長　擔任

土木 車輛 電氣

本件位置変更ニ関シ図面必要ナキヤ

（備考）内務省宛（二、一、二六日歸返ス）

関係書類図面ヲ提出スルコト

本件ニ関シ次記照会ヲ要ス

照会

一、車庫線ノ新旧両位置ヲ記入セル平面図ヲ提出スルコト

ナシ

（一）

192

土第八七八一号

大正十二年十二月十五日

福岡縣知事 柴田善三郎

内務大臣子爵後藤新平殿

鐵道大臣山之内一次殿

軌道車庫線位置変更認可報告

門司築港株式會社ヨリ標記ノ件申請ニ付調査候處支障無之相認メ本日認可候條及報告候

供覧
監 12.12.17 第八 號 鐵道省
第3676 12.12.17
經理課長
技術課長
福岡縣

支配人抹消登記届

大正拾参年七月参拾壱日當會社支配人澁谷元良ヲ解任シ大正十三年八月弐日之カ抹消ノ登記申請濟ニ付軌道法施行規則第二十七條ニ拠リ此段及御届候也

支配人澁谷元良解任

大正拾参年拾月壱日

大阪市西区京町堀通四丁目二十二番地

門司築港株式會社

取締役　宮崎敬介

内務大臣　若槻禮次郎殿

鐵道大臣　仙石貢殿

門司築港株式會社

供覧
監督局
監軌第2510號
13. 10. 10
業務課長
13. 10. 3
9470
国立公文書館
National Archives of Japan

一七
監 1880号
供覧
監督局 監第2511号 13.10.
大正拾参年拾月七日接受
13.10.3 9473

監査役変更登記済届

當社監査役今西林三郎太田光凞ハ大正拾参年六月弐拾参日任期満了ノ処同月株主總會ノ決議ニ依リ同日再選重任シタルニ依リ大正拾参年六月弐拾七日大阪区裁判所ニ、仝七月弐日小倉区裁判所門司出張所ニ孰レモ登記済ニ候間軌道法施行規則第二十七條ニ據リ此段及御届候也

（監査役今西林三郎 大正十三年六月廿七日登記）
東京ハ仝 太田光凞

大正拾参年拾月壱日

大阪市西区京町堀通四丁目二十二番地
門司築港株式會社
取締役 宮崎敬介

内務大臣 若槻禮次郎殿
鐵道大臣 仙石貢殿

門司築港株式會社

八

13.10.10 鐵道省 監 7887
供覧
覧報局 監 2512 13.10.10

監査役変更登記届

大正十三年八月二十七日監査役今西林三郎死亡シタルニ付仝年九月五日大阪区裁判所ニ仝九月小倉区裁判所門司出張所ニ就キ之カ変更登記申請済ニ付軌道法施行規則第二十七條ニ依リ此段及御届候也

大正拾参年拾月壱日

死亡（大正十三年八月二十七日）監査役 今西林三郎

大阪市西区京町堀通四丁目二十二番地

門司築港株式会社

取締役 宮崎敬介

監督課長

内務大臣 若槻禮次郎 殿

鐵道大臣 仙石貢 殿

門司築港株式會社

大正拾参年拾月七日
13.10.3 9472

一九

本店住所変更登記済届

大正十三年八月弐拾日本店ヲ大阪市西区京町堀通
四丁目弐拾弐番地ニ移轉ス仝月弐拾壱日大阪区裁判
所ニ仝弐拾八日小倉区裁判所門司出張所ニ就モ
之カ登記申請済ニ候間軌道法施行規則第
弐拾七條ニ據リ此段及御届候也

大正拾参年拾月壱日

○移転先　大阪市西区京町堀通四丁目二十二番地

門司築港株式會社
取締役　宮崎敬介

内務大臣　若槻禮次郎殿
鐵道大臣　仙石貢殿

門司築港株式會社

供覧

総務課長
営務課長

8458

7/30

御届

當會社ハ左記ノ通リ商業登記ヲ爲シタルニ依リ此段及御届候也

記

（自大正十三年八月二日至同十月二十八日 登記事項ハ取締役、監査役、支配人変更、本社移転、支店廃止及設置）

辞任　一、大正十三年八月二日　支配人　渋谷元良辞任抹消登記

（本社移転 門司市ヘ）　一、大正十三年八月二十二日　本店ヲ大阪市西区京町堀四丁目二十二番地ヘ移転登記

死亡　一、大正十三年九月五日　監査役今西林三郎死亡抹消登記

辞任　一、大正十三年十月二十八日　取締役島徳藏辞任抹消登記

就任　一、大正十三年十月二十八日　取締役石田平吉就任登記

就任　一、大正十三年十月二十八日　取締役西村熊太郎就任登記

就任　一、大正十三年十月二十八日　取締役荒山喜三郎就任登記

就任　一、大正十三年十月二十八日　取締役百木恵一就任登記

就任　一、大正十三年十月二十八日　監査役若木栄助就任登記

就任　一、大正十三年十月二十八日　監査役二宮秀就任登記

支店廃止　一、大正十三年十一月十八日　門司支店廃止登記

支店設置　一、大正十三年十一月十八日　大阪支店ヲ大阪市西区京町堀四丁目二十二番地ニ設置登記

本社移転　一、大正十三年十一月十八日　本店ヲ福岡縣門司市大字門司二千五百五十六番地ヘ移転登記

以上

大正十三年十一月二十六日

福岡縣門司市大字門司二千五百五拾六番地ノ四

門司築港株式會社

取締役　宮崎敬介

内務大臣　若槻禮次郎殿

鐵道大臣　仙石貢殿

[redacted]

内務省 土木局 鉄第17號 15.3.3 大正

結了

180

14鉄

60

甲

八二十

三月二十

監 第八〇九號 大正十四年三月三十一日 受領又ハ発議

大正年八月十九日

第六五一號 大正十五年三月二十三日 立案

大正年月日 決裁

浄書者 印

校合者 印

總務課長

業務課長

技術課長

監督局長

鉄道大臣

政務次官

次官

土木局長

第一技術課長

道路課長

七月

主務廻

内務大臣（印） 参與官（印）

記入

門司築港軌道延長線敷設特許ノ件

案ノ一

番號

（福岡縣経由）

特許状

門司築港株式會社

右申請ニ係ル門司市大字田野浦ヨリ同市大字門司ニ至ル軌道ヲ敷設シ旅客及貨物ノ運輸営業ヲ為スコトヲ特許ス

軌道法第五條ニ依ル認可申請ハ大正十六年六月十八日迄ニ之ヲ為スヘシ

十五年八月十九日

鉄道大臣

内務大臣

案ノ二（官報掲載）

八月二十日官報掲載

軌道特許状下付

大正十五年八月十九日門司築港株式會社ニ對シ軌道延長線敷設特許状ヲ下付セリ其起業目論見ノ概要左ノ如シ

（鐵道省）

動力	軌間	起點 終點	延長哩程	建設費
電気	四呎八吋五分ノ一	門司市大字田野浦 同市大字門司	一哩四十三鎖	拾萬圓

案ノ三

番號

年　月　日

監督局長

土木局長

八月廿二日送付

鐵道省

逓信省電気局長宛

通牒

本年八月十九日監第八〇九號ヲ以テ門司築港株式會社ニ對シ門司市大字田野浦ヨリ同市大字門司ニ至ル一哩四十三鎖間電気ヲ動力トスル軌道延長線敷設特許相成候

番號

案ノ四

年　月　日

監督局長

八月廿一日通牒

門司築港株式會社々長宛

通牒

大正十二年十月二十八日附申請軌道延長線敷設ノ件本年八月十九日特許相成福岡縣経由特許状交付致候条了知相成度

追テ工事施行認可申請期限ハ大正十六年六月十八日迄ニ有之候

(丙)

理由

右ハ一般旅客ノ便益ニ資シ地方発展上適当ノ施設ト相認メラルヲ以テ特許然ルヘシ

鐵道省

鐵道	~~軌道~~

大正十二年十月二十八日出願
福岡縣廳經由大正十四年三月三十一日
大正十四年四月四日受付

門司築港株式會社軌道延長線

項目	内容
起點	福岡縣門司市大字田野浦（既設門司築港線終點）
經過地	〃 〃
終點	〃 大字門司
動力	電氣
哩程	壱哩四拾参鎖
新設軌道 道路上	
軌間	四呎八吋半
鐵道網トノ關係	

監督局

知事副申ノ要旨	發起人	資本金又ハ建設費	備考
本延長線ハ沿道ノ開發ヲ促シ既設線ト相關連シ上越交通ノ利便ヲ増進シ成業確實ト認メ候ニ依リ特許相成度當地ノ鐵道又ハ軌道ニ影響ナシ	既設會社	拾萬圓	建設費ハ既設線株金ノ内ヨリ充當ス
		會社提出利益割合	
		四分六厘	

土第九一六二號

大正十四年三月二十日

福岡縣知事　柴田善三郎

內務大臣　若槻禮次郎殿

鐵道大臣　仙石貢殿

軌道敷設延長特許申請ニ付副申

門司築港株式會社ヨリ門司市大字田野浦敷設揚業線終點ヨリ仝市大字門司ニ至ル軌道延長敷設ノ義別紙ノ通願出候ニ付調査スルニ右ハ一般旅客ノ便ヲ增進シ地方發展上適設ノ施設ト相認メ候條特許相成候樣致度左記調査書ヲ添ヘ意見副申候也

記

一、申請者ノ資産及信用程度　既設會社

二、事業ノ成否　既設會社トシテ成業確實ト認ム

三、事業ノ効果　本計畫ハ沿道ノ開發ヲ促シ既設線ト相關連シテ一般

14.4.2 1199
657
福岡縣
出願記入済
裏面白紙

交通ノ利便ヲ増進スルモノト認ム

四、道路管理者ノ意見　　支障ナシ

五、他ノ鐵道又ハ軌道（未開業ノ鐵道又ハ軌道ヲ含ム）ニ及ボス影響
　　影響ナシ

六、競願ノ有無　　無シ

福岡縣

裏面白紙

電氣軌道敷設延長許可願

大正十一年九月一日附監第一六八四號ヲ以テ御特許相蒙リ候福岡縣門司市日ノ出町九丁目清見町一丁目境ヨリ同市田ノ浦百七拾七番地ニ先ニ至ル電氣軌道ハ目下工事施行中ニ候處右終點ヨリ同市大字門司字谷町長谷ヲ経テ同市大字門司千四百八拾四番地先ニ至ル間(縣道)電氣軌道敷設延長致度候間御許可相成度別紙書類及圖面相添ヘ此段奉願候也

大正十二年十月二十七日

大阪府大阪市東区今橋二丁目一番地

門司築港株式會社

取締役 宮壽 敬介

福岡縣 受付 12.10.30

内務大臣子爵 後藤新平殿

鐵道大臣 山之内一次殿

印鑑證明願

本店 大阪市東區今橋二丁目壹番地
門司築港株式會社
大阪市南區東清水町五百七番地ノ弐
取締役 宮崎敬介

右印鑑證明書壹通此段及御願候也

大正拾弐年拾壱月拾七日

大阪市東區今橋二丁目壹番地
門司築港株式會社
取締役 宮崎敬介

大阪市東區役所御中

門司築港株式會社

印鑑證明願

右印鑑證明書下附相成度此段及御願候也

大正拾弐年拾弐月拾七日

大阪市東區今橋二丁目壱番地
門司築港株式會社
取締役 宮崎敬介

大阪市東區役所御中

門司築港株式會社

206

門司築港株式會社

右印鑑相違ナキコトヲ證明ス

大正十弐年拾壱月拾七日

大阪[illegible]区長　坂本重英

添附圖書目録

一 起業目論見書　一
一 電氣軌道敷設工費概算書　一
一 營業收支概算書　一
一 線路豫測平面圖　一

起業目論見書

一 目的 電氣軌道ヲ敷設シ一般旅客運輸ノ業ヲ營ムモノトス

二 商號又ハ名稱、主タル事務所ノ設置地
門司築港株式會社ト稱シ本社ヲ大阪市ニ置ク

三 軌道事業ニ要スル資金ノ總額及其ノ出資方法
本区間事業資金ノ總額ハ金拾萬圓トシ當會社既彿込株金ノ内ヨリ充ツルモノトス

四 線路ノ起終點及使用軌道ノ始終點ノ地名、地番並其ノ経過市町村名
全線使用軌道ニシテ同一市内ヲ経過ス
起點 福岡縣門司市大字田野浦百七十七番地ハ弐地先(大正十年九月一日附監第一六八四號ヲ以テ許可ヲ受ケタル當會社特許線終點)
終點 全縣全市大字門司千四百八拾四番地々先

五 軌道ヲ敷設スヘキ道路ノ種類毎ノ延長、一般幅員計畫幅員
道路ノ種類及延長 縣道ニシテ其ノ延長千参百五十
六間
一般幅員 五間
計畫幅員 五間

六 線路ノ延長及單線複線等ノ別
線路ノ延長 一哩四十三鎖二十節 單線

七 軌間及車輛ノ最大幅員

軌間　四呎八吋二分ノ一　車輛ノ最大幅員七呎六吋

八　動力

電氣ニシテ単線架空式トシ九州電氣軌道株式會社ヨリ供給ヲ受クルモノトス

国立公文書館
National Archives of Japan

自田ノ浦至丸山間電氣軌道敷設工費概算書

線長 1哩5分4厘 = 1m 43ch 20l　門司築港株式会社

項	數量		單價		金額	
測量及監督費	哩 1	分 5 厘 4	3.000円	000	4.620円	000
用地費	面 100	坪 00	80.	000	8.000.	000
土工費	立 500	坪 00	12.	000	6.000.	000
溝橋費	ケ 6	所	100.	000	600.	000
軌道費	哩 1	分 5 厘 4	25.000	000	38.500.	000
車輌費	輌 2		11.500	000	23.000.	000
通信線路費	哩 1	分 5 厘 4	200.	000	308.	000
電線路費	哩 1	分 5 厘 4	10.000	000	15.400.	000
総係費					3.572.	000
総計					100.000.	000
一哩ニ付					64.935.	38 000

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

営業収支概算書

軌間4呎8吋半　　動力　電気

区間　田ノ浦丸山間　　進長　1哩5分4厘＝1m.43ch.20l.

門司築港株式会社

項	数量金額割合		摘要
旅客人哩	590.205	人哩	旅客人哩ノ算出方法ハ全線ヲ二区ニ分チ其通
一哩当	383.250人		行人員ヲ調ヘ其通行人員ノ三割ガ乗車スルモ
一日一哩当	1.050人		ノト見做シ各其区間距離ヲ乗ジタリ
旅客収入	17.706円	150	一人哩ニ付三銭トス
一哩当	11.497	500	
一日一哩当	31	500	
雑収入	885	307	旅客収入ノ5/100トス
収入合計	18.591	457	
一日一哩当	33	075	
営業費	13.014	020	営業収入ノ七割トス
一日一哩当	23	153弱	
益金	5.577	437	
建設費	100.000	000	
建設費ニ対スル益金割合		圓分厘 0.056弱	

裏面白紙

主管 總務

甲

件 門司築港[redacted] 鐵道 軌道 軌道延長線敷設ノ件

第 號 調査 第 次

總務課	
受付大正	年 月 日
調了大正	14年 4月 6日
調査ニ要シタル日數	1 日
課長	擔任
免許 監査 通達	

古莊線記入圖 調製移ス 次

業務課	
受付大正	年 月 日
調了大正	年 月 日
調査ニ要シタル日數	日
課長	擔任
營業 會計	

技術課	
受付大正	年 月 日
調了大正	年 月 日
調査ニ要シタル日數	日
課長	擔任
土木 工務 電氣	

別圖返ス（八日）

鐵道省

50

34

主管 總務 業務

甲

件名 門司築港軌道延長線敷設ノ件

第 次調査 鐵道 軌道

總務課	
受付大正 年 月 日	
調了大正十四年七月九日	
調査ニ要シタル日數 日	
課長	擔任
発許 特許 通達	

業務課	
受付大正 年 月 日	
調了大正 年 月 日	
調査ニ要シタル日數 日	
課長	擔任
營業 會計	

技術課	
受付大正十四年七月 日	
調了大正 年 月 日	
調査ニ要シタル日數 日	
課長	擔任
土木 車輛 電氣	

右路線ノ内容調査相成度

（特ニ内務省ノ意見照会ノ事）

内務省 [illegible]（監督官庁ニ於テ了解済）

（一五、二、二〇 協）

備考

土木ニ関シ内務省照会整理済ノ上ハ支障ナシト認ム

内務省意見第一項ニ就テハ照会ノ必要アリト認ム 第二項ニ就テハ特許起業目論見書ニ決定セル文字ヲ記入シ訂正セシムルヲ適当ナリト認ム

（十日）

車輛ニ関シ土木ニ同ジ

七月十日

電氣ニ関シ未同断

七、一五

鐵道省

50

十乙

一、命令書ニ依ル開業線ノ道路幅員

単線	人家連檐ノ場所又ハ連檐スベキ場所	五間以上
	其他ノ場所	四間半以上
複線	人家連檐ノ場所又ハ連檐スベキ場所	八間以上
	其他ノ場所	六間以上

二、軌道建設規程ニ依ル道路幅員

（但シ軌道ヲ道路ノ一方ニ偏シテ布設スルトキ）

単線	人家連檐ノ場所又ハ連檐スベキ場所	主要ナル府県道	三十二尺五寸以上
		府県道	二十五尺五寸以上
	其他ノ場所	主要ナル府県道	二十八尺五寸以上
		府県道	二十二尺五寸以上
複線	人家連檐ノ場所又ハ連檐スベキ場所	主要ナル府県道	四十尺五寸以上
		府県道	三十四尺五寸以上
	其他ノ場所	主要ナル府県道	三十七尺五寸以上
		府県道	三十一尺五寸以上

計画道路ノ幅員ニ関シテハ待避線ヲ設クル必要ノ個所ニアルベキニ依リ単線ノ所ニモナスサレバ一般ニ内務省意見ノ通リ三十尺以上トスルヲ適当ト認ム

鉄道省
裏面白紙
国立公文書館 National Archives of Japan

門司線延長開業後ノ営業状態

一、区間 日ノ出町田ノ浦間（一哩〇五鎖）
建設費 十六万四百三十九円也
営業収入 二万二千八百八十八円四十三銭
純益 一千五百二十五円八十二銭（九一厘）

一、資本金 壱千万円（鉄道共）
払込 二百五十万円
鉄道ニ於テハ八十五哩十四鎖ニ付キ工事施行期限ハ
大正十年四月二十七日迄ノ處大正十年五月二十四日
附ヲ以テ工事施行延期申請者ハ現在調査中ニ
付結了次第進行スヘキ予定ナリシモ其後
何等進捗ノ模様ナシ

(乙)

土木 第67號 2.9.15

内務省 土木局 鉄第32號 2.9.15

結了

九月七日 日録済

監 第二五一五號

監 第一七七八號

昭和二年九月十三日 受領又ハ受令

昭和二年九月八日 立案

昭和 年 月 日 決裁

浄書 校合

總務課長

監督局長

次官

鐵道大臣

道路課長

土木局長

次官

内務大臣

門司築港

田ノ浦、門司間工事施行認可申請期限延期ノ件

439

（福岡縣經由）

番號

案

門司築港株式會社

昭和二年六月十一日附門門發第七五號申請田ノ浦門司間工事施行認可申請期限昭和三年四月三十日迄延期ノ件許可ス

年　月　日

鉄道大臣

内務大臣

国立公文書館
National Archives of Japan

主管 総務 業務

甲

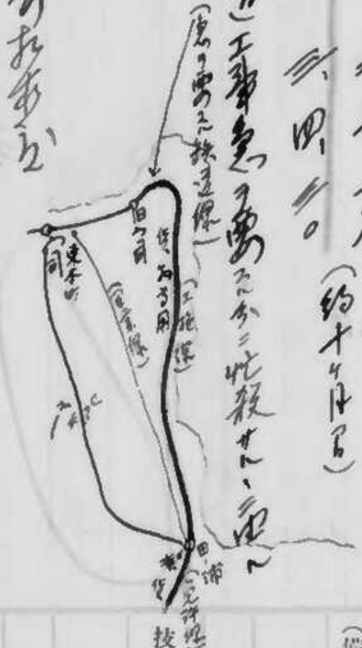
（第　　號）

件名　七　門司築港
門司、田浦間工事施行申請期限
延期ノ件

鉄道
軌道

事項要領（申請、報告、届出、回答、通牒）

特許　一五、八、一九
工事施行申請期限　一六、一一、一八
今回延期　一八、四、三〇（約十ヶ月）
理由　鉄道（省）工事急ヲ要スル分ニ忙殺サレ、[illegible]



知事意見
許可相成可然

備考

監督局長
技術課長
総務課長

（照會、通牒事項裏面）

総務課長	免許	業務課長	營業	（備考）	會計	技術課長	土木	車輛	電氣
受付昭和　年　月　日	可	受付昭和　年　月　日	可		可	受付昭和　年　月　日	可	可	可
調了昭和　年　月　日	照會 通牒	調了昭和　年　月　日	照會 通牒		照會 通牒	調了昭和　年　月　日	照會 通牒	照會 通牒	照會 通牒
	擔任		擔任		擔任		擔任	擔任	擔任
	主査		主査		主査		主査	主査	主査

鐵道省

739

218

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

監督局 監第1728號 2.7.7.

2.7.8. 監2273號 鐵道省

土第三八八八號

昭和二年七月四日

福岡縣知事　齋藤守圀

内務大臣　鈴木喜三郎殿
鐵道大臣　小川平吉殿

工事施行認可申請期限延期申請ニ付副申

門司築港株式會社ヨリ軌道工事標記ノ件別紙ノ通申請候ニ付調査スルニ右ハ申請書記載ノ通ニシテ事情已ムヲ得サルモノト相認メ候條御許可相成候樣致度

福岡縣

裏面白紙

499

門発第七五號

工事施行認可延期申請

大正十五年十二月十九日附監第八〇九號ヲ以テ御特許相受候門司市大字田ノ浦ヨリ仝市大字門司ニ至ル間ニ於ケル軌道敷設ノ件ハ其ノ後測量ニ関スル下関要塞司令官ノ許可ヲ了ヘ実測設計ニ着手シ工事施行ノ認可申請ノ手續取運中一面門司市ニ国立米穀倉庫設置セラルヽ事トナリセシカ米穀輸送ノタメ遂ニ当会社ニ於テ鉄道敷設スル事ニ相成候為メ該工事ニ忙殺セラレ到底御指定ノ本月十八日迄ニ工事施行認可申請ノ手續難致候間特別ノ御詮議ヲ以テ昭和三年四月三十日迄延期被成下度此段及申請候也

昭和二年六月十一日

門司市大字門司二千六百九十九番地
二千七百番地ノ一

門司築港株式會社
取締役 宮崎敬介

内務大臣 鈴木喜三郎殿
鐵道大臣 小川平吉殿

(甲ノ一)

(稟議部號番號) 第　號　大正三年二月七日 受領又ハ受命

(文書部號番號) 第四五號　昭和二年一月七日 發送又ハ稱號

年　月　日 立案

年　月　日 決裁

淨書者印

校合者印

立案者及主務者

門司築港軌道ニ係ル位置變更期限延期ノ都合ノ件　返付

安本

番號

年　月　日

福岡縣知事ニ宛

局長

立案用紙　鐵道省

内務省 土第23號 3.6.2

土木 鉄第3號 3.6.4

六ノ十二

監督局 第一七〇七號
第八八〇號

大正三年六月四日 受付
昭和三年六月十三日 立案
三年六月十一日 決裁

鐵道大臣　次官　監督局長　總務課長
内務大臣　次官　土木局長　道路課長
文書課長閲了

門司築港門司間工事施行認可申請期限延期ノ件

淨書　校合

623

進達

昭和二年十二月二十七日附土第六二二一號ヲ以テ門
司築港軌道車庫線位置變更期限延期ノ件
進達相成候處右ハ内務大臣ニ於テ聞届クヘキ事項ト
被認ヲ以テ返付候

備考
地方長官委任事項中第二條第二項ニ該當[illegible]

（福岡県経由）

番號

案

門司築港株式會社

昭和三年四月十日附門發第五六號申請工事施行認可申請期限昭和四年十二月二十八日迄延期ノ件許可ス

年　月　日

鐵道大臣

內務大臣

供覧

門司築港 鐵道 / 軌道 工事 施行認可申請 / 着手 / 竣功 期限延期ノ件

（區間及哩程）自 門司 至 田ノ浦 間 一哩四三鎖

軌間 四呎八半吋　動力 電氣

建設費 一〇〇、〇〇〇圓

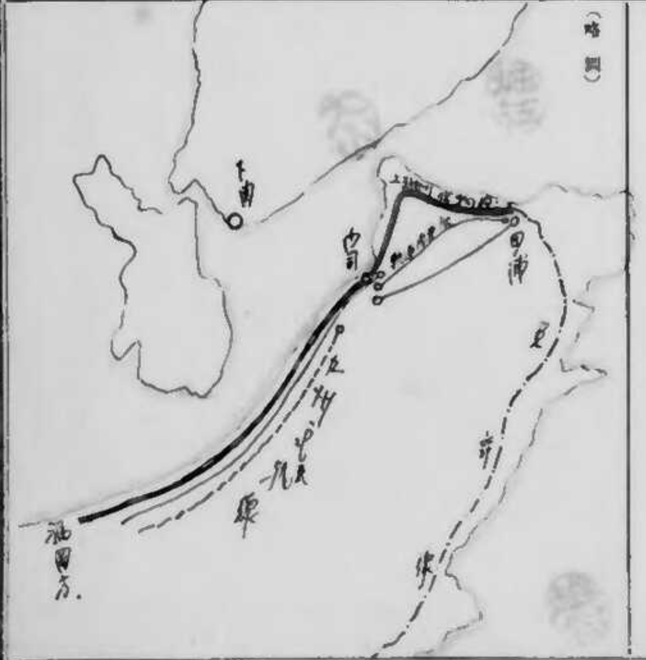
免特許年月日	大正一五年八月一九日
工事施行認可年月日	年月日
工事着手年月日	年月日
本件原期	昭和二年六月一八日
前回延期許可期限	仝三年四月三〇日
（地方廳受理年月日）	仝三年四月一一日
今回延期申請期限	仝四年二月二八日
（申請期間 / 原期ヨリ）	年十ケ月間 / 一年八ケ月間

（延期理由）貨物停止ヲ趣ケニ比較サレ居ルト、九州電気軌道線ト接続計画アリ之レト同時ニ工事ヲ實施シタキ旨（接続計画ノ未決定ニ依ル）

（知事意見）事情止ムヲ得サルモノト認ム許可相成度

（備考）
免特許區間及哩程
工施認可區間及哩程
工程表（別紙ノ通）
前回許可條件又ハ通牒

（略圖）



（鐵道省監督局）

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

監督局
監収 880
3. 4. 20.

3. 4. 27
監 1243

土第二六四二號

昭和三年四月十七日

福岡縣知事 齋藤守圀

内務大臣 鈴木喜三郎 殿
鐵道大臣 小川平吉 殿

工事施行認可申請期限延期申請ニ付副申

門司築港株式會社ヨリ軌道工事標記ノ件別紙ノ通リ申請候ニ付調査スルニ右ハ申請書記載ノ事情ニテ已ムヲ得サルモノト相認メ候條御許可相成候様致度

福岡縣

裏面白紙

門築第五六號

工事施行認可申請期限延期申請書

大正十五年八月十九日付監第八〇九號ヲ以テ特許相成リ候門司市大字田ノ浦ヨリ仝市大字門司ニ至ル間ノ電氣軌道ハ其後実測設計ニ従事シ工事施行認可申請ノ手續取進中ニ候得共一面最モ急ヲ要スル門司市旧門司ヨリ仝市大久保ニ至ル国立米穀倉庫引込線ニ接續スル鉄道工事ニ忙殺セラレ其ノ手續完了致兼ネ候ノミナラズ又右特許線終点ヨリ門司市錦町ヲ経テ仝市西本町ニ至リ九州電気軌道株式會社経營ノ電気軌道ニ接續スル軌道延長実施ノ計画アリ可相成ハ同時ニ工事施行致度目下調査研究中ノモノモ有之旁々御指定ノ本月三十日迄ニ工事施行認可申請ノ手續難取進候間事情御洞察ノ上昭和四年二月二十八日迄延期被成下度尚右御許可ノ上ハ其間必ス相當ノ実施設計ヲ完了シ工事施行認可申請ノ手續可致候ニ付今回限リ特別ノ御詮議ヲ蒙リ度此段及申請候也

昭和三年四月十日

門司市大字門司二千六百九十九番地 二千七百七十番地ノ一

門司築港株式會社

取締役 宮崎敬介

鐵道大臣 小川平吉殿

内務大臣 鈴木喜三郎殿

3.4.11

第2645

件
九
係 印
十二年五月四日製本済

国立公文書館
National Archives of Japan

二

（甲）

第一門　監督　第一種

四、軌道　イ、特許　門司築港（營業廃止）

自昭和四年
至昭和十一年

倉庫	書棚	棚號	卷
			卷二

順號	年月日 番號	件名	備考
一	四、五、一 監一三四九	門司、田ノ浦間工事施行期限延期ノ件	
二	六、一、一二	客車使用届ノ件	
三	六、一二、一	仝上ノ件（設計図添付）	
四	六、一二、二四	新開停留場位置變更竝住吉前停留場新設ノ件	
五	九、二、六	車輌讓渡ノ件	
六	十、一二、二一 監四〇三八	日ノ出九丁目田ノ浦間運輸營業廃止ノ件	
七	二、二、四 監二四三	仝上廃止實施届ノ件	
八	二、四、一 監六三三	起業廃止許可竝同區間工事施行認可申請書返付ノ件	
九	二、六、八	門司、田ノ浦間特許状返納ノ件	

鐵道省

国立公文書館 National Archives of Japan

内務省土木局
收第9號

監第一三四九號
第五四二號

昭和四年五月三日　立案
昭和四年五月十二日
昭和四年五月一日　決裁

内務大臣
次官
鐵道大臣
次官　代決
監督局長
總務課長
土木局長
道路課長

門司築港
門司、神戸間工事施行認可申請期限延期ノ件

五月一日　土木局主管

官文編　昭4.7.12　受3付

4.5.1

22

33

228

（福岡県經由）案

番號

門司築港株式會社

昭和四年二月二十一日附門發第三六號申請門司田ノ浦間軌道施行認可申請期限昭和五年二月二十八日迄延期ノ件許可ス

年　月　日

鐵道大臣

内務大臣

供覧
監督局長　監督課　技術課

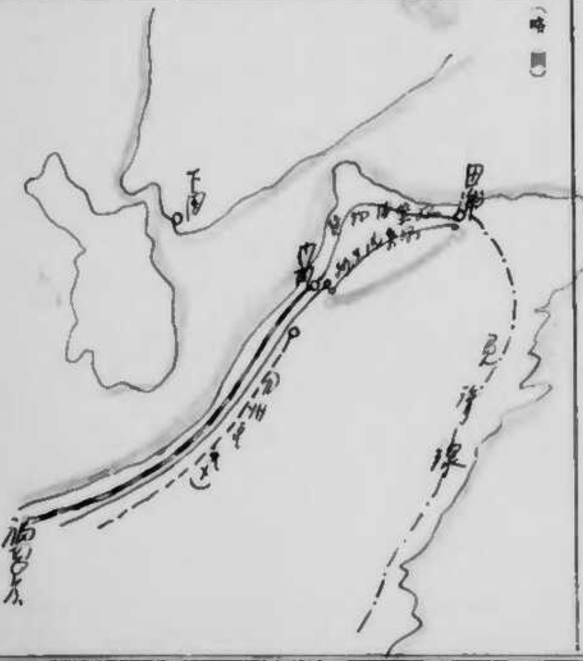
門司築港 鐵道／軌道 工事施行認可申請／着手／竣功 期限延期ノ件

（區間及哩程）	自 門司 至 田ノ浦 間 一哩四三鎖
軌間	四呎八吋半
動力	電氣
建設費	一〇〇,〇〇〇圓
免特許年月日	大正一五年八月一九日
工事施行認可年月日	年　月　日
工事着手年月日	年　月　日
本件原期	昭和二年十一月一八日
前回延期許可期限	四年二月一八日
（地方廳受理年月日）	四年二月二五日
今回延期申請期限	五年二月二八日
（申請期間 / 原期ヨリ）	一年　ヶ月間 / 二年八ヶ月間

（延期理由）九州電氣軌道線路ニ接續ノ計畫（未定）ト道路改修方其ノ當局ト協議中ノ由ニ付〔以下判読困難〕

（知事意見）今回限リ許可相成度〔以下判読困難〕

（略圖）



（備考）
~~免特許區間及哩程~~
~~工事施行認可區間及哩程~~
~~工程表（別紙ノ通）~~
~~前回許可條件又ハ通牒~~

（鐵道省監督局）

229

裏面白紙
国立公文書館 National Archives of Japan

監督局
軌542號
4. 3. 5

4.3.4
監第1144號
鐵道省

土第一三七九號

昭和四年二月二十八日

福岡縣知事　齋藤守圀

內務大臣　望月圭介殿
鐵道大臣　小川平吉殿

軌道工事施行認可申請期限延期申請ニ付副申

門司市大字田ノ浦ヨリ同市大字門司ニ至ル標記ノ件別紙ノ通リ門司築港株式會社ヨリ申請候ニ付調査ヲ遂クルニ申請書記述ノ通リ大体實測設計完了セルモ右特許線終點ヨリ門司市錦町ヲ經テ同市西本町ニ至リ九州電氣軌道株式會社既設線路ト接續スル爲軌道延長實施計畫モ有之旁々精査中ニ屬シ候而シテ本申請延期々間中ニハ堅ク施行認可申請致スヘク重ネテ延期不致旨申出居候ニ付今回迄御許可相成候樣致度

福岡縣

裏面白紙

門發第三六號

工事施行認可申請期限延期申請書

大正十五年八月十九日付監特第八〇九號ヲ以テ特許相受
候門司市大字田ノ浦ヨリ仝市大字門司ニ至ル間ノ電氣
軌道ハ其後実測設計略完了シ目下工事施行認
可申請図書作製中ニ候得共一面仝時ニ右特許線
終点ヨリ門司市錦町ヲ経テ仝市西本町ニ至リ九州電
氣軌道株式會社経營ノ電氣軌道ニ接續スル軌
道延長実施計画ヲ樹テサレバ現特許線ノミニテハ
軌道敷設ノ意味ヲナサストノ議アリ折カラ右錦町
道路ヲ遠カラズ改修幅員拡張セラルベク其筋ニ於テ
詮議中ノ由モ及聞候ニ付テハ寧ロ十分之レカ調査
研究ヲ遂ケ度ク從ツテ御指定ノ今月二十八日迄ニ
工事施行認可申請難致候間昭和五年二月二十八日
迄御延期被成下度右御許可相受候得バ此
上絶対ニ重ネテ延期不致候ニ付今度限リ特別ノ
御詮議蒙リ度此段及申請候也

昭和四年二月二十一日

門司市大字門司二千六百九十九番地
二千七百番地ノ一

門司築港株式會社

取締役 二宮 [illegible]

鉄道大臣 小川平吉殿

内務大臣 望月圭介殿

4. 2. 25

6.1.12 第136號

門發第六拾六號

昭和五年十二月廿九日

門司築港株式會社

取締役 賀山正雄

鉄道大臣 江木翼 殿

内務大臣 安達謙蔵 殿

本月十九日付監第四五八三號ヲ以テ認可相成候本社瓦斯氣動車用客車弐輌（第六號第七號）ハ昭和六年一月一日ヨリ使用致度候条此段御届仕候也

福岡縣 受付

門司築港株式會社

12

寫

門築第六二號

昭和五年十二月廿九日

門司築港株式會社
取締役 賀田正雄

鐵道大臣 江木翼殿
逓信大臣 安達謙藏殿

本月十九日付監第五八六號ヲ以テ御認可相成候當社電氣軌道用客車二輛（第六號第七號）ハ昭和六年一月一日ヨリ使用開始致候條此段御届候也

第一種保存

門司築港株式會社

（照會 通牒事項裏面）

（第 次）

甲

件名 門司築港 客車設計ノ件（再製提出）

事項要領（申請・報告・届出・回答・通牒） 五、一二、一九 監第四五八三号提出

知事意見

備考

6年12月1日 第一種保存 四

鐵道 軌道

總務課長	免許	業務課長	營業	會計	技術課長	土木	車輛	電氣
受付 昭和 年 月 日	可	受付 昭和 年 月 日	可	可	受付 昭和 年 月 日	可	可	可
調了 昭和 年 月 日	照會 通牒	調了 昭和 年 月 日	照會 通牒	照會 通牒	調了 昭和 年 月 日	照會 通牒	照會 通牒	照會 通牒
	擔任 主査		擔任 主査	擔任 主査		擔任 主査	擔任 主査	擔任 主査

鐵道省

国立公文書館 National Archives of Japan

課

課

国立公文書館
National Archives of Japan

再出

門司築港株式會社

監第四五一二號

門司築港株式會社 印

昭和四年二月四日附門築第四七號ヲ以テ申請

岸壁設計ノ件認可ス

昭和五年十二月十六日

鉄道大臣 江木翼

内務大臣 安達謙蔵

監 軌第135 結 6.4.13

結了

寫

昭和6年12月1日了 第一種保存 總別 四 冊

昭和 年 月 日

校再

451

寫

No.

土第一七九六號

昭和五年十二月二十七日

福岡縣内務部 印

門司築港株式會社 宛

別紙寫車設計認可指令及送附ス

門司築港株式會社

昭和　年　月　日

(d. 2. 2.000)

裏面白紙

写

門[illegible]第四壱號

車輛認可申請

営業線（自門司市東本町三丁目 至全市日ノ浦）ニ

紙設計図書ノ車輛購入

成下度此段及申請候也

月二千六百九十九番地

二千七百番地ノ一

港株式會社

取締役 二宮 秀 ㊞

殿

殿

別紙符箋ノ通ニ付一応返戻候也

昭和六年二月十二日

内務部土木課 ㊞

門司築港株式会社 御中

寫

門[illegible]第四壱號

車輛認可申請

當會社電氣軌道營業線（自門司市東本町三丁目 至仝市日ノ浦間）ニ
使用スル目的ヲ以テ別紙設計圖書ノ車輛購入
致度ニ付御認可被成下度此段及申請候也

一 設計書記載寸法ニシテ車体圖ニ記入ナキモノアリ再調ノコト
二 車体枠圖ト車輛ト相違アリ再調ノコト

[illegible]町二千六百九十九番地
[illegible]二千七百番地ノ一
[illegible]港株式會社
取締役 二宮秀（印）

[illegible]小[illegible] 殿
殿

門築第四七號

車輛認可申請

當會社電氣軌道營業線（自門司市東本町三丁目 至仝市田ノ浦間）ニ使用スル目的ヲ以テ別紙設計圖書ノ車輛購入致度ニ付御認可被成下度此段及申請候也

昭和四年三月四日

門司市大字門司二千六百九十九番地 二千七百番地ノ一

門司築港株式會社

取締役 二宮 秀 (印)

鐵道大臣 小川平吉殿

内務大臣 望月圭介殿

車輛設計書

一車種　客車並等四輪車

一輛数　貳輛

一自重　七、八五英噸

一定員　坐席二十四人　起立十八人

一定員一人ニ対スル客室面積貳、九七平方呎

一主要寸法及車体構造ハ添付図面ノ通リトス

一最大寸法　前后バンバー間ノ巨離　二十七呎三吋

幅　七呎六吋

高サ軌条面ヨリ聚電装置最上部迄　十一呎六吋二分ノ一

一車体寸法　客室ノ長サ　十七呎四吋

幅　六呎

高　七呎八吋八分ノ七

一固定輪軸巨離　六呎六吋

一軌条面ヨリバンバー中心迄ノ高　二呎一吋八分ノ五

一台框ノ構造ハ添付シタル車体図面ノ通リトス

一トラックノ構造ハ添付シタル図面ノ通リトス

一車輪車軸ノ構造図ハ添付シタル図面ノ通リトス

一車輪ノ直径　三十一吋

一車輪一対ノ輪鉄内側巨離　四呎五吋八分ノ五

一擔弾機ノ構造ハ添付シタル図面ノ通リニシテ其ノ装置ハトラック図面ニ示ス通リトス

一制動機ノ種類及装置

手用制動機及電気制動機ヲ用ヒ添付セル図面ノ通リトス

国立公文書館
National Archives of Japan

一 客車内點燈ノ種類及設備
白熱電燈 百ヴォルト三十三燭光六個及六ヴォルト三
燭光予備白熱電燈二個並ニ百ヴォルト二百五十
燭光前照燈一個ニシテ電線接續圖ニ示ス通リトス
一 電動機ノ構造ハ添付セル圖面ノ通リニシテ左ノ如キモノトス
電動機ノ種類 GE 52—A型直流直捲式
個数 貳個
馬力数 二十馬力
歯車ノ比 68/14 比四、七八
電壓 六百ヴォルト
一 制御器ノ種類 GE 18 B コントローラー
制御器ノ個数及装置
制御器ハ各運轉台ニ一個宛合計貳個装置ス

一 聚電装置ノ構造ハ添付セル圖面ノ通リトス
聚電装置ノ種類 トロリーポール
聚電装置ノ個数 貳個
一 車内電線接續ハ添付セル電線接續圖ノ通リトス
一 救難器ハ添付セル圖面ノ通リトス
一 音響器ノ種類 フートゴング
一 乗務員間ノ合圖用トシテ前台ノ運轉台ニ手動合圖
鈴ヲ取付クルモノトス

図面目次

一車体及台枠図
一車台図
一車軸及電動機明細図
一車輪車軸図
一手動ブレーキ図解
一避雷器明細図
一撓弾機図
一トロリーベース図
一車輪ト撤叉トノ関係図
一車内電燈線接續図

主要材料

客車　橋　下

名称	
緩衝梁	中軟鋼
ソールバー	欅
筋違根太	〃
横根太	〃
従根太	〃
長桁	〃
柱類	〃
車軸	半硬鋼
撓桿械	最硬鋼
ホヰールセンター	中硬鋼
輪鉄	最硬鋼
ブレーキギアー	中鋳鋼

電動客車四輛分購入予算書

項	数量	単価		金額		摘要
電動客車々体	2	2467	50	4935	00	昭和三年大阪市電気局ヨリ古車輛ヲ購入シ幾部分改造及修理ヲナシタルモノニシテ各工費区分シ難キニヨリ総括シテ予算ヲ計上ス
トラック	2					
電気装置一式	2					
組立費其他	2					
運搬費	2	382	50	765	00	
計		2850	00	5700	00	

寫

No.

昭和　年　月　日

昭和四年三月十九日

福岡縣内務部土木課御中

門司築港株式會社 印

本月四日内第第四一號ヲ以テ事業認可申請致候処
十三日付箋ヲ以テ御指示相成候ニ付再調提出致候條至急
御認可被成下度候也

門司築港株式會社

(6. 2. 3.000)

243

裏面白紙

寫

No.

門築第四一號ノ一

昭和四年七月十二日

門司築港株式會社
取締役 二宮正秀 印

鉄道大臣 江木翼殿
内務大臣 安達謙蔵殿

本年三月四日付門築第四一號ヲ以テ申請致候
當會社専用軌道用車輌認可ノ件右至急
ニ認可相成度至急及申請候也

門司築港株式會社

昭和　年　月　日

(6. 2. 2.000)

寫

No.

土第一七九七号

昭和四年十月二十二日

福岡縣内務部長 印

門司築港株式會社 宛

本願設計ニ関スル件照会

標記ノ件ニ付申請相成候處左記事項ニ関シ追テ書面ヲ以テ至急提出相成度

記

一 設計書ニ記載ノ座席定員二十四人ハ腰掛ノ長サニ對シ過大ト認メラルルヲ以テ之ヲ二十人ニ改ムルコト

二 設計書記載ノ客室内部幅及軌条面ヨリ「バンパー」中心迄ノ高サヲ図面ニ記入スルコト

門司築港株式會社

昭和　年　月　日

(6. 2. 2.000)

裏面白紙

門司築港株式會社

No.

三 詳細ナル寸法ヲ記入セル台框ノ構造図ヲ提出スルコト

四 繋留平面図中隣接樹及通路ノ幅ヲ記入シ[illegible]ナルヲ記入スルコト

五 手用制動機ノ捲付鎖及「スポロケットホヰール」等ノ構造ヲ明カニセル捲付部分ノ構造図ヲ提出スルコト

六 図面及設計書ニ車輪ノ直径三十吋トアルモ図面ニ記載セル部分ノ寸法ハ三十吋半ニシテ一致セズ訂正スルコト

七 設計書尾末ニ大阪市電気局所有當時ノ電車番号ヲ記入スルコト

昭和　年　月　日

(6. 3. 2.000)

写

昭和五年一月十一日

門司築港株式會社

取締役 二宮 秀 (印)

鉄道大臣 江木 翼殿

内務大臣 安達 謙蔵殿

追申書

客年三月四日付門発第四志號ヲ以テ車輌認可申請書提出致候処左記追申致候条至急御認可被成下度候也

左記

一 曩キニ及提出ノ客車輌設計書中第四項坐席定員二十四人トアルヲ二十人ニ訂正致候

二 車輌図中客車内部幅及軌条面ヨリ（バンパー）中心迄ノ高サハ記入洩レニ付別紙図面ニ記入及提出候

三 詳細ナル寸法ヲ記入セル台框構造図別紙ノ通リ及提出候

四 腰掛及通路ノ幅別紙提出ノ図面ニ記入致候

五 手用制動機捲付部分構造図別紙ノ通リ及提出候

六　曩キニ及提出候車輪圖及設計書中車輪ノ直徑三十二吋半トアルハ三十二吋ノ誤記ニ付訂正致候

七　設計書末尾ニ左記追加致度

本車輛ハ元大坂市電氣局所有ノモノニシテ
車輛番號ハ第三〇二號第二八四號ニ有之候

一七號

寫

御願

本年一月十一日付門発第三號ヲ以テ及追
伸候當社電氣軌道ノ車輛設計圖
中寸法記入洩レノモノ発見致候ニ付改メテ
別紙及提出候間御差替被下度
此段願上候也

昭和五年二月廿八日

門司築港株式会社
取締役 二宮秀 ㊞

鉄道大臣 江木翼殿
内務大臣 安達謙蔵殿

寫

No.

土第一七九六號

昭和五年五月廿一日

福岡縣内務部 (印)

門司築港株式會社 御中

軌道車輛設計ニ關スル件

標記ノ件本年二月二十八日付門發第一九號ヲ以テ申請ニ係ル左記事項ニ對シ追而書類至急提出相成度

一 電動機ノ特性曲線圖ヲ提出スルコト

二 「トロリーポール」ノ「ホイール」ノ直徑並「ポール」ノ全長及直徑ヲ圖面ニ明示スルコト

三 制御器配線接續圖ニ於テ第二電動機界磁

昭和　年　月　日

門司築港株式會社

(8. 2. 2.000)

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

No.

門司・築港株式會社

昭和　年　月　日

端子E₂ト接地端子T₂間ヲ接續シ大地ト
認メラレタルニ於テ再調スルコト

四　車体及台枠図ニ「トロリーポール」ノ取付位置ヲ明示スルコト

(6.2.2.000)

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]第四二號

昭和五年六月廿日

門司築港株式會社 印

福岡縣内務部 御中

客月廿六日付土第一七九六號ヲ以テ車輛設計ニ關スル件ニ付照會有之別紙圖面四通提出致候条至急可然御取計被成下度候也。

門司築港株式會社

No.

四五號

昭和五年七月十一日

門司築港株式會社
取締役 二ノ宮 [illegible]

鐵道大臣 江木翼 殿
内務大臣 安達謙蔵 殿

客年三月四日付門築第一号ヲ以テ申請致
置候當社瓦斯軌道車輛認可ノ件ハ今
以テ御認可ノ指令ニ接セス使用上差支ヲ生シ居
候ニ付何卒至急御認可相成度此段及申請
候也

昭和 年 月 日

(5. 2. 2,000)

寫

No.

土第一七九六號

昭和五年九月十六日

福岡縣内務部 (印)

門司築港株式會社 御中

車輛認許ノ件照会

客年十二月四日付ヲ以テ第四一号申請ニ係ル標記ノ件ニ付左記事項ニ対スル追申書参考迄至急提出有之度

一 電動機特性曲線圖ニ於ケル「ギアーレ」ノ歯車數ハ工事方法書記載ノモノト一致セス再調スルコト

尚六〇分ノ一勾配ニ於ケル特性曲線ヲ明示スルコト

昭和　年　月　日

門司築港株式會社

(6. 2. 2.000)

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

門築第六四號

昭和五年十月七日

門司築港株式會社（印）

福岡縣内務部 御中

客月十六日付土第一七九六號ヲ以テ御照會相成候車輛設計ノ件左記ノ通リ及追伸候間至急御認可相成度候也

左記

工事方法書中歯車ノ比（68/14 比四、七八）ヲ（67/14 比四、七八）ト訂正致候

六〇〇「ヴオルト」止ニ於ケル特性曲線表別紙ノ通リ提出致候

(照會　通牒事項裏面)

鐵道省

（　文　第　　）

供覧

總務課

結了

件名　門司築港

新[illegible]貨物線[illegible]

貨物線新設ノ件

事項要領（申請、報告、屆出、回答、通牒）

知事意見

備考

調	審	6月24日
四	1	一

技術課未整理済

總務課長	免許	業務課長	營業	特許	技術課長	土木	車輛	電氣
	可		可	可		可	可	可
受付 昭和 年 七月 六日	照會 通牒	受付 昭和 年 月 日	照會 通牒	照會 通牒	受付 昭和 年 7月 8日	照會 通牒	照會 通牒	照會 通牒
調了 昭和 年 月 日	擔任 主査	調了 昭和 年 月 日	擔任 主査	擔任 主査	調了 昭和 年 月 日	擔任 主査	擔任 主査	擔任 主査

備考裏面記載

公文編 7.8.15 引継

15

99

課

土木備考ノ
縦断面図ノ添付ナキモ停留場
設置箇所ノ勾配ニ就テハ支障
ナキモノト認メ今回比ノ侭處理可然乎

課

6.7.6.

保収第八八八號

昭和六年七月二日

福岡縣知事

鉄道省監督局長殿
内務省土木局長殿

門司築港新開停留場位置
変更並住吉停留場新設ノ件

五月二十六日監軌第八四二號ノ一ヲ以テ標記
ノ件照會相成候処別紙添付書ノ通リニ

有之候条、此段及回答候也

門發第五〇號

昭和六年六月廿日

門司築港株式会社
取締役 賀山正雄

鉄道大臣 江木翼殿
内務大臣 安達謙藏殿

本年一月十九日付門発第七二號ヲ以テ停留場
新設並ニ位置変更認可申請書提出致
候処之レニ添付ノ図面相違致居候ニ付テハ
更ニ別紙ノ通リ提出致シ候間乍御手数前
提出ノモノト御差換ヘ下度此段奉願候也
追テ勾配変更及曲線半径ハ其ノ後変更シタル
事無之尚縦断面図ハ原図紙保管場所
取紛レ不明ニ候間発見次第調製提出可
致候間申添置候

内

五月十四日[illegible]

第 號 昭和 年 五月 廿六日

第 八四二 號ノ一 昭和 六 年 五 月 十八 日 立案 決裁

監督局長

總務課長

道路課長

番號

門司築港株式會社 宛

来局長

新米倉庫増設[illegible]

[illegible]ノ件

[illegible]

年 月 日

福岡縣知事 西局長 宛

立案用紙

鐵道省

淨書 書印

校者 合印

99

（次　　第）

照會
通牒事項要領二

件名　門司築港
新開停留場位置變更先住吉前停留場新設ノ件

事項要領（申請、報告、屆出、回答、進申）

鐵道　軌道

知事意見

備考

總務課長	発許	業務課長	營業		會計	技術課長	土木	車輛	電氣
受付昭和　年　月　日	可	受付昭和6年4月14日	可	一、運賃ハ既認可運賃ヲ改正ニ依リ變動ナシ	可	受付昭和　年　月　日	可	可	可
調了昭和6年4月9日	照會 通牒	調了昭和　年　月　日	照會 通牒	二、勾配ニ關シ規程ニ抵觸スルトコロナシ	照會 通牒	調了昭和　年　月　日	照會 通牒	照會 通牒	照會 通牒
	擔任 主査		擔任 主査		擔任 主査		擔任 主査	擔任 主査	擔任 主査

鐵道省

4/9

99

門司築港新開停留場位置變更先住吉前停留場新設ノ件照會

標記ノ件左記事項ニ關シ回答相成度

（六年八月八日附八八八號）

照會事項

二　不要

来照会

一　今回提出ノ線路中ニ既認可ノモノト曲線半径及線路勾配等ニ相違ノ点アルコト

二　~~再調~~若シ勾配及曲線半径ヲ変更シタルモノナルニ於テハ相当手続ヲナスコト

課

課

保収第八八八号

昭和六年四月四日

福岡県知事 松本學

鉄道大臣 江木翼殿

電車停留場設置並ニ位置変更ニ関スル件

別紙之通リ門司築港株式会社ヨリ標記ノ件ニ付申請アリタルヲ以テ調査ヲ為スニ出願軌道ノ終点田ノ浦停留場ト大久保海岸停留場トノ中間ニ新聞停留場新設シアルモ乗降客ノ不便尠カサルニ依ルリ門司市田ノ浦四一八番地ノ先ニ新聞停留場ヲ変更シ同所九ニ番地ノ先ニ住吉前停留場ヲ新設セムトスルモノニシテ道路ノ幅員四間余アリ自動車其ノ他一般交通頻繁ナルモ停留場新設ニ伴ヒ交通上支障ヲ来スガ如キ虞ナク尚同地方民トシテハ停留場変更ニ対シ異議ノ申立ヲ為スモノナク又新ニ増設計画ノ分ハ寧ロ之レヲ歓迎シ居ルノ状況ニシテ停留場ハ工作物ヲ設ケズ同会社所有ノ電柱ニ標示シ且市線路ノ勾配モ規程ニ適合シ居ルヲ以テ設認可支障ナキモノト認ノ認可致ル条此ノ段及報告ルや

94　6.4.6
6.4.6 1271

鉄甲七二

昭和六年一月十九日

門司築港株式會社

取締役　賀山正雄

福岡縣知事松本学殿

停留場新設並位置変更認可申請書

當會社電氣軌道営業線中出町九丁目、田ノ浦終点間ニ乗客ノ便利ヲ図リ別紙ノ通リ停留場ノ新設並ニ位置変更致度候間御認可被成下度関係図書相添ヘ此段申請候也

6.1.20

6.1.23

888

停留場名称	東本町三丁目ヨリノ距離	所在地	摘要
新開	二粁一九四	門司市大字田ノ浦七番地先	位置変更ニヨリ廃止
住吉前	二粁〇六七	〃 九二番地先	新設
新開	二粁三七六	〃 四八番地先	位置変更ニヨリ新設

裏面白紙
国立公文書館 National Archives of Japan

甲

鐵道
軌道

件名 門司築港
車輛讓渡ノ件

事項要領（申請、届出、報告）
東邦電力ヘ七輛讓渡

總務課長

知事意見

開議	第	昭和
四	一種保存	9年11月6日
別々綴		丁

備考

別添 讓受使用認可 第四號中

總務課長 受付 昭和9年11月2日 調了 昭和 年 月 日
免許 可 照會 通牒 擔任 主査
業務課長 受付 昭和9年11月6日 調了 昭和 年 月 日
營業 可 照會 通牒 擔任 主査
會計 可 照會 通牒 擔任 主査
技術課長 受付 昭和 年 月 日 調了 昭和 年 月 日
土木 可 照會 通牒 擔任 主査
車輛 可 照會 通牒 擔任 主査
九州電氣軌道ニテ營業ヲ經理ス
電氣 可 照會 通牒 擔任 主査

照會通牒事項裏面

264 78

裏面白紙

監督
監執第494號
9. 11. 1

道第三七八九號

昭和九年十月三十日

福岡縣知事

鐵道省監督局長殿

內務省土木局長殿

客車讓受並設計變更ノ件

昭和九年五月九日付監執第四九四號一ヲ以テ御照會相成候標記ノ件ニ關シ門司築港株式會社ヨリ別紙ノ通提出來候條及進達候

追テ前記御照會ノ東邦電力株式會社關係回答書類ハ八月二十七日付道第一四六三號ヲ以テ進達濟ニ付申添候

福岡縣

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

門發第二五號

車輛譲渡ニ関スル御届

弊社電氣軌道門司市東本町、田野浦間ニ使用致居リ候別記事項書ノ車輛七輌今般東邦電力株式会社ニ譲渡シ度候間此段及御届候也

昭和九年十月十九日

門司市大字門司三千六百七十番地ノ壹
門司築港株式会社
取締役 賀山正雄

鉄道大臣 内田信也殿
内務大臣 後藤文夫殿

事項書

一、電動客車七個

乗車人員 四〇人

車輛番号 自壹号至参号 参個

認可年月日及指令番号 大正十二年十二月十四日 土第二、三六七号（福岡県知事）

車輛番号 自四号至五号 弐個

認可年月日及指令番号 大正十三年七月十日 監第一、三六三号（鉄道、内務両大臣）

車輛番号 自六号至七号 弐個

認可年月日及指令番号 昭和五年十二月十九日 監第四五八三号（鉄道、内務両大臣）

一、譲渡先 東邦電力株式会社

一、譲渡期日 東邦電力株式会社ニテ譲受ノ認可ヲ得タル時

大

乙

鉄、31

10

土 164

監第二〇五八號ノ二

監第四〇三八號

昭和十年十二月二十一日起案

昭和十年十二月二十一日決裁

十二月二十三日

内務大臣

次官

土木局長

文書課長

道路課長

鉄道大臣

次官

文書課長

監督局長

総務課長

庶務課長

門司築港日ノ出町九丁目田ノ浦間軌道運輸営業廃止ノ件

昭和10年12月21日	第一種保存	冊數 四
		1

九州電気軌道

163.

221.

268

（福岡縣經由）

番號

門司築港株式會社

昭和十年八月一日附門發第一五號申請門
司市日ノ出町九丁目、同市田ノ浦間軌道運輸營業
廢止ノ件許可ス
昭和十一年一月二十日迄ニ營業ノ廢止ヲ實施
スヘシ

下ノ句記入

年十二月二十一日

鐵道大臣
内務大臣

案ノ二

十二 二十一

番號

年　月　日

西部長

遞信省電氣局長宛

通牒

大正十一年九月一日門司築港株式會社ニ對シ
特許シタル門司市日ノ出町九丁目、同市田ノ浦間軌道
運輸營業廢止ノ件十二月二十一日許可相成候條
了知相成度

番號

案ノ三

年　月　日

西部長（？）

福岡県知事宛

通牒

本年九月二十六日附道第三八五五号ヲ以テ進達有之候門司築港日ノ出町、田ノ浦間軌道運輸営業廃止ノ件別紙ノ通指令相成候処尚本件ニ関スル地元市会ノ要望ニ付テハ慎重考究ノ上遺漏無キ様対策ヲ講セシメラレ度

（備考）右通牒ハ九州電気軌道株式会社日ノ出町田ノ浦間運輸営業廃止ノ件ニ附シ通牒ニ於テ[illegible]

十七

甲

件名　門司築港日ノ出町、田ノ浦間軌道起業廃止ノ件　~~鉄道~~　軌道

事項要領（申請）

本区間ハ九州電気軌道会社ニ営業委託ノ線路ナリ。

特許　大正十一年九月一日

運輸開始　〃　十二年十二月二十日

路長粁　一粁七分

未営業延長許可　昭和七年十月十八日

右期限　〃　十年十月十七日

（理由）本線路ハ陸軍東ハ免許ニ従業員ヲ解雇シ又営業工事ハ巨額ヲ要シ、収支上ニモ結局営業ノ不可能ナルニ付之ヲ廃止シ、九軌全線ノ自動車ヲ以テスルニ代ヘントス。

知事意見

営業不振ト契約期限満了ニ於テハ四囲ノ状況ヨリ考ヘテ之ヲ存置スルハ不可能ニシテ、已ムヲ得ザルモ市会ノ希望ヲ考慮セラレ度。

備考

~~通牒案ヲ附ス~~

九軌ニ免許スルモノト同様

総務課長	業務課長	陸運監督課長				
免許	営業	会計	土木	車輌	電気	
可	可	可	可	可	可	
照会通牒	照会通牒	照会通牒	照会通牒	照会通牒	照会通牒	
擔任	擔任	擔任	擔任	擔任	擔任	
主査	主査	主査	主査	主査	主査	
受付 昭和10年10月30日	受付 昭和10年11月11日	受付 昭和　年　月　日				
調了 昭和　年　月　日	調了 昭和　年　月　日	調了 昭和　年　月　日				

（照会通牒事項裏面）

鉄道省

国立公文書館 National Archives of Japan

「参考

日ノ出町九丁目
田ノ浦間特許　　大正十一月　九月　四日

運輸開始　　大正十二年十二月十八日

九州電氣軌道株式會社ト
軌道乘入、營業、運轉管理委託　　大正十三年十二月　七日

右ハ九州電氣軌道線路（日ノ出町九丁目 東本町三丁目）間ヲ無償ニテ借入門司築港線路（日ノ出町九丁目 田ノ浦）間ト直通運轉爲サントスルモノニシテ營業ハ門司築港ガ管理シ運轉ハ九州電氣軌道ガ管理スル契約ナリ（別紙契約書寫參照）

門司築港株式會社線路ヲ九州電氣軌道株式會社ニ
營業、運轉管理委託　　昭和　七年十　月十八日

右ハ昭和七年ニ於テ門司築港ヨリ全線ヲ九州電氣軌道ニテ經營セ

271

課

課

ラレタルト申込ミタルニヨリ前回締結セル處ノ契約ヲ更改シ門司築港線路ヲ九州電氣軌道ノ經營下ニ置キ九州電氣軌道ノ東本町三丁目日ノ出町九丁目間ニ通シテ本線ト連絡運轉スル契約ナリ（契約書寫別紙參照）

契約期限　昭和十年十月十七日

右ノ如クニシテ現在ニ至リタル處九州電氣軌道株式會社ヨリ契約ヲ繼續セサル旨ノ通知ヲ受ケタルモ門司築港株式會社自体ニ於テハ昭和七年經營委託ノ際電車ハ賣却シ從業員ハ解雇シタルノミナラズ線路自体改良時期ニ到達シ之ヲ遂行スルニハ巨費ヲ要シ會社財政上不可能ナル上地元ニ於テモ狹隘ナル道路ニ電車運轉ヲ爲スヲ反對ノ現狀ニ鑑ミ之ヲ廢止シ九州電氣軌道經營ノ乘合自動車ヲ以テ代行セントシ本申請ニ及ベルモノナリ

尚本區間ヲ廢止セハ殘區間ナル特許線（田ノ浦門司間）ヲ如何ナスモノナリヤ照會ノ要アリ（[illegible]）

田ノ浦門司間工事施行申請期限　昭和五年二月二十八日
（期限内工施申請書地方廳提出濟）

貸借對照表

昭和10年5月31日

借方			貸方		
科目	金額		科目	金額	
土地建物興業費	1.431.868	08	資本金	2.500.000	00
鉄道建設費	617.319	71	法定積立金	10.150	00
軌道 〃	296.874	91	未払金	610	43
港湾 〃	18.324	79	仮受金	29.465	65
器械工具費	2.604	00	前期繰越金	14.545	15
什器備品	3.105	20	当期純益金	2.553	90
仮払金	23.427	15			
未収金	17.043	71			
銀行勘定	144.985	35			
貯蔵品	1.733	73			
金銀	38	50			
合計	2.557.325	13	合計	2.557.325	13

273

利益金処分表

收入		支出	
科目	金額	科目	金額
前期繰越金	14.545 15	法定積立金	150 00
当期利益金	2.553 90	後期繰越金	16.949 05
合計	17.099 05	合計	17.099 05

損益計算表

收入		支出	
科目	金額	科目	金額
軌道営業收入	0	軌道営業支出	0
鉄道 〃	22.816 87	鉄道営業 〃	5.293 09
土地建物営業收入	11.098 52	土地建物営業支出	21.362 27
		償却及雑損	4.706 13
合計	33.915 39	合計	31.361 49

［備考］
軌道ハ九州電気軌道ニ無償貸与ニ付
收入ハ無シ

参考

九州電氣軌道經營乘合自動車概要

一、路線數　田ノ浦門司間外二十九線　四三粁

一、使用車輛數　六二輛

一、田ノ浦門司間ニ就テハ左ノ如シ

延長粁程　二粁六分

最小運轉時分　一六分

運行回數　一日一七〇回

使用輛數　四輛

運賃　五錢（區間制）

尙門司田ノ浦間ニ於ケル軌道及乘合自動車トノ關係ヲ比較スルニ左ノ如シ

延長粁　二粁五分（軌道）　二粁六分（乘合自動車）

軌道建設費

科目	前期末決算額		今期決算額		合計	
測量監督費	14.940	21			14.940	21
用地費	66.235	01			66.235	01
土工費	41.080	53			41.080	53
溝渠費	1.050	36			1.050	36
軌道費	69.114	19			69.114	19
諸建物費	6.316	64	4.666	64	1.650	06
電線路費	15.837	45			15.837	45
電話線路費	178	71			678	71
停車場費	18	00			18	00
總係費	30.233	86			30.233	86
小計	245.504	96	4.666	64	240.838	32
軌道、鐵道關聯費分擔額	458	20			458	20
[illegible]	25.102	90			25.102	90
[illegible]	30.475	49			30.475	49
合計	301.541	55	4.666	64	296.874	91

運行回數 一七〇回
使用車輛 四台
（運行回數・使用車輛）業務課ニ報告ナク不明

運賃 四錢 五錢

交通量 本區間ノミニ就テハ統計報告ナク不明ノタメ便宜全線ノ乘客數ヲ記載ス

~~[illegible]~~ 三七、〇三三、三一四人 二〇三、七四三八人

（昭和九年度） （昭和九年十二月一日 十年五月卅一日）

参考

甲號

軌道貸借營業委託契約

門司市東本町三丁目ヨリ日ノ出町九丁目清見町境ニ至ル間軌道ノ貸借營業委託ニ付九州電氣軌道株式會社々長松方幸次郎ヲ甲トシ門司築港株式會社取締役宮崎敬介ヲ乙トシ左ノ通リ契約ス

第壹條 甲ハ乙ノ懇請ニ依リ甲ノ特許線タル門司市東本町三丁目日ノ出町九丁目清見町境ニ至ル電氣軌道ヲ無償ニテ乙ニ貸與シ其ノ營業ヲ乙ニ委託ス

第貳條 前條ノ期間ハ乙ノ營業開始ヲ爲シタル日ヨリ滿壹ケ年トス但期間末壹ケ月前迄ニ双方ヨリ何等申出ナキトキハ次ノ壹ケ年間繼續スルモノトス以後ノ期間亦同シ

第參條 本契約ハ双方壹ケ年前ノ豫告ヲ以テ之ヲ解除スルコトヲ得

鐵道省

国立公文書館
National Archives of Japan

大正拾壹年參月貳拾八日

九州電氣軌道株式會社
社長 松方幸次郎

門司築港株式會社
取締役 宮崎敬介

右原本ニ依リ此謄本ヲ作ル

大正拾貳年八月拾七日

小林功

鐵道省

写

参考

乙號

運轉管理委託契約

門司築港株式會社特許線日ノ出町田ノ浦間ノ電車運轉及九州電氣軌道株式會社ノ特許線東本町三丁目日ノ出町間ニ門司築港株式會社ノ電車乘入運轉ヲ九州電氣軌道株式會社ニ於テ管理スルニ付九州電氣軌道株式會社取締役社長松方幸次郎ヲ甲トシ門司築港株式會社取締役宮崎敬介ヲ乙トシ左ノ通リ契約ス

第壹條 甲ハ乙ノ懇請ニ應シ甲及乙ノ線路內ニ於テ乙ノ電車ヲ甲ノ車掌、運轉手及運輸係員並ニ保線係員ヲ使用シ甲ノ電力ヲ以テ運轉シ旅客貨物ノ運輸ヲ爲スコトヲ承諾ス

第貳條 甲及乙ノ線路內ニ於ケル電車ノ運轉時刻ハ乙ニ於テ甲ト協議ノ上之ヲ定ム其改正變更若クハ休止ノ場合亦同シ但シ臨時緊急ノ事由ニ依リ甲ニ於テ隨意變更又ハ休止ヲ爲シタルト

鐵道省

キハ施行後之ヲ乙ニ通知スルモノトス
第參條甲及乙ノ線路內ニ於ケル電車ノ運轉取扱方ハ特ニ協定ヲ要スル事項ヲ除クノ外甲ノ定ムル所ニ依ル
第四條事故其他已ムヲ得サル事情ノ爲メ運轉ヲ休止變更シタル場合ニ於テ乙ニ損害ヲ及ホスコトアルモ甲ハ其ノ責ニ任セス
第五條乙ハ甲及乙ノ線路ノ運轉費、保存費事故（天災竝ニ不法行爲ヲモ含ム）ノ爲要シタル費用其他之ニ伴フ直接間接一切ノ實費及本契約解除ノ爲ニ生スル費用ヲ甲ニ支拂フモノトス
但シ電力料金ノ計算ハ別途契約ニヨリ算定ス
第六條甲及乙ノ線路ニ於ケル營業收入ハ乙ノ所得トス
第七條本契約ハ双方壹ケ年前ノ豫告ヲ以テ之ヲ解除スルコトヲ得
第八條本契約ノ期間ハ全線路又ハ其ノ一部カ運轉開始ヲ爲シタル日ヨリ滿壹ケ年トス但シ期間末壹ケ月前迄ニ双方ヨリ何等ノ申出ナキトキハ次ノ壹ケ年間繼續スルモノトス以後ノ期間亦同シ

大正拾壹年參月貳拾八日

福岡縣小倉市京町參百五拾八番地ノ貳
九州電氣軌道株式會社
取締役社長　松方幸次郎

大阪府大阪市東區今橋二丁目一番地
門司築港株式會社
取締役　宮崎敬介

右原本ニ依リ此謄本ヲ作ル
大正拾貳年八月拾七日

小林功

鐵道省

参考

軌道貸借營業及運轉管理委託契約

門司市日ノ出町ヨリ同市田ノ浦ニ至ル間軌道ノ貸借營業及運轉管理委託ニ付九州電氣軌道株式會社（以下單ニ甲トス）ト門司築港株式會社（以下單ニ乙トス）トノ間ニ左ノ通リ契約ス

第一條　乙ハ其ノ特許線タル門司市日ノ出町ヨリ同市田ノ浦ニ至ル電氣軌道ヲ無償ニテ甲ニ貸與シ其ノ營業ヲ甲ニ委託ス

第二條　甲ハ甲及乙ノ線路內ニ於テ甲ノ電車ヲ甲ノ車掌、運轉手及運輸係員並ニ保線係員ヲ使用シ甲ノ電力ヲ以テ運轉シ旅客貨物ノ運輸ヲ爲スモノトス

第三條　甲及乙ノ線路內ニ於ケル電車ノ運轉取扱方ハ甲ノ定ムル所ニ依ル

第四條　本契約期間ハ監督官廳ノ許可ヲ得タル日ヨリ滿三ケ年

鐵道省

トス但期間末壹ケ月前迄ニ双方ヨリ何等申出ナキトキハ次ノ壹ケ年間繼續スルモノトス
以後ノ期間亦同シ

第五條　本契約ハ双方壹ケ年前ノ豫告ヲ以テ之ヲ解除スルコトヲ得

本契約ヲ證スル爲メ本書貳通ヲ作成シ各其壹通ヲ保有ス

昭和七年七月拾參日

福岡縣小倉市京町三五八番地ノ二
甲　九州電氣軌道株式會社
右代表取締役社長　大田黑重五郎

福岡縣門司市大久保
乙　門司築港株式會社
右代表取締役　賀山正雄

10.9.30
第10218號
鐵道省

監督局
監軌第2058號
10.9.30

道第三八五五號

昭和十年九月二十六日

福岡縣知事 畑山四男美

鐵道大臣 内田信也 殿
内務大臣 後藤文夫 殿

軌道運輸營業廢止許可ノ義ニ付副申

門司築港株式會社ヨリ標記ノ件別紙ノ通出願來候ニ付調査候處門司市日ノ出町九丁目ヨリ田ノ浦ニ至ル一、七粁間ノ軌道運輸營業ハ昭和七年十月十八日附監第二八七六號許可ニヨリ爾來九州電氣軌道株式會社ヘ委託經營中ニ有之候モ該區間ニ於ケル同會社ノ營業狀態ハ同社特許線タル門司市東本町三丁目ヨリ同市日ノ出町九丁目ニ至ル間ノ營業ト共ニ過去數年間洵ニ不振ニシテ何レモ運輸營業廢止ノ餘儀ナキモノニ

福岡縣

送付

裏面白紙

280

有之殊ニ本願ハ右委託經營期限後ハ從業員並四圍ノ狀況ヨリ出願者單獨經營ハ到底不可能ノ實情ニ有之候條事情御了察ノ上廢止ノ義特ニ御許可相成樣致度

追テ本件ニ付テハ地元市會ニ於テ異議ノ次第モ有之別紙門司市長答申書寫ノ通ニ有之候條可然御詮議相煩度

福岡縣

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

門発第一五號

軌道運輸營業廢止許可御願

弊社特許線門司市日ノ出町九丁目ヨリ田ノ浦ニ至ル區間ハ昭和七年十月十八日附監第二八七六號ヲ以テ御許可ヲ経テ九州電氣軌道株式会社ニ委託營業中ニ有之候モ其ノ期限タル本年十月十七日以後ハ同社ヨリ受託継續セサル旨通知有之候間當社直接營業スヘキ次第ニハ有之候ヘ共別記理由ニヨリ本年十月十七日限リ軌道運輸營業ヲ廢止致度候ニ付特別ノ御詮議ヲ以テ御許可被成下度関係書類相添ヘ此段奉願候也

昭和十年八月一日

門司市大字門司[illegible]七百九十九番地ノ一

門司築港株式会社

取締役 賀山正雄

鉄道大臣 内田信也殿

内務大臣 後藤文夫殿

添付書類

一、理由書

理由書

弊社線一・七粁ハ單線ニシテ開業以来九州電氣軌道株式会社ノ門司市東本町三丁目ヨリ同市日ノ出町ノ九丁目ニ至ル單線路〇・八粁ト直通営業致シ居リシモ乗合自動車ノ發達ニヨリ乗客ヲ奪ハレ経営困難ニ陥リ且増收策トシテ複線運轉ヲナスニハ道路幅員狹小ニシテ電車増發モ致シ難キニヨリ昭和七年十二月以降ハ御許可ヲ経テ両社全線二・五粁ヲ擧テ九州電氣軌道株式会社ニ委託経営中ノ處本年十月十七日契約期限満了後ハ單獨経営スヘキ次第ナレ共當社ハ昭和七年九軌ニ経営委託ノ際既ニ従業員全部ヲ解傭シ車輌ヲ賣却シ居ルノミナラス線路ハ経年ニヨル腐朽磨損甚敷之レカ改修ニハ巨額ノ費用ヲ要スヘク斯クテハ会社財政上到底負擔ニ堪ヘサル事情ニアリ且地元民ニ於テモ狹隘ナル道路ニ電車ヲ運轉スルコトハ一般交通上支障アリトノ見地ヨリ寧ロ電車運轉ヲ希望セサル向モアリ尚九軌会社ニ於テモ同一理由ニヨリ東本町三丁目ヨリ日ノ出町ノ九丁目ニ至ル一區間ノ軌道営業廢止許可出願中ニシテ弊社線一・七粁ノ單線區間ヲ獨立経営スルコトハ困難ナル事情ニ付軌道運輸営業ハ之レヲ廢止シ九州電氣軌道株式会社ニ於テ乗合自動車ニヨリ地方交通者ノ便ヲ計ラントスルモノナリ

門土發第三六二號

昭和十年九月六日

門司市長

福岡縣土木部長殿

軌道運輸營業廢止ニ關スル件

昭和十年八月二十八日付道第三八五五號ヲ以テ意見御照會相成候標記ノ件右ハ左記條件ヲ附スルニ於テハ支障無之相認メ候間市會ノ諮問ヲ經テ此段及答申候也

追テ電車ハ午前七時迄ノ乘客ニ對シ賃銀半減ノ便益アルモ電車運輸廢止ノ曉ハ今後其利便ヲ失フニ至リ該方面ノ一般民衆ハ經濟上多大ノ迷惑ヲ蒙リ候義ニ付本件營業廢止御許可ニ際シテハ乘合自動車經營者ニ電車同樣ノ利便ヲ與ヘ候樣格別ノ御盡力御配慮相煩シ度市會ニ於ケル滿場一致ノ要望モ有之候間右要望達セラレ候樣御高配相仰度申添候

記

一 運輸營業廢止ト共ニ現在ノ乘合自動車ノ運轉回數ヲ交通量ニ應シ適當ニ增加シ且其ノ運轉始終時間ヲ從來ノ電車同樣ニ延長スルコト

一 運輸營業廢止後ハ直ニ軌條ヲ撤去スルコト

一 東本町三丁目ヨリ日出町九丁目間ハ軌條撤去ト同時ニ其ノ跡地ヲ鋪裝スルコト

10.10.3 監第10382號 鐵道省

監督局 監軌第2058號 10.10.3

道第四六一七號

昭和十年十月一日

福岡縣知事 畑山四男美

鐵道大臣 内田信也殿

内務大臣 後藤文夫殿

軌道運輸營業廢止許可ノ義ニ付追申

門司築港株式會社經營ニ係ル門司市日出町九丁目ヨリ同市田ノ浦ニ至ル區間標記ノ件ニ付九月二十六日道第三八五五號ヲ以テ副申進達致候處今回別紙ノ通追申來候條可然御詮議相煩度

福岡縣

裏面白紙

門發第二七號

追伸書

弊社特許線門司市日ノ出町九丁目ヨリ仝市田ノ浦ニ至ル區間ハ本年八月一日附門発第一五号ヲ以テ軌道運輸営業廃止許可方及申請候處九州電氣軌道株式会社トノ委託営業契約満了期日十月十七日モ切迫致シ施設物撤去準備ノ都合モ有之候間特別ノ御詮議ヲ以テ至急御許可被成下度此段及申請候也

昭和十年九月二十六日

門司市大字門司二千六百九十九番地
二千七百番地ノ弐
門司築港株式会社
取締役 賀山正雄

鐵道大臣 内田信也殿
内務大臣 後藤文夫殿

土木局

乙第29号

丙

要再回

二〇八一

二四三

十一 二一 三十

十 二四

監督局長

文書課長

道路課長

門司築港 門司市日ノ出九丁目 同市田ノ浦間運輸営業廃止実施ノ件

官報掲載案

軌道営業廃止実施 昭和十年十二月二十一日

21.

門司築港株式會社ニ對シ門司市日ノ出町九丁目同市田ノ浦間軌道運輸營業廢止ヲ許可シタルニ昭和十一年一月十日實施ノ旨屆出アリタリ

（鐵道省
外務省）

（備考）營業廢止實施期限　昭和一一、一、二〇

監督局 監第208號 11.1.24

監理局 第772號

一月二八 土木局 打合済

道第一一四號

昭和十一年一月二十二日

福岡縣知事 畑山四男美

鐵道大臣 内田信也殿
内務大臣 後藤文夫殿

軌道運輸營業廢止屆進達ノ件

管下門司築港株式會社ヨリ標記ノ件別紙ノ通屆出來候條及進達候

福岡縣

裏面白紙

21.

国立公文書館
National Archives of Japan

門築第四二號

軌道運輸営業廃止届

昭和十年十二月二十一日付監第四〇三八号ヲ以テ営業廃止ノ御許可ヲ得タル門司市日ノ出町九丁目同市田ノ浦間ハ昭和十一年一月十日限リ運輸営業ヲ廃止候ニ付此段及御届候也

昭和十一年一月十一日

門司市大字門司二千六百九十九番地ノ壹

門司築港株式会社

取締役　賀山正雄

鐵道大臣　内田信也殿

内務大臣　後藤文夫殿

11.1.13

鉄 三五

三二

第二一二〇二號
第六三三號

昭和十一年四月 日
昭和十一年三月四日
四月一四日

鐵道大臣
次官
監督局長
總務課長
技術課長
文書課長
參與官
政務次官

内務大臣
次官
土木局長
道路課長

第一種保存 昭和11年8月1日

門司築港同門司市田ノ浦門司間軌道起業廢止許可並同区間軌道

再廻
技術
業山
經計

232.

工事施行認可申請書返付ノ件

福岡縣經由

門司築港株式會社

昭和十年九月二十六日附門發第二三號及
同十一年一月二十二日附同第四八號申請
門司市田ノ浦、同市門司間軌道起業廢止ノ
件許可ス

年　月　日

鐵道大臣
内務大臣

軌道起業廢止

案ノ二（官報掲載）

四月二六日官報掲載

大正十五年八月十九日門司
築港株式會社ニ對シ特許シタル福岡縣門司市
大字田ノ浦、同市大字門司間軌道起業廢止ノ
件四月一日許可セリ

（鐵道省
内務省）

四月一日

案ノ三

番號

年　月　日

西部局長

遞信省電氣局長宛

通牒

大正十五年八月十九日門司築港株式會

社ニ對シ特許シタル福岡縣門司市大字田ノ浦
同市大字門司間軌道起業廢止ノ件本月
一日許可相成候

番號　案ノ四　四月一日

年　月　日

西局長

福岡縣知事宛

通牒

昭和十年十月四日附道第四六一六號並同十一
年一月三十一日附同第三七三號ヲ以テ進達有
之候門司築港内門司市田ノ浦、同市門司間軌道
起業廢止ノ件右ハ本件ニ伴フ定款變更（軌道事業
ノ全廢）ニ付商法第二〇九條ニ依ル決議ヲ最近ノ機
會ニ於テ為スモノトシテ別紙ノ通〔…〕指令相成タル次第ニ
付其ノ旨會社ニ垂示ノ上特許狀ヲ返納セシメラレ度
尚同時進達ニ係ル本区間軌道工事施行認可申請
書ハ不要ニ付及返付候條可然取計ヒ相成度。

（備考）
定款變更特別決議ハ最近ノ機會ニハ之ヲ為ス可キ旨
総務課長巻私信ニテ申出アリタリ。

鉄道省

封

二月十日

門司市大久保
門司築港株式會社
賀山正雄

東京市
鉄道省監督局
大山秀雄様

回 [illegible]

起業課[illegible]ノ件

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

昭和十一年二月七日

大山秀雄

賀山正雄殿

謹啓 厳寒ノ砌益御多祥ノ段奉賀候
陳者ハ本年一月二十二日附門發第四八號ヲ以テ、門司市田ノ浦、同市大字門司間軌道未成線起業廢止許可申請ノ件ニ關シ第三十二回定時株主總會議事要領書提出有之候處、第二號議案（軌道起業廢止）ハ會社定款ノ變更ヲ來ス事項ニシテ株式竝株主共ニ總數ノ過半數ノ出席ヲ要スル（所謂特別決議ヲ要スル儀ナリ）モノナルニ、本決議ハ普通決議ト相成居リ、決議ハ自然無效ニ候就而更ラニ特別決議相成度
若シ最近ノ機會ニ於テ特別決議可相成御意向ノ程モ判明致セバ、此ノ儀通牒附ヲ以テ起業廢止ノ件モ處理致度ト存居候間右ニ關シ何分ノ回報賜度此段御依頼申上候

敬具

裏面白紙

通牒ハラスマトカ

No.

門司市大久保
門司築港株式會社
電話三四二番

拝啓
余寒難去候処益々御清適之段奉賀候
陳者當市田ノ浦、門司間ノ軌道未成線起業廃止許可申請ノ件ニ付御来示之趣敬承仕候右ニ関シテハ種々御手数ヲ煩シ恐縮ニ存ジ候實ハ今後又當社トシテハ軌道營業ヲナスヘキ状勢ニ立至ヤモ難計候タメ今回定款ノ変更ヲナサス普通決議ニ止メタルモノニ候ヘ共今回御示シノ次第モ有之了承仕候然ルニ今直ニ臨時株主総会ヲ開キ特別決議ヲ為スニハ不尠ノ手数ト費用ヲ要シ候間（現在株主千七百五十一人ニテ五株以下ノ株主約千十人アリ）不遠相當ノ時機ニ於テ特別決議可致候間事情御洞察ノ上本件起業廃止ハ適當ニ御処理ナシ被下度右御願申上候
拝具

昭和十一年二月十日

賀山正雄

大山秀雄様

295

門司築港軌道

一〇

軌道

件名 門司市田ノ浦間軌道起業廃止ノ件

事項要領（申請、報告、届出、回答、進申）

全市門司田ノ浦間二粁四七四

延長粁程

工事施行申請期限 特許 大正一五年五月二十七日 昭和五年二月二八日（期限内）

右区間ノ軌道ヲ廃止セントスルモノナリ。

（動力電気）（軌間）一米四三五

理由

九州電気軌道ニ於テ田ノ浦間ノ事業ヲ継続ノ拒絶サレ競合間ノ営業廃止ノ無止ニ至リタル故本区間ノミノ営業ハ到底不可能ナルタメ本申請ニ及ビタルモノナリ

知事意見

（現在営業線ハ営業廃止ニ至リタルタメ然ル至当ト認ム。）

備考

起業廃止区間ニハ乗合自動車ナシ。

別途門築軌道田ノ浦間及九州電気軌道間営業廃止許可申請書一括送付ノ件廃止申請ノ件ハ

本件ハ伴フ営業ノ将来状況ニ因ル…

総務課長

免許 可

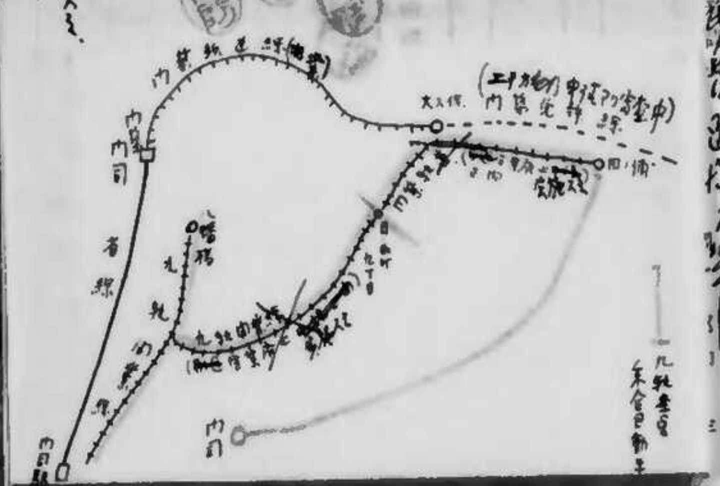
通牒 要

受付 昭和十年十月十六日

調了 昭和 年 月 日

本件別途申請ノ営業廃止ノ件ト同時処分ニ付キ軌道営業廃止ニ付キ同時処分ノ要アリ

抜



（照會通牒事項裏面）

232
296

三

門司築港

件名　門司市田ノ浦
仝市門司間軌道起業廃止ノ件

鐵道（抹消）
軌道

事項要領（申請、報告、届出、回答、其他）
特許　大正
延長粁程　田ノ浦　門司
工事施行申請期限
右区間ノ軌道ヲ廃止
（動力電氣）（軌
理由
九州電氣軌道ニ於テ田ノ浦間
業廃止ノ無キニヨリ本区間ノ
本申請ニ及ビタルモノナリ
知事意見
（現在営業線路築港
不得止モノ

備考　起業廃止区間ハ未合
別途門築軌道田ノ浦間及九州電
田ノ浦門司間ニテ申請書一括進付

本件ハ併テ宮敷（？）ノ特別伏議ニ因レルハ得策ナル…不遠適当ノ機会ニ於テ特別伏議ヲ為ス旨ノ申出アリタリ。

本件別途申請ノ営業廃止ノ件ト同時ニ処分スベキ
◎軌道事業全部ニ付…
業務ハ長ニ回付スベキ

總務課長	免許	營業	會計	課長	土木	車輛	電氣
受付昭和十年十月十六日 調了昭和　年　月　日	可 照會 通牒 擔任 主査	可 照會 通牒 擔任 主査	可 照會 通牒 擔任 主査	受付昭和　年　月　日 調了昭和　年　月　日	可 照會 通牒 擔任 主査	可 照會 通牒 擔任 主査	可 照會 通牒 擔任 主査

（照會通牒事項裏面）

232

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

貸借對照表

参考

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
土地建物興業費	1.431.868.08	資本金	2.500.000.00
鉄道建設費	617.319.71	法定積立金	10.150.00
軌道 〃	296.874.91	未払金	610.43
港湾建設費	18.324.79	仮受金	29.465.65
器械工具	2.604.00	前期繰越金	14.545.15
什器備品	3.105.20	当期純益金	2.553.90
仮払金	23.427.15		
未収金	17.043.71		
銀行勘定	144.985.35		
貯蔵品	1.733.73		
金銀	38.50		
合計	2.557.325.13	合計	2.557.325.13

国立公文書館 National Archives of Japan

利益金処分表

収入					
科目	金額				
前期繰越金	14.545	15	法定積立金	150	00
當期益金	2.553	90	後期繰越金	16.949	05
合計	17.099	05	合計	17.099	05

損益計算表

収入		支出		損益	
科目	金額	科目	金額	損	益
貨車収入	13.492 53	保存費	1.307 32		
運輸雑収	1.048 66	汽車費	1.042 02		
		運輸費	1.186 51		
		諸税	78 18		
計	14.541 19	総係費	477 36		
		各事業兼営業関聯費分担額	1.201 70		
各事業営業関聯営業収入分数	8.275 68	計	5.293 09		
合計	22.816 87	合計	5.293 09		
土地建物経営収入	11.098 52	土地建物経営費	21.362 37		
		償却及雑損	4.706 13		
合計	33.915 39	合計	31.361 49	2.553	90

国立公文書館
National Archives of Japan

監第105973號 10.10.7
監動第2120號 10.10.8

道第四六一六號

昭和十年十月四日

福岡縣知事 畑山四男美

鐵道大臣 内田信也殿
内務大臣 後藤文夫殿

軌道起業廢止許可申請ノ件ニ付副申

門司築港株式會社ヨリ標記ノ件別紙ノ通申請來候處右ハ大正十五年八月十九日附監第八〇九號ヲ以テ特許ヲ得タル門司市田ノ浦ヨリ同市門司ニ至ル區間ノモノニシテ去ル九月二十六日附道第三八五五號及道第三八五四號ヲ以テ進達シタル九州電氣軌道株式會社並門司築港株式會社經營軌道門司市東本町三丁目ヨリ同市田ノ浦間運輸營業廢止申請ノモノニ關聯シ該軌道カ輓近自動車ノ運輸交通ニ抑壓セラ

福岡縣

裏面白紙

国立公文書館 National Archives of Japan

レ遂ニ廢止ノ餘儀ナキ事情ト相成隨テ本特許線ニ於テモ連絡經營ノ
根幹ヲ斷タルルコトトナリ孤立起業經營至難ト相成候モノニシテ不
得止モノト認メラレ候條右廢止ノ義特ニ御詮議相成度

福岡縣

裏面白紙

監督局
第　號
10. 10. 8

道第四六一六號

昭和十年十月四日

福岡縣知事

鐵道省監督局長殿

起業廢止許可申請ノ件

門司築港株式會社出願ニ係ル標記ノ件ニ關シ本日別途副申進達候處右ハ昭和九年三月二十八日及同十年三月二十二日監軌第五六〇號ヲ以テ御照會ニ係ル田ノ浦門司間ノ軌道特許線ニシテ昭和五年二月二十七日一部工事施行認可申請書提出候モ不備ノ廉修正ノ爲數回往復シ其ノ後四圍ノ狀勢ニ變化ヲ來シ起業困難ト相成候爲今回申請候次第ニ付特ニ御詮議方御取計相煩度

福岡縣

裏面白紙

門築第二三號

起業廃止許可申請書

弊社電氣軌道特許線門司市大字田ノ浦ヨリ仝市大字門司ニ至ル間ハ大正十五年八月十九日付監第八〇九号ヲ以テ御許可ヲ得昭和五年二月二十七日付工事施行認可申請中ニ有之候處今般別記理由ニ依リ起業廃止致度候間此段及申請候也

昭和十年九月廿六日

門司市大字門司二千百六拾七番地ノ一

門司築港株式会社

取締役　賀山正雄

鉄道大臣　内田信也殿

内務大臣　後藤文夫殿

理由書

弊社開業線門司市日ノ出町九丁目清見町ノ境ヨリ仝市田ノ浦ニ至ル一、七粁ハ大正十二年開業以来九州電気軌道株式会社ノ門司市東本町三丁目ヨリ仝市日ノ出町九丁目ニ至ル〇、八粁ト直通営業致シ居リシモ乗合自動車ノ発達ニ依リ乗客ヲ奪ハレ経営困難ニ陥リタルヲ以テ昭和七年十二月以降ハ御許可ヲ経テ両社線二、五粁ヲ挙ゲテ九州電気軌道株式会社ヘ委託経営中ノ処本年十月十七日右契約期限満了後ハ九州電気軌道株式会社ニ於テ其ノ経営継續セサル旨通告ニ接シタルヲ以テ軌道運輸ノ営業廃止ノ無止ニ至リ本年八月一日付其許可申請中ナルニ依リ本区間ノミノ起業経営ハ到底困難ナル事情ニ立至リタルヲ以テ一先起業廃止ヲナシ将来交通運輸ノ状勢ニ依リ改テ特許申請ヲナサンコトスルモノナリ

供覧

監督局長　監督課長

監督局
監外第2.120號
10. 10. 30

1.

電報訳文

九月二六日申請起業廢止許可申請ノ件ハ一時保留願度、後書面出ス。

門司筑不港會社

232

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

電報

六〇三
六三 モジ 六〇四 セ一一、四五
テツド ウシヨウレ
カントクキヨクチヨウ 1306

九ガ ツ二六ヒシンセイキギ ヨウハイシキヨカシンセイノケン一
ジ ホリユウネガ イタシアトシヨメンダ スレモジ チツカウカ
イシヤ

コ〇、二六

15.10.30

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

裏面白紙

国立公文書館
National Archives of Japan

鐵道 軌道

門司築港

件名 門司市田ノ浦 仝市門司間軌道起業廃止ノ件

事項要領（申請、報告、届出、回答、追申）

株主総會 一〇、一二、二七

出席株主 三六人（総株主数一、七五一人）

此ノ株数 二一、三六六株（総株式数五〇、〇〇〇株）

前回一〇、九、二六附ヲ以テノ右正向ノ起業廃止申請ヲ為シタルモ軌道運輸業ノ（全部）廃止ニシテ定款ノ変更ヲ来タスニヨリ株主総会議事決議録ノ必要トセル処今回添付申請セルモノナリ

知事意見 事情不得止

備考 定款ノ変更ニハ総株主ノ半数以上ニシテ資本ノ半数以上ニ當ル株主ノ出席ヲ要スルモ今回ノ総会ニ於テハ定数ニ充タザルニ付更ニ特別決議ヲ必要トス

（照會通牒事項裏面）定款ヲ二條裏面ニ記ス

課長ノ名義ニテ私信且會申

追テ上ハ不遠追而ノ機會ニ於テ特別決議ヲ取

総務課長	免許	業務課長	營業	會計	技術課長	土木	車輌	電氣
受付 昭和十一年二月四日	可	受付 昭和 年 月 日	可	可	受付 昭和 年 月 日	可	可	可
調了 昭和 年 月 日	照會 通牒	調了 昭和 年 月 日	照會 通牒	照會 通牒	調了 昭和 年 月 日	照會 通牒	照會 通牒	照會 通牒
	擔任		擔任	擔任		擔任	擔任	擔任
	主査		主査	主査		主査	主査	主査

内田汽船會社定款ヲ左ノ條改正シ

第二條　本會社ハ左ノ事業ヲ營ムヲ以テ目的トス

(一) 海水面ノ埋立、埠頭ノ築造及市街宅地ノ開發

(二) 棧橋及倉庫ノ建設、貯炭場、設備並其ノ經營

(三) 地方鐵道並電氣軌道ノ敷設及之ニ一般運送業ヲ營ム

(四) 不動産ノ建築並ニ土地建物ノ賣買、賃貸借

(五) 船渠及鐵工業

(六) 前記各号ニ関聯スル附帯ノ事業

課

課

11.2.3 監第1089號

監督局 監第26號 11.2.3

道第三七三號

昭和十一年一月三十一日

福岡縣知事 畑山四男美

鐵道大臣 内田信也殿

内務大臣 後藤文夫殿

起業廢止許可申請ノ件副申

門司築港株式會社ヨリ標記ノ件別紙ノ通申請來候處右ハ昭和十年十月四日附道第四六[illegible]號ヲ以テ一旦起業廢止許可申請書副申進達候處其ノ會社ニ於テ調査致度旨ヲ以テ一時起業廢止許可保留方出願ニ付同年十一月五日附道第五一五四號ヲ以テ進達致置候モ彌々確定的ニ別紙ノ通株主總會ニ諮リ議決ヲ經テ起業廢止方申請來候モノニ有之前同副申ノ通リ事情巳ムヲ得サルモノト被認候條御認可相成候樣致度此段及副申進達候

福岡縣

裏面白紙

232

308

門発第四八號

起業廃止許可申請書

弊社特許線門司市大字田ノ浦ヨリ仝市大字門司ニ至ル區間ニ就テハ昭和十年九月二十六日付門発第二三号ヲ以テ起業廃止ノ申請ヲ為シ次テ仝年十月三十一日付門発第三三号ヲ以テ其ノ許可一時保留ヲ出願シ其ノ後調査研究中ノ処日ノ出町九丁目田ノ浦間ノ電気軌道運輸営業廃止後ハ本区間ノミノ起業経営ハ到底困難ナル事情ニ到達致候ニ付一先本区間ノ起業廃止ノ許可被成下度株主総会ノ議事要領書相添ヘ此段及申請候也

昭和十一年十一月二十二日

門司市大字門司二二六九番地ノ二
門司築港株式会社
取締役　賀山正雄

鉄道大臣　内田信也殿
内務大臣　後藤文夫殿

第三十二回定時株主総会議事要領書

一、開会日時　昭和十年十二月二十七日午前十時

一、開会場所　門司市大字門司二千六百九十九番地ノ一本社内

一、会議ノ目的タル事項

一、自昭和十年六月一日至昭和十年十一月三十日営業報告書財産目録、貸借対照表、損益計算書ノ承認並ニ利益金処分ノ件

二、電気軌道営業廃止ノ件

午前十時二十分取締役賀山正雄議長席ニ着キ開会ヲ宣シ株主人員及株数ヲ左ノ通リ報告ス

本期末株主総人員　千七百五十一人

総株数　五万株

内

出席株主人員（委任状共）　三十六人

此ノ株数（〃）　二万千三百六十六株

一、決議

一、第三十二回営業報告書、財産目録、貸借対照表、損益計算書ノ承認並ニ利益金処分ノ件

右原案通リ承認並ニ可決

二、電気軌道営業廃止ノ件

現ニ運輸営業中ノ門司市東本町三丁目ヨリ仝市田ノ浦ニ至ル区間ハ運輸営業ヲ廃止シ特許線門司市田ノ浦ヨリ鳴竹花山通リヲ経テ大字門司ニ至ル區間ハ起業ヲ廃止スルコト其ノ時期方法等ハ一切重役会ニ一任スルコトニ可決

一、議事

議長　議事ニ入ルニ先チ監査役ノ報告ヲ求ム

監査役　丸山郁三監査役ヲ代表シ第三十二回営業報告書、財産目録貸借対照表、損益計算書ニ就キ詳細ニ調査スルニ何レモ正確適法ニシテ利益金処分案ハ妥当ト認ムル旨報告ス

議長　一号議案、第三十二回営業報告書、財産目録、貸借対照表損益計算書並ニ利益金処分案ヲ一括議題ニ供シタシ　内容ハ朗読ヲ省略シ御手許ヘ配布ノ印刷物ニテ御承知アリタシ　尚御不審ノ点アラバ説明スベシ

株主　佐村静之　原案ニ異議ナシ

株主　田辺倉太郎　異議ナシ

議長　然ラバ第一号議案ニ就テハ承認並ニ決議ヲ得タリ

次テ第二号議案ニツキ御決議ヲ得タシ

当社電気軌道ハ門司市東本町三丁目ヨリ仝市田ノ浦ニ至ル間ハ

乗合自働車ノ発達ニ依リ乗客ヲ奪ハレ経営困難ニ陥リタルヲ以テ曩ニ株主総会ノ決議ヲ経テ九州電気軌道株式会社ヘ三ケ年間無償委任経営中ノ処右契約期限満了後ハ九州電気軌道株式会社ニ於テ其ノ経営継続セサル旨通告ニ接シタルヲ以テ爾来再三折衝ヲ重ネタルモ当社電気軌道施設物ハ既ニ十余年ヲ経過シ経年ニ依ル腐朽磨滅ノ程度甚ダシク之レガ改修ニ十二三万円ノ巨額ヲ投スルニアラザレバ到底営業ヲ継続スル能ハザル状態ニ在リ且ツ沿線ニハ乗合自働車ノ競争モアリテ収支相償ハズ従ツテ九州電気軌道株式会社ニ於テモ委任経営ヲ継続スルコト不可能ナルノミナラス軌道買収ノ意志絶対ニナキタメ遺憾ナガラ運輸営業廃止ノ止ムナキニ立至リタル次第ナリ

田ノ浦ヨリ鳴竹花山通リヲ経テ大字門司（長谷）ニ至ル間ノ電気軌道ハ曩キニ其筋ノ特許ヲ得目下工事施行認可申請中ナルガ前述東本町田ノ浦間ノ軌道撤去後本区間ノミノ起業経営ハ到底困難ナルヲ以テ一先起業ノ廃止ヲナシ将来交通運輸ノ状勢ニ依リ改テ特許申請ヲナスコトニ致シ度シ以上其ノ時期方法等ハ一切重役会ニ一任スルコトニ御決議相成タシ

株主　田辺倉太郎　軌条ノ如キハ如何ナルヤ

議長　軌道施設物ハ当社ノ所有ナルヲ以テ撤去後ハ当社ニ於テ之ヲ処分スルコトヽナリ道路ノ復旧工事費ニ充当スル予定ナリ

株主　田辺倉太郎　議案異議ナシ

議長　二号議案ニツキ御決議願度シ

株主　佐村静之　異議ナシ

株主　田辺倉太郎　当社資本減少ノ件ハ従来屢々希望ヲ述ヘタル処ナルガ未ダ実行ノ運ビニ立至ラサルヤ

議長　本件ハ重大ナル問題ナルヲ以テ其後種々ノ調査ヲナシ研究中ニアリ

議長　閉会ヲ告ク于時午前十時四十分

以上

昭和十年十二月二十七日

議長　取締役　賀山正雄

書記　榊原正之

監督局長
施設課長
供覧

監督局 監第2320號 10.11.6

道第五一五四號

昭和十年十一月五日

福岡縣知事 畑山四男美

鐵道大臣 内田信也殿
内務大臣 後藤文夫殿

起業廢止許可一時保留願進達ノ件

門司築港株式會社ヨリ標記ノ件別紙ノ通出願來候處右ハ會社ノ都合上一時保留ノ已ムナキモノト被認候條特ニ御詮議相成度

補考

会社申出要旨
更ニ研究調査ノ要有之ニ付廃止許可ノ一時保留方相成度
尚右ノ旨電報ニテモ申出アリタリ

福岡縣

232

裏面白紙

門發第三三號

御願

大正十五年八月十九日付監第八〇九号ヲ以テ御許可ヲ得タル弊社電氣鉄道特許線門司市大字田ノ浦ヨリ同市大字門司ニ至ル一區間ハ本年九月二十六日付門発第二三号ヲ以テ起業廃止許可ノ申請候處右ニ付更ニ研究調査ノ必要相生シ候間起業廃止ノ許可ヲ一時保留被成下度此段及御願候也

昭和十年十月三十一日

門司市大字門司二千六百五十九番地 二千七百番地ノ一

門司築港株式会社

取締役 賀山正雄

鉄道大臣 内田信也殿

内務大臣 後藤文夫殿

福岡縣 受付 10.11.2 道 第5754號

供覧

監督局
監軌第二一二〇號
11. 6. 8

道第二〇三一號

昭和十一年六月四日

福岡縣知事

鐵道省監督局長殿
内務省土木局長殿

軌道特許狀返納ニ關スル件

本年四月一日附監軌第二一二〇號ヲ以テ通牒相成候門司築港株式會社標記ノ件ハ別途鐵道内務兩大臣宛進達取計候條可然御取計相煩度

備考
門司築港事業廃止許可 昭和一一、四、一
官報掲載 仝 一一、四、六

第一種保存

福岡縣

裏面白紙

114.

11. 6. 8. 監5171號

道第二〇三一號

昭和十一年六月四日

福岡縣知事 畑山四男美

鐵道大臣 前田米藏殿
內務大臣 潮惠之輔殿

軌道特許狀返納ニ關スル件

本年四月一日附監軌第六三三號ヲ以テ門司築港株式會社軌道起業廢止許可ニ伴ヒ同社ヨリ別紙ノ通特許狀返納シ來候條及進達候

福岡縣

裏面白紙

監第八〇九號（福岡縣經由）

特許狀

門司築港株式會社

右申請ニ係ル門司市大字田野浦ヨリ同市大字門司ニ至ル軌道ヲ敷設シ旅客及貨物ノ運輸營業ヲ爲スコトヲ特許ス

軌道法第五條ニ依ル認可申請ハ大正十六年六月十八日迄ニ之ヲ爲スヘシ

大正十五年八月十九日

鐵道大臣子爵　井上匡四郎

内務大臣　濱口雄幸

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan